

# 高齢者の生活・介護等に関する実態調査結果概要

## ◆ アンケート調査の概要

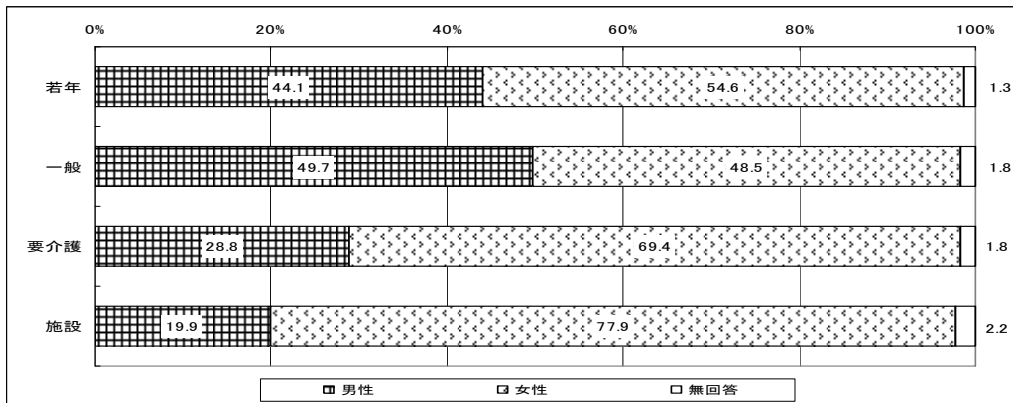
### 1. 若年者、一般高齢者、要介護者、施設入所者の比較

#### (1) 対象者の属性

##### ① 性別

対象者の性別は、一般高齢者は男女比がほぼ同割合であるのに対し、要介護者、施設入所者ともに女性の割合が高くなっており、要介護者で女性が約 70%、施設入所者で約 78%となっています。

図表 1 性別

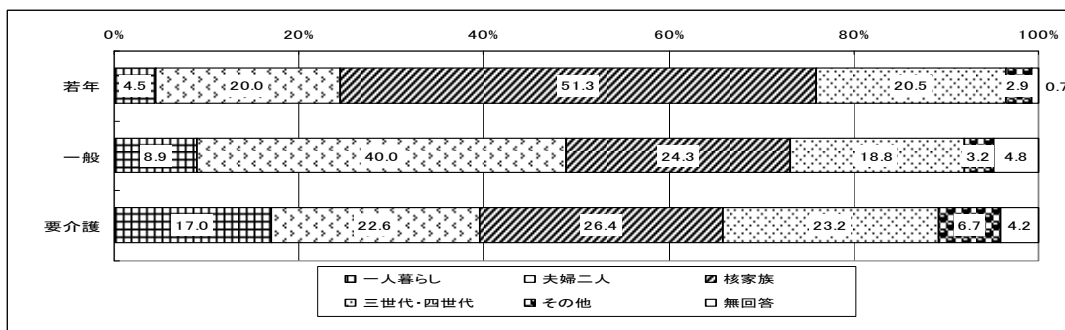


##### ② 家族構成

家族構成については、若年者は「核家族」が半数を占めています。一方、一般高齢者では「夫婦二人暮らし」が 40%、「一人暮らし」が約 9%で、概ね高齢者のみの世帯が半数近くとなっています。要介護者も「夫婦二人暮らし」が約 23%、「一人暮らし」が 17%と、約 40%が概ね高齢者のみの世帯となっています。

世帯の平均人員は、若年者が 3.42 人、一般高齢者が 2.87 人、要介護者が 2.96 人となっており、若年者は「核家族」の割合が高いこともあり、やや家族人員数が多くなっています。

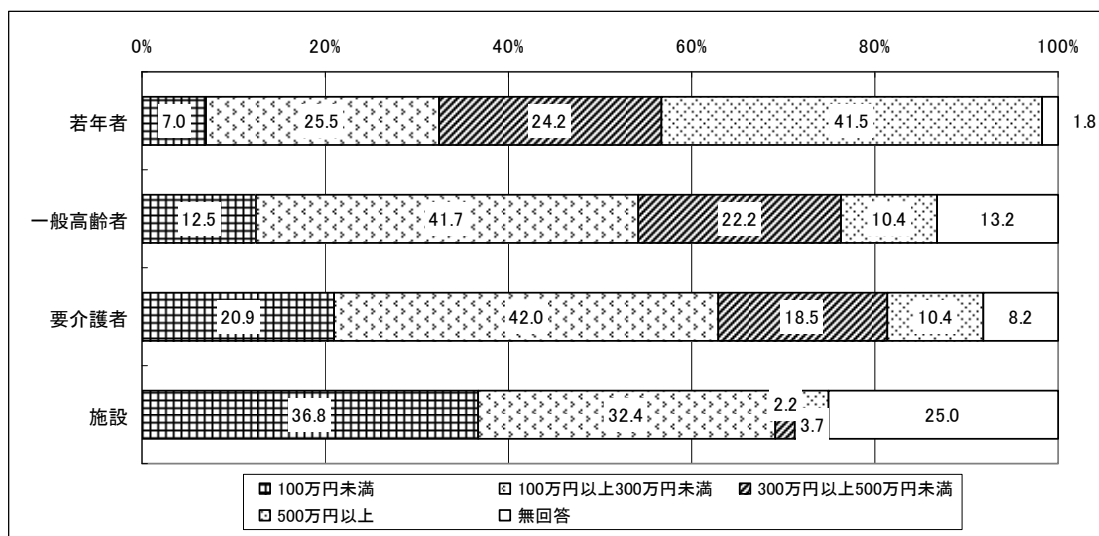
図表 2 家族構成



### ③世帯の収入状況

世帯の収入状況については、一般高齢者、要介護者では「100万円以上300万円未満」がそれぞれ約42%と最も高く、「100万円未満」を含めると、「300万円未満」の世帯は一般高齢者が約54%、要介護者が約63%を占めています。また、施設入所者では「100万円未満」が約37%と最も高くなっています。一方、若年者は「500万円以上」の割合が約42%と最も高くなっています。

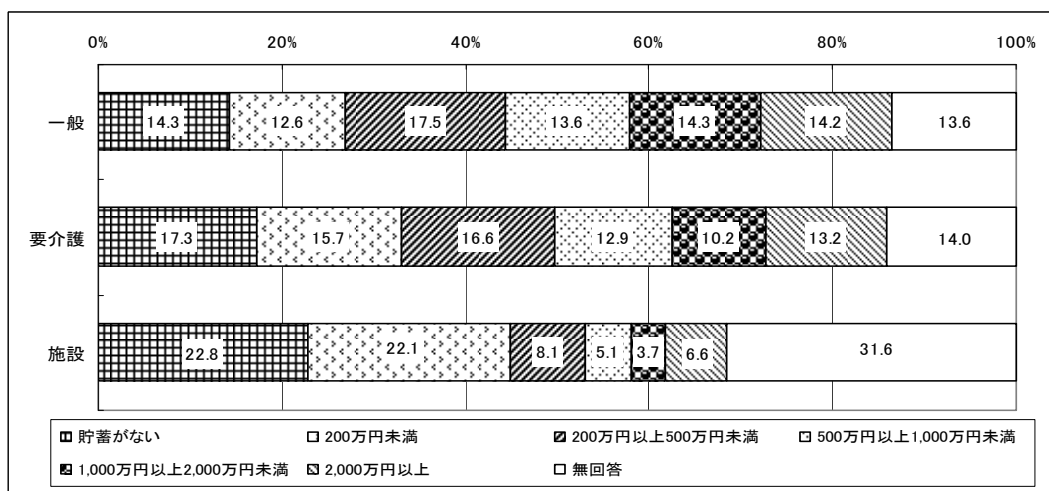
図表3 世帯の収入状況



### ④世帯の貯蓄額

世帯の貯蓄額については、一般高齢者と要介護者では、貯蓄額の層はほぼ同じような割合となっていますが、要介護者の方が一般高齢者よりやや貯蓄額が低い層の割合が高くなっています。一方、施設入所者では、「貯蓄がない」、「200万円未満」といった200万円未満が全体の約45%います。

図表4 世帯の貯蓄額

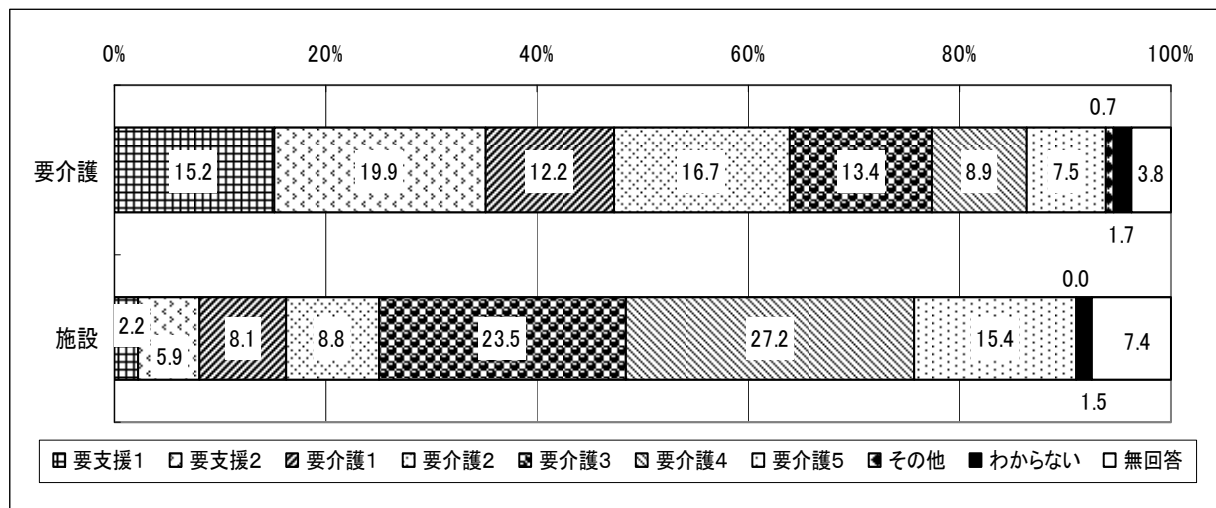


## (2) 心身の状況

### ① 要介護度

現在の介護状態については、要介護者では、「要支援1、2」、「要介護1」といった比較的軽度者が約半数を占めているのに対し、施設入所者では「要介護4、5」といった重度者が約43%、「要介護2、3」といった中度者が約32%となっており、施設入所者での重度化がうかがえます。

図表5 要介護度

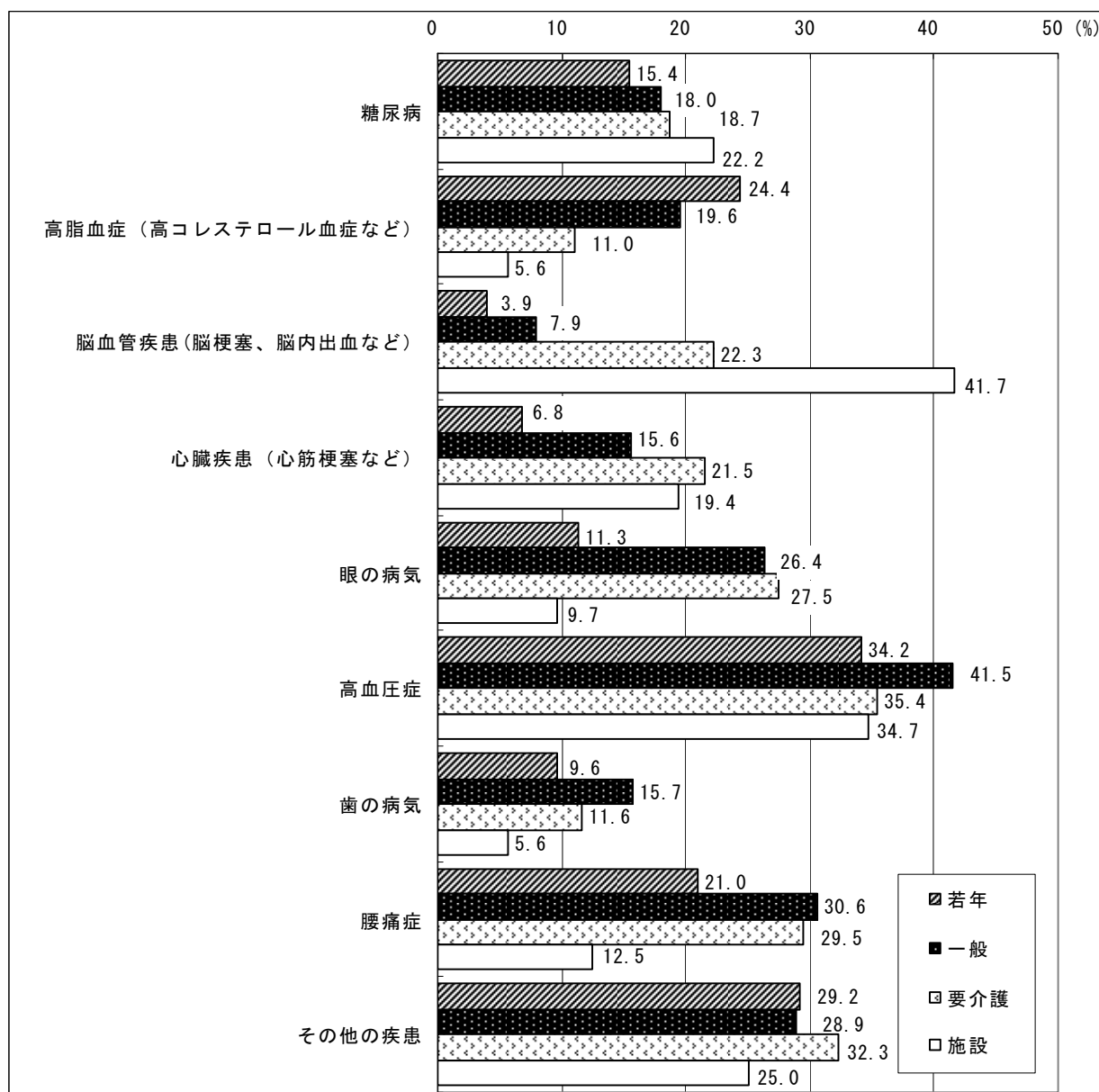


## ②治療中の疾患や疾患以外で気になること

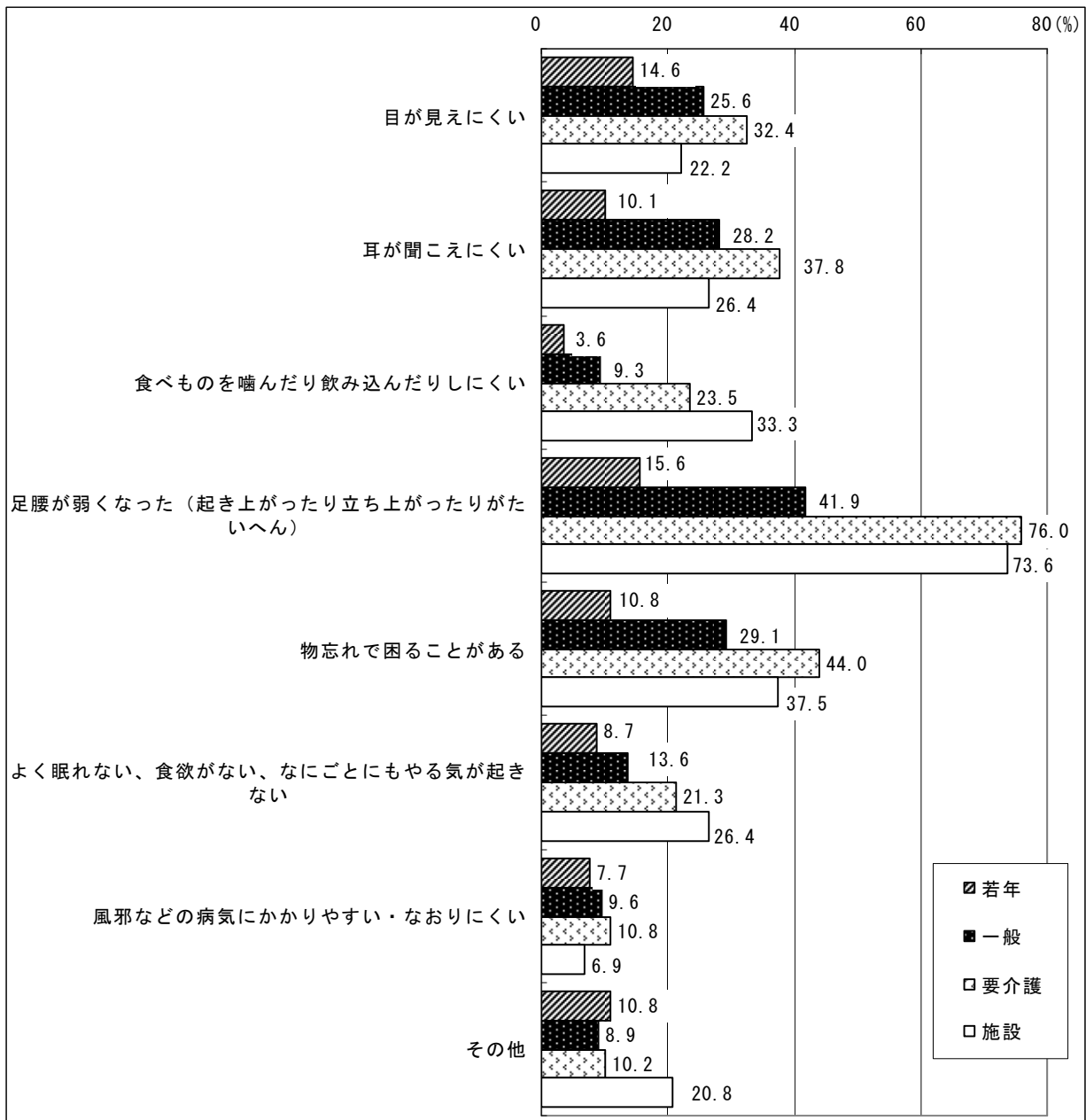
現在治療中の疾患については、若年者、一般高齢者、要介護者ともに「高血圧症」をあげる人の割合が最も高くなっています。その次に高いのは、一般高齢者、要介護者では「腰痛症」が、若年者では「高脂血症（高コレステロール血症）」となっています。また、施設入所者では「脳血管疾患（脳梗塞、脳内出血など）」をあげる人の割合が最も高く、次いで、「高血圧症」となっています。

また、疾患以外で気になる症状については、一般高齢者、要介護者、施設入所者ともに「足腰が弱くなった（起き上がったり立ち上がったりがたいへん）」をあげる人の割合が最も高く、特に要介護者、施設入所者の約75%前後があげています。

図表6 治療中の疾患（複数回答）



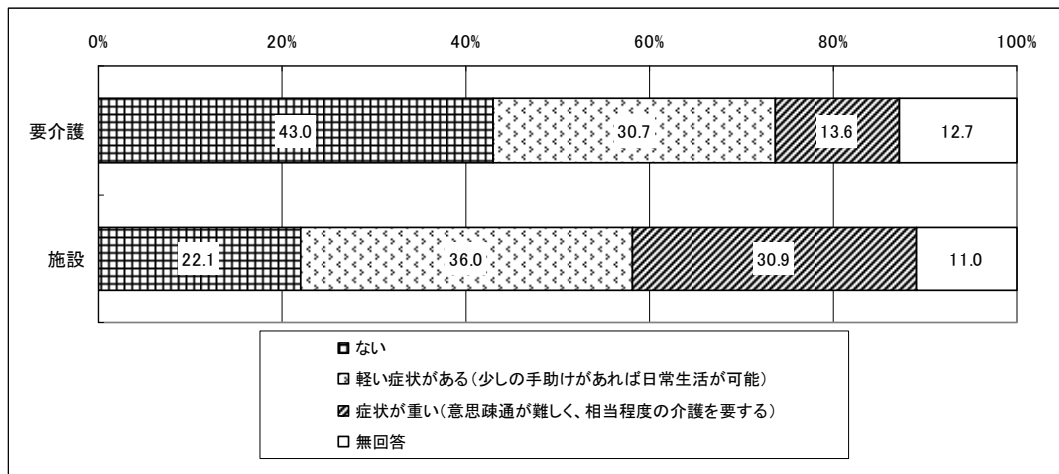
図表7 疾患以外で気になる症状（複数回答）



### ③認知症の症状の有無

認知症の有無については、要介護者では「ない」が43%、施設入所者では約22%と要介護者の方が認知症のない人が約21ポイント高くなっています。一方、施設入所者では、認知症があるなかでも「症状が重い」人は約31%と、要介護者に比べて約17ポイント高くなっており、施設入所者は認知症の割合が高く、重度者が多いことがうかがえます。

図表8 認知症の症状の有無

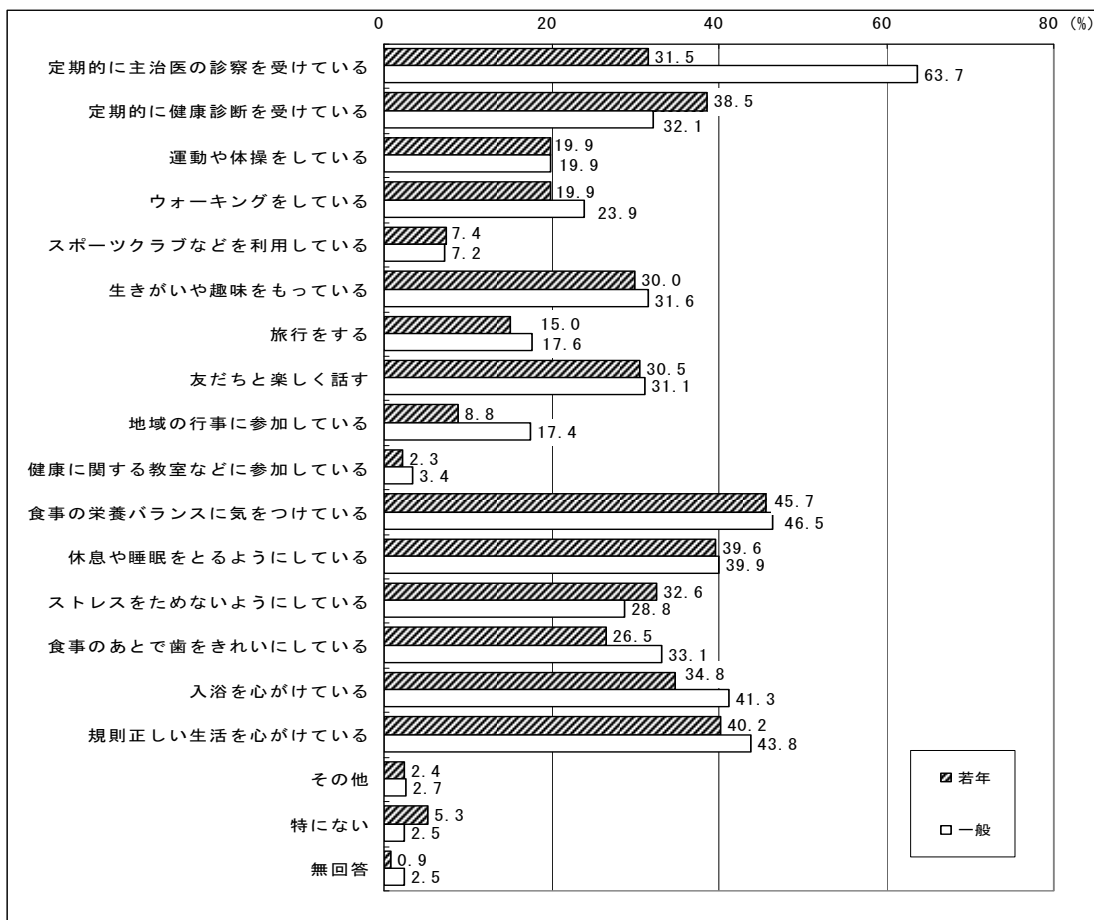


### ④健康維持のためしていること

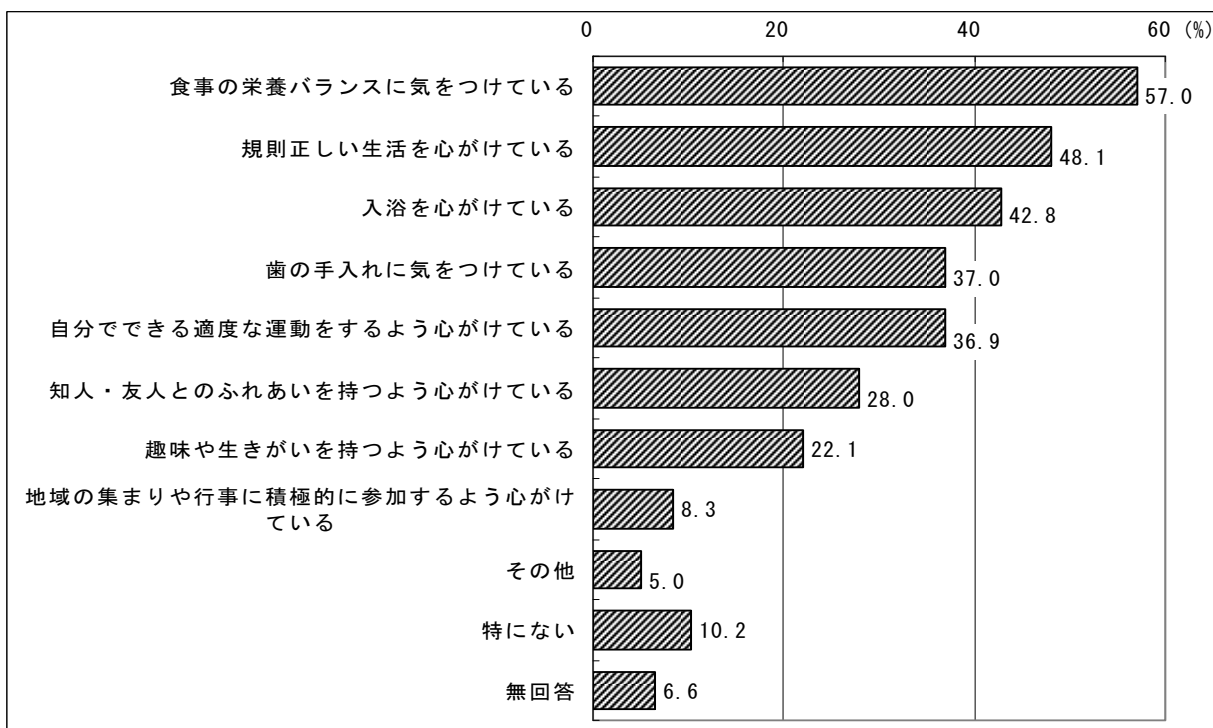
健康維持のためにしていることについては、一般高齢者は「定期的に主治医の診察を受けている」をあげる人が約64%、若年者では「定期的に健康診断を受けている」をあげる人が約39%と、頻度は異なりますが、定期的に自分の疾患の状況や健康状態の把握をしている人が若年者、一般高齢者ともに多くなっています。それ以外では、若年者、一般高齢者ともにあげられているものに大きな違いはみられず、「食事の栄養バランス」や「規則正しい生活」をあげる人がそれぞれ約40~45%程度います。

一般高齢者と要介護者を比較すると、要介護者は「運動や体操をしている」人が約37%おり、一般高齢者に比べて約17ポイント高くなっています。それ以外では、「食事の栄養バランス」や「規則正しい生活」、「食事の後の口腔ケア」などについて要介護者の方が気をつけている人の割合が高くなっています。一方、一般高齢者では、「生きがいや趣味を持っている」、「友達と楽しく話す」、「地域の行事に参加している」といったことに心がけている人の割合が要介護者に比べて高くなっており、一般高齢者は自分の身体の維持だけでなく、社会との交わりの中で健康維持に心がけを、要介護者は自分の身体を中心に健康維持に心がけをしていることがうかがえます。

図表9 健康維持のためしていること[若年者・一般高齢者] (複数回答)



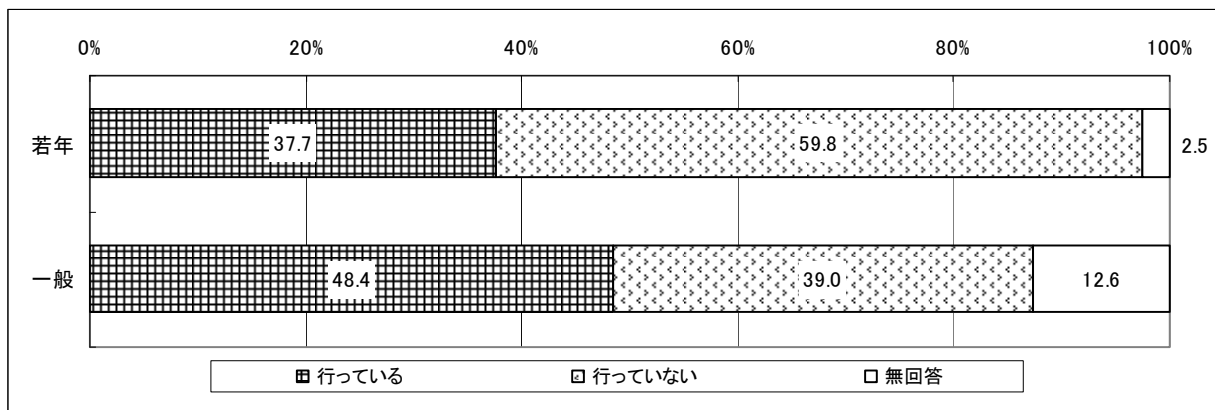
図表10 健康維持のためしていること[要介護者] (複数回答)



### ⑤運動(意識的に体を動かすこと)を習慣的に行っているか

習慣的な運動(意識的に体を動かすこと)の有無については、一般高齢者では「行っている」が約48%と、若年者に比べて約11ポイント高くなっています。一方、若年者の約60%が「行っていない」としており、若年者の運動習慣があまり定着していないことがうかがえます。

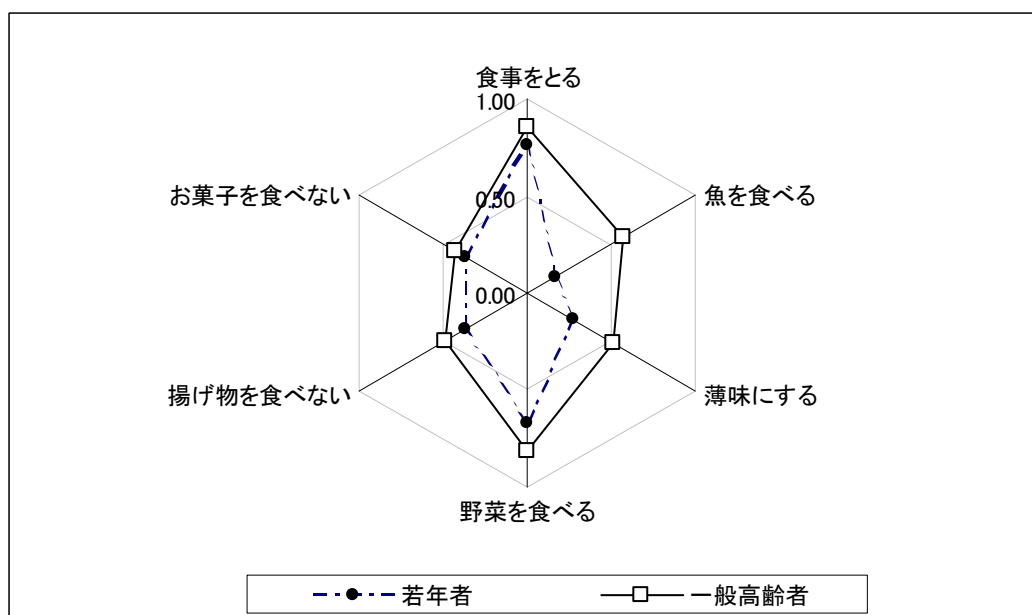
図表 11 運動(意識的に体を動かすこと)を習慣的に行っているか



### ⑥食生活について

一般高齢者、若年者の食生活について指標化を行い比較すると、全項目において一般高齢者の方が平均点が高くなっており、高齢者の食生活への配慮が大きいことがうかがえます。特に、「魚を食べる」、「薄味にする」は大きな差がみられます。

図表 12 食生活について



\* それぞれよい方を+1点、悪い方を-1とし、各項目の平均を計算



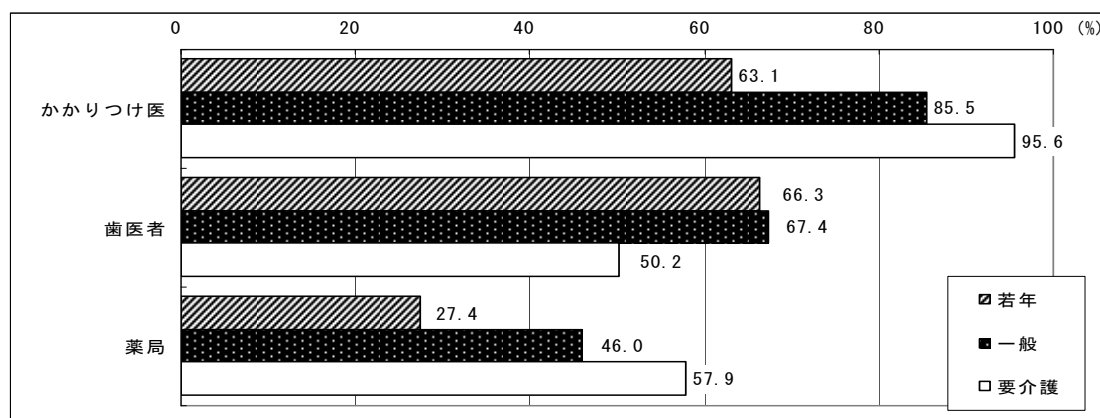
### ⑦かかりつけの医者などの有無

かかりつけの医者は、一般高齢者の約 86%、要介護者の約 96%が「いる」としています。一方、若年者では「いる」人は約 63%となっています。

また、かかりつけの歯医者が「いる」人は、若年者が約 66%、一般高齢者が約 67%となっています。一方、要介護者は約 50%にとどまっています。

かかりつけの薬局が「ある」人は、要介護者が約 58%、一般高齢者が 46%と半数前後の人がかかりつけの薬局があるのに対し、若年者は約 27%にとどまっています。

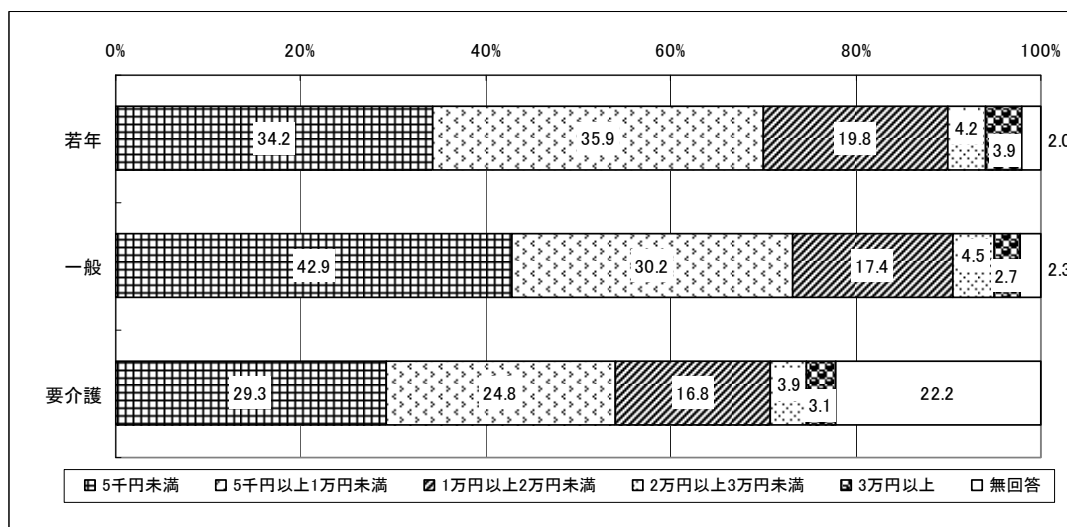
図表 13 かかりつけの医、歯医者、薬局の有無（いる・あるのみ）



### ⑧世帯の1か月の医療費

世帯の1か月の医療費については、一般高齢者、要介護者ともに「5千円未満」の割合が最も高く、それぞれ約 43%、約 30%を占めています。一方、若年者は「5千円未満」と「5千円以上1万円未満」の割合がそれぞれ約 35%とほぼ同割合となっており、一般高齢者、要介護者比べて、若年者の世帯の1か月の医療費がやや高くなっています。

図表 14 世帯の1か月の医療費

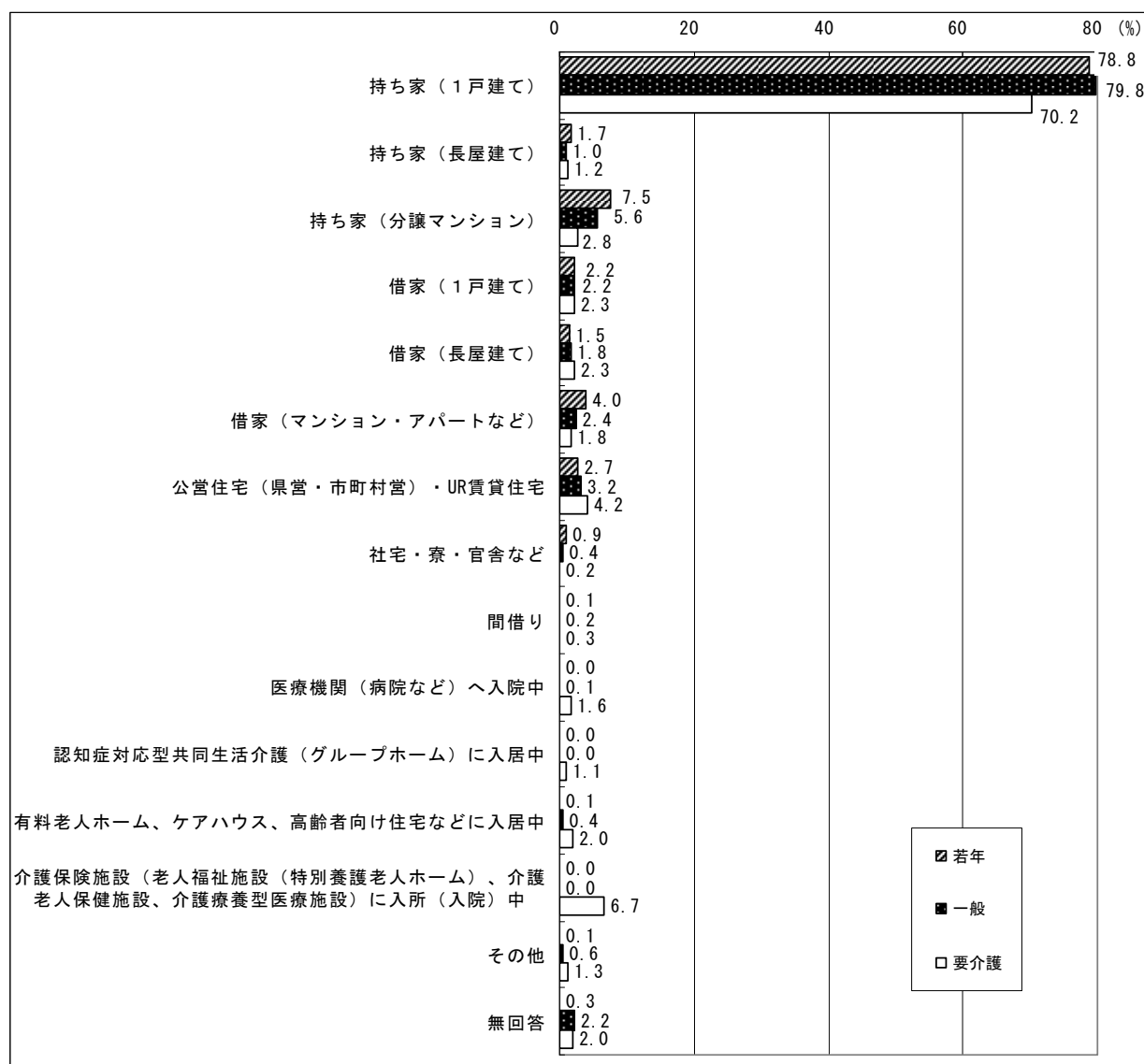


### (3) 日常生活について

#### ① 居住形態

居住形態については、「持ち家（1戸建て）」が若年者で約 79%、一般高齢者が約 80%を占めています。一方、要介護者は約 70%となっています。

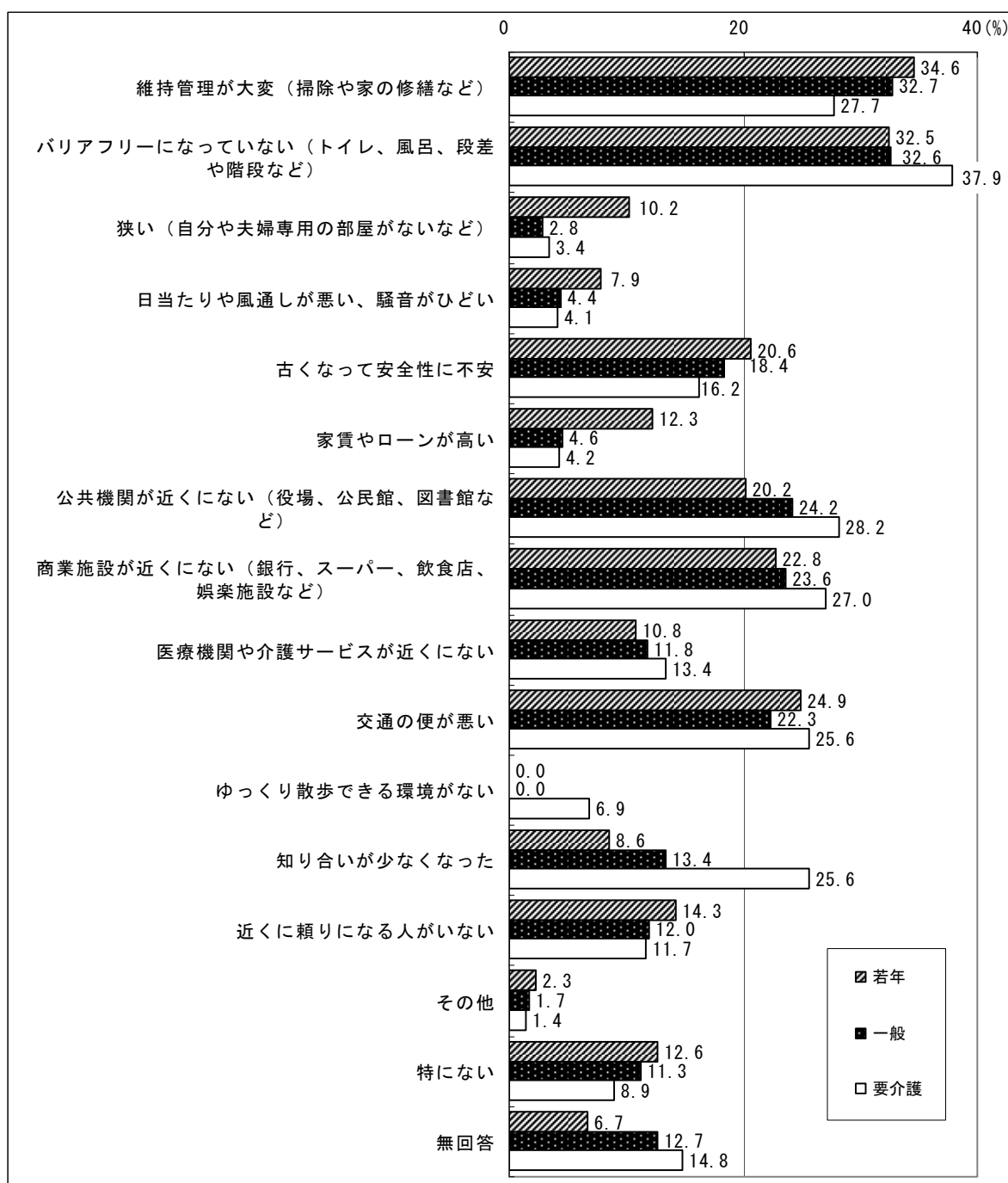
図表 15 居住形態



## ②居住環境での不便や困っていること

居住環境での不便や困っていることについては、若年者、一般高齢者、要介護者ともに上位にあげられているものに大きな違いはみられませんが、「維持管理が大変（掃除や家の修繕など）」、「バリアフリーになっていない（トイレ、風呂、段差や階段など）」をあげる人の割合が高くなっています。上位のもの以外では、要介護者において、若年者や一般高齢者に比べて大きく差がみられたものとしては、「知り合いが少なくなった」をあげる人の割合が高く、一般高齢者と約 12 ポイント、若年者と約 17 ポイントのひらきがあります。

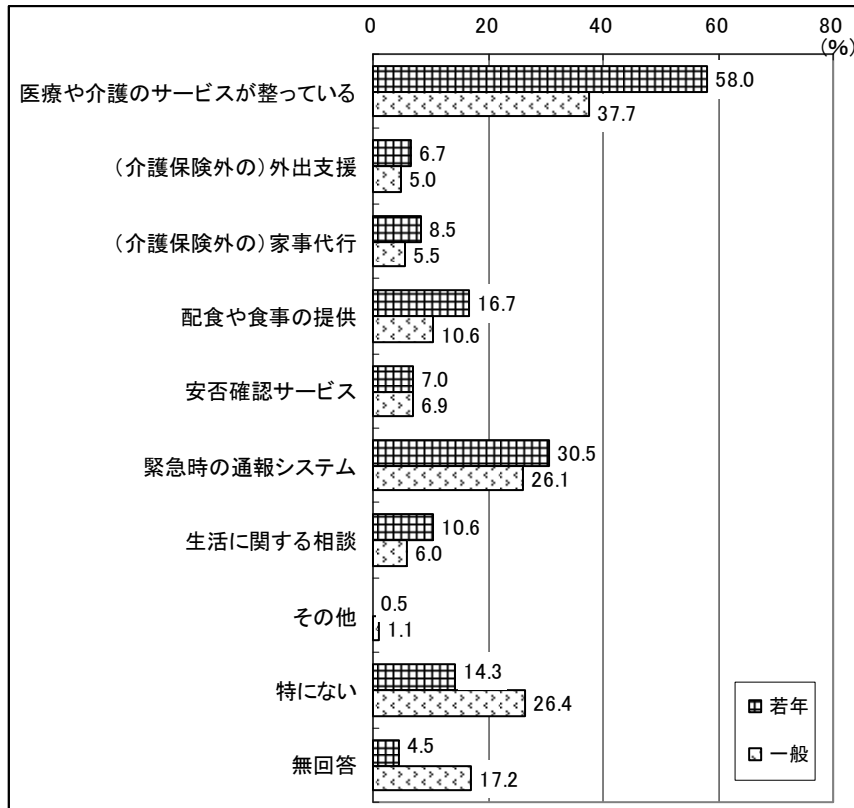
図表 16 居住環境での不便や困っていること（複数回答）



### ③身近なところであればよいサービス

身近なところであればよいサービスについては、若年者、一般高齢者ともに「医療や介護のサービスが整っている」が最も高くなっています。若年者では、次いで、「緊急時の通報システム」が高く、医療や介護、緊急時の対応に不安を持っている人が多いことがうかがえます。

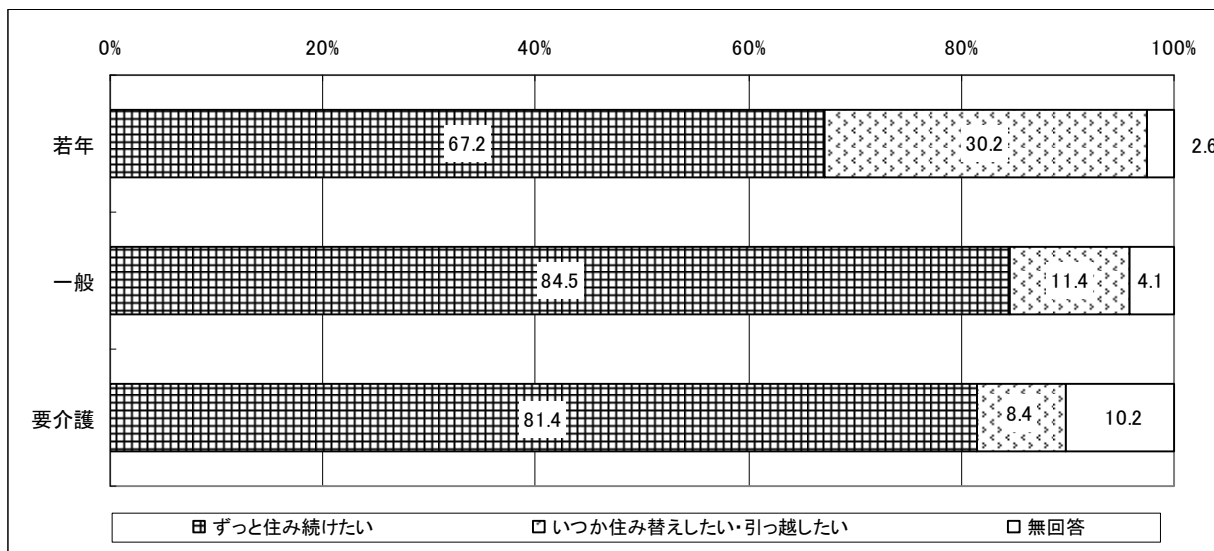
図表 17 身近なところであればよいサービス（複数回答）



#### ④今後も今の自宅で住みたいか

今後も今の自宅で住みたいかについては、「ずっと住みたい」が一般高齢者では約85%、要介護者では約81%であるのに対し、若年者は約67%となっており、若年者の住み替え意向が高くなっています。

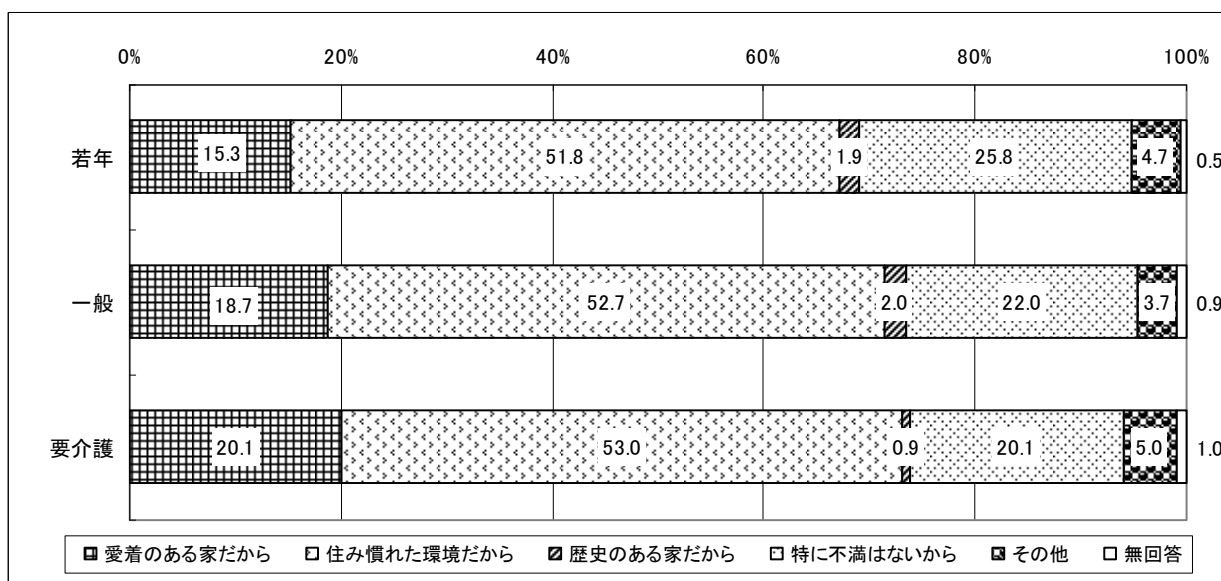
図表 18 今後も今の自宅で住みたいか



#### ⑤住みたい理由

住みたい理由については、若年者、一般高齢者、要介護者ともに半数が「住み慣れた環境だから」をあげています。

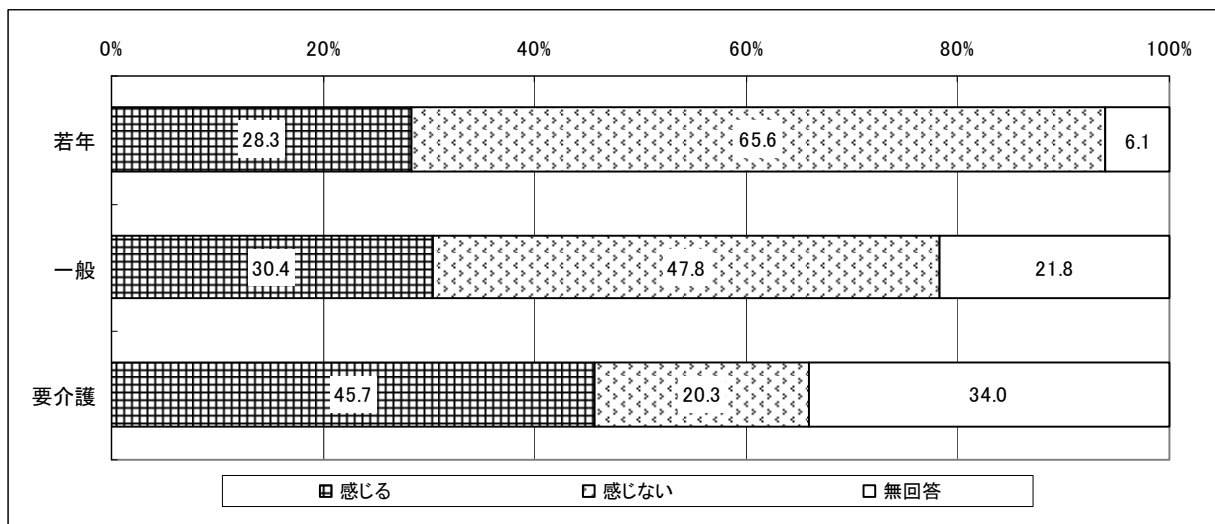
図表 19 住みたい理由



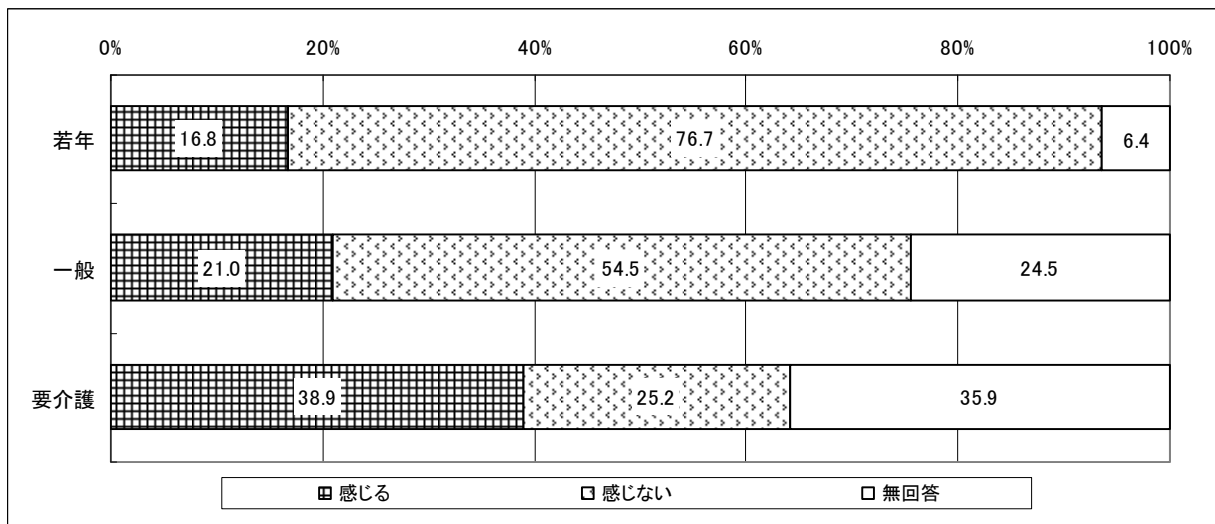
## ⑥家事の負担感

家事の負担感についてきいたところ、若年者の約 66～77%、一般高齢者の約 48～55%が「感じない」としています。一方、要介護者は「感じる」人が約 39～46%おり、要介護者の家事に対する負担感が大きいことがうかがえます。

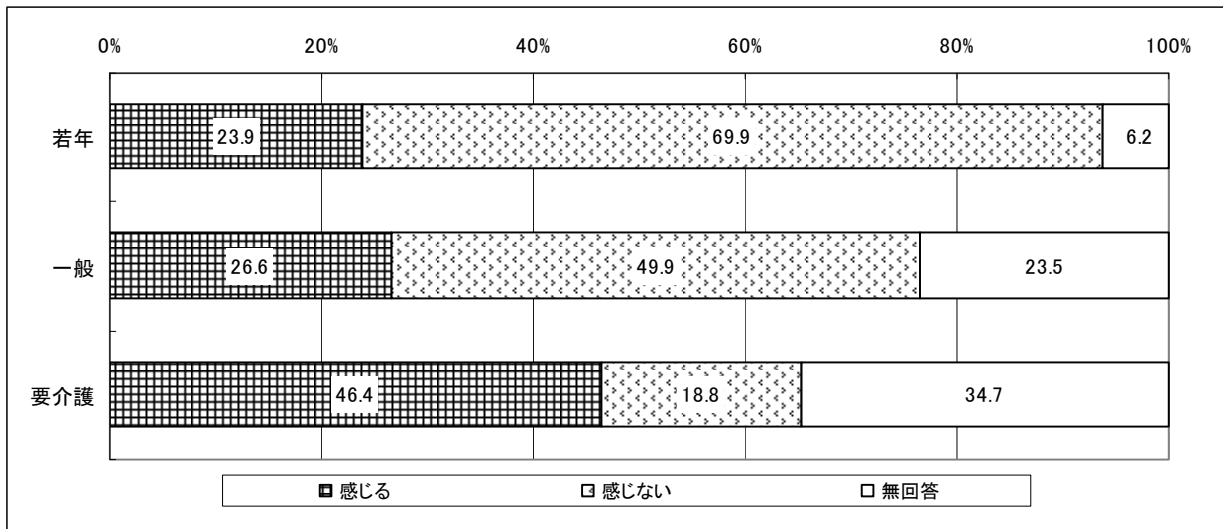
図表 20 家事の負担感[食事の準備]



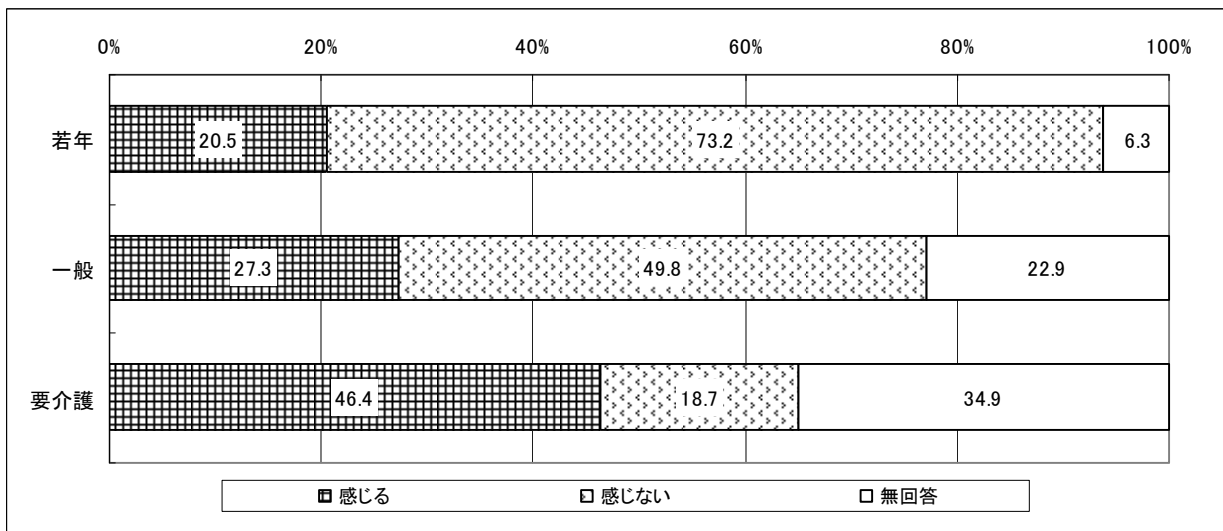
図表 21 家事の負担感[洗濯]



図表 22 家事の負担感[掃除]



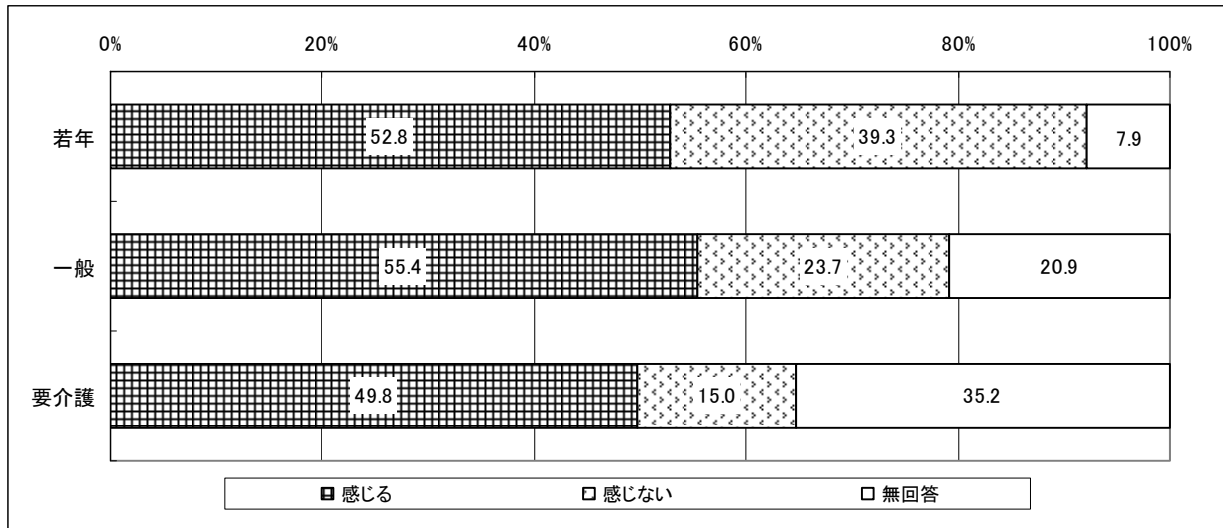
図表 23 家事の負担感[日常の買い物]



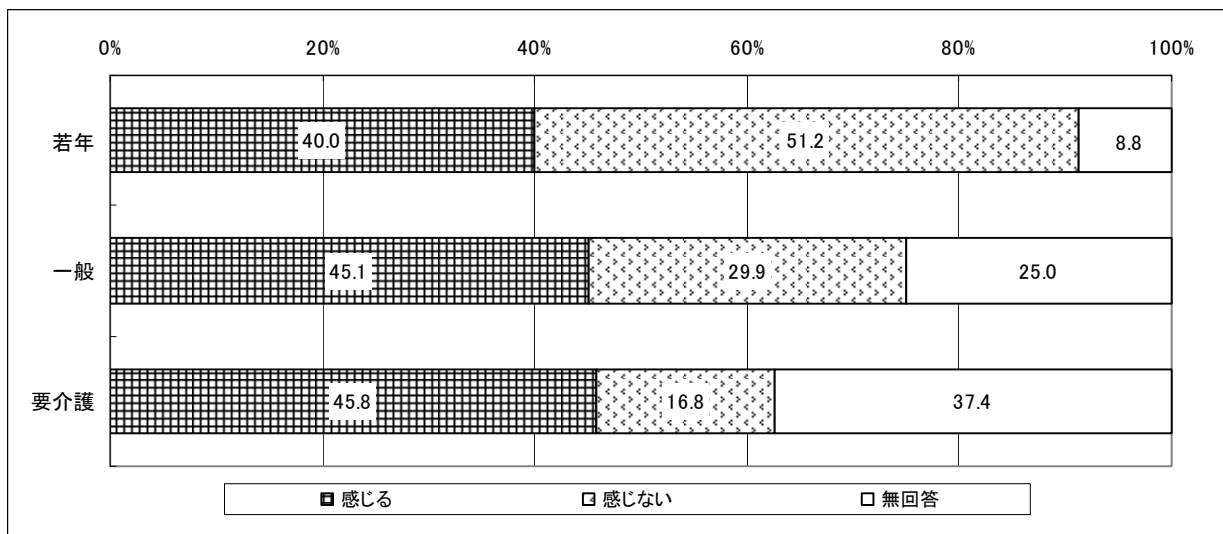
## ⑦家事についての将来の不安

家事についての将来の不安については、若年者、一般高齢者、要介護者ともに大きな違いはみられず、どの家事についても半数前後が「感じる」としています。

図表 24 家事についての将来の不安[食事の準備]

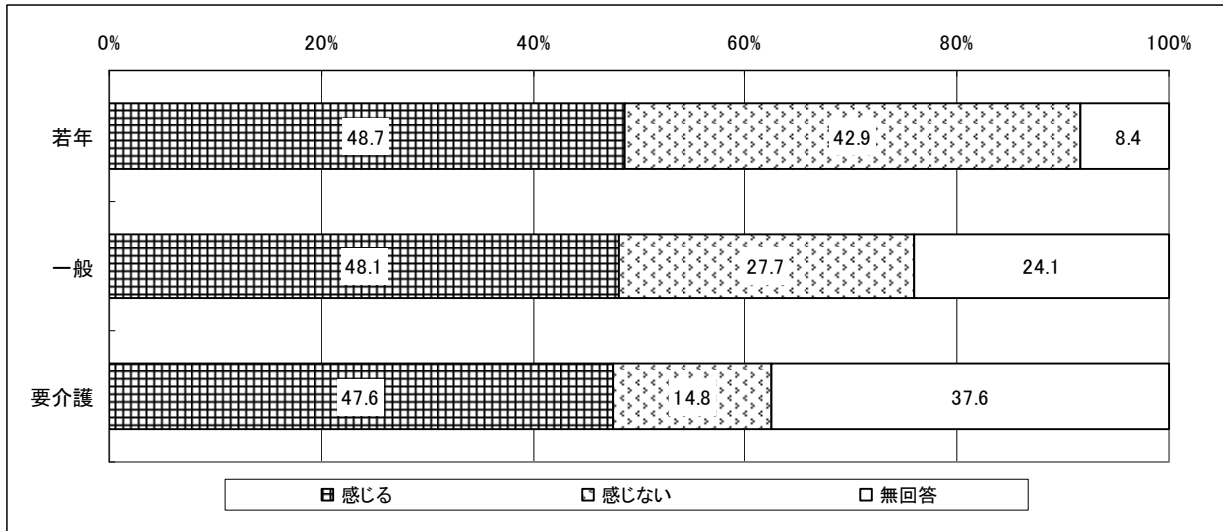


図表 25 家事についての将来の不安[洗濯]

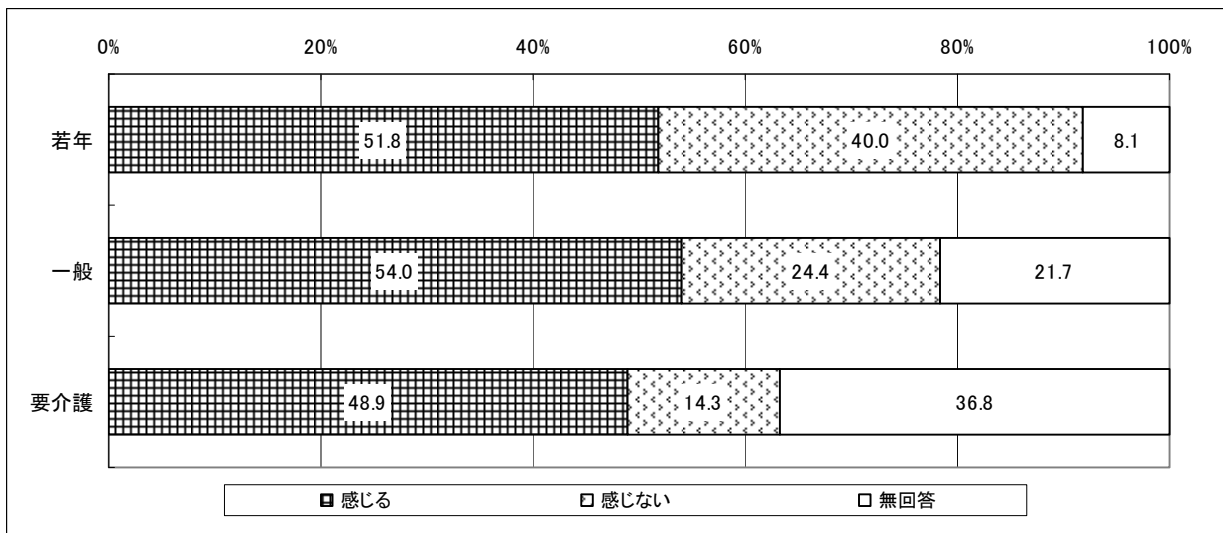




図表 26 家事についての将来の不安[掃除]



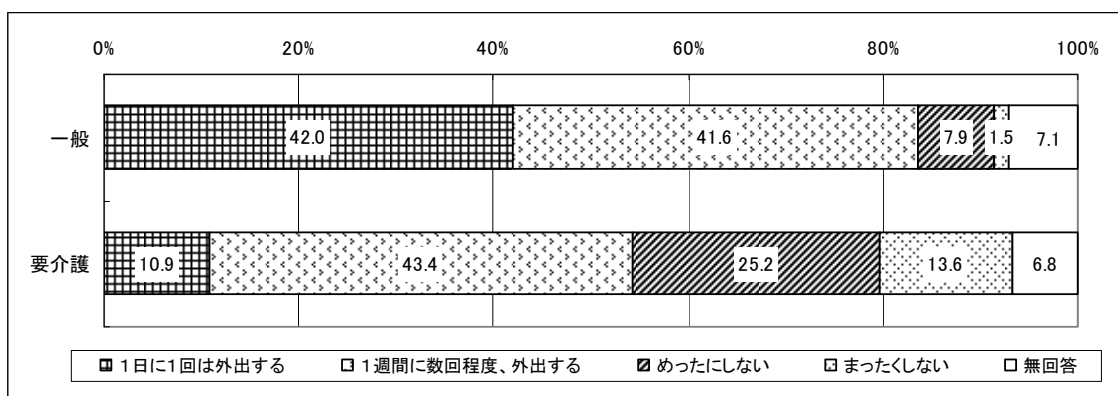
図表 27 家事についての将来の不安[日常の買い物]



## ⑧外出する機会

外出する機会については、「1日に1回は外出する」、「1週間に数回程度、外出する」といった比較的外出する人は、一般高齢者は約84%いるのに対し、要介護者は約54%となっています。一方、要介護者では、「めったにしない」、「まったくしない」といったほとんど外出しない人も約39%います。

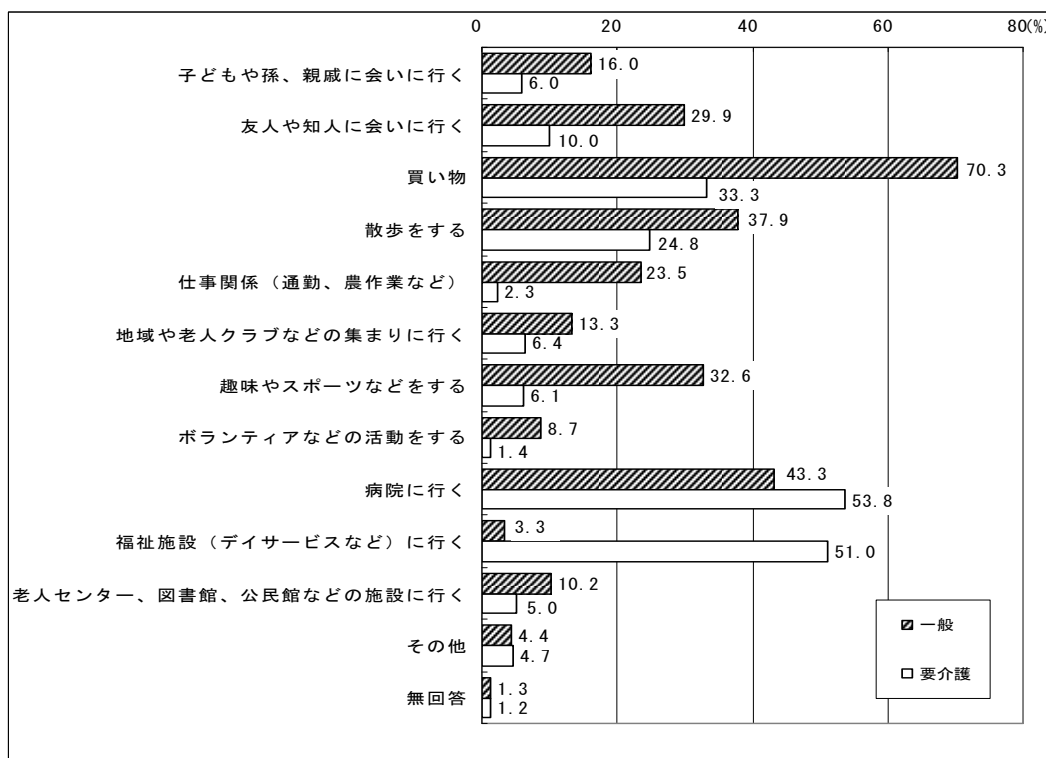
図表 28 外出する機会



## ⑨外出目的

外出目的については、一般高齢者は、「買い物」が約70%、「病院に行く」が約43%、「散歩をする」が約38%であるのに対し、要介護者では「病院に行く」、「福祉施設（デイサービスなど）に行く」がともに半数を超えています。

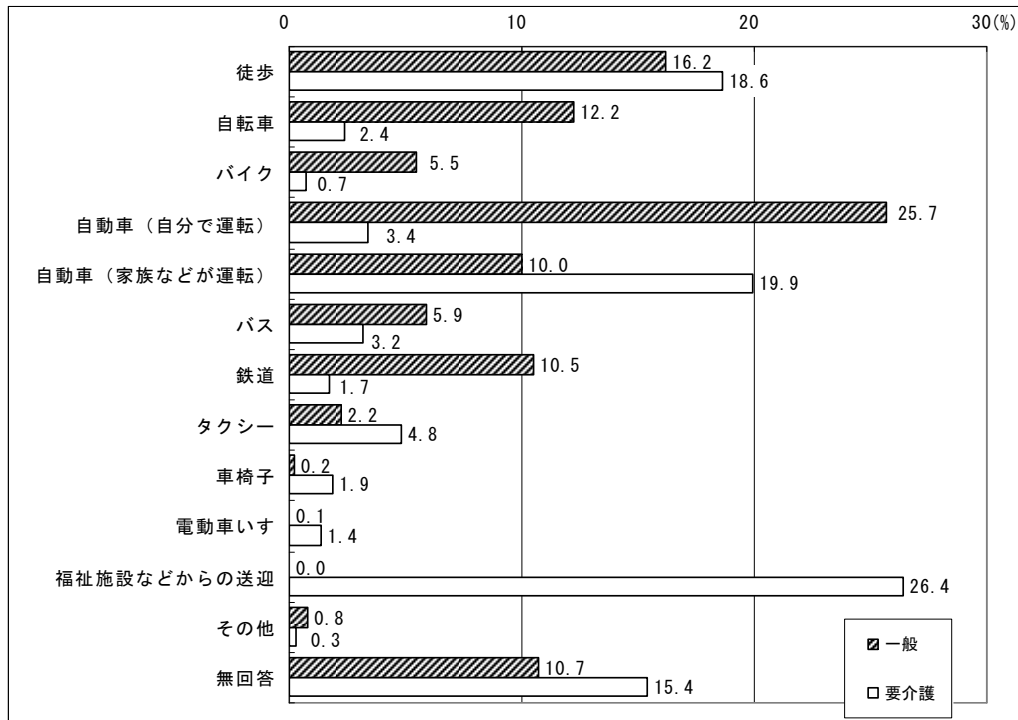
図表 29 外出目的（複数回答）



## ⑩交通手段

交通手段については、一般高齢者は「自動車（自分で運転）」、「徒歩」、「自転車」をあげる人が多いのに対し、要介護者は「福祉施設などからの送迎」、「自動車（家族などが運転）」、「徒歩」をあげる人が多くなっています。

図表 30 交通手段

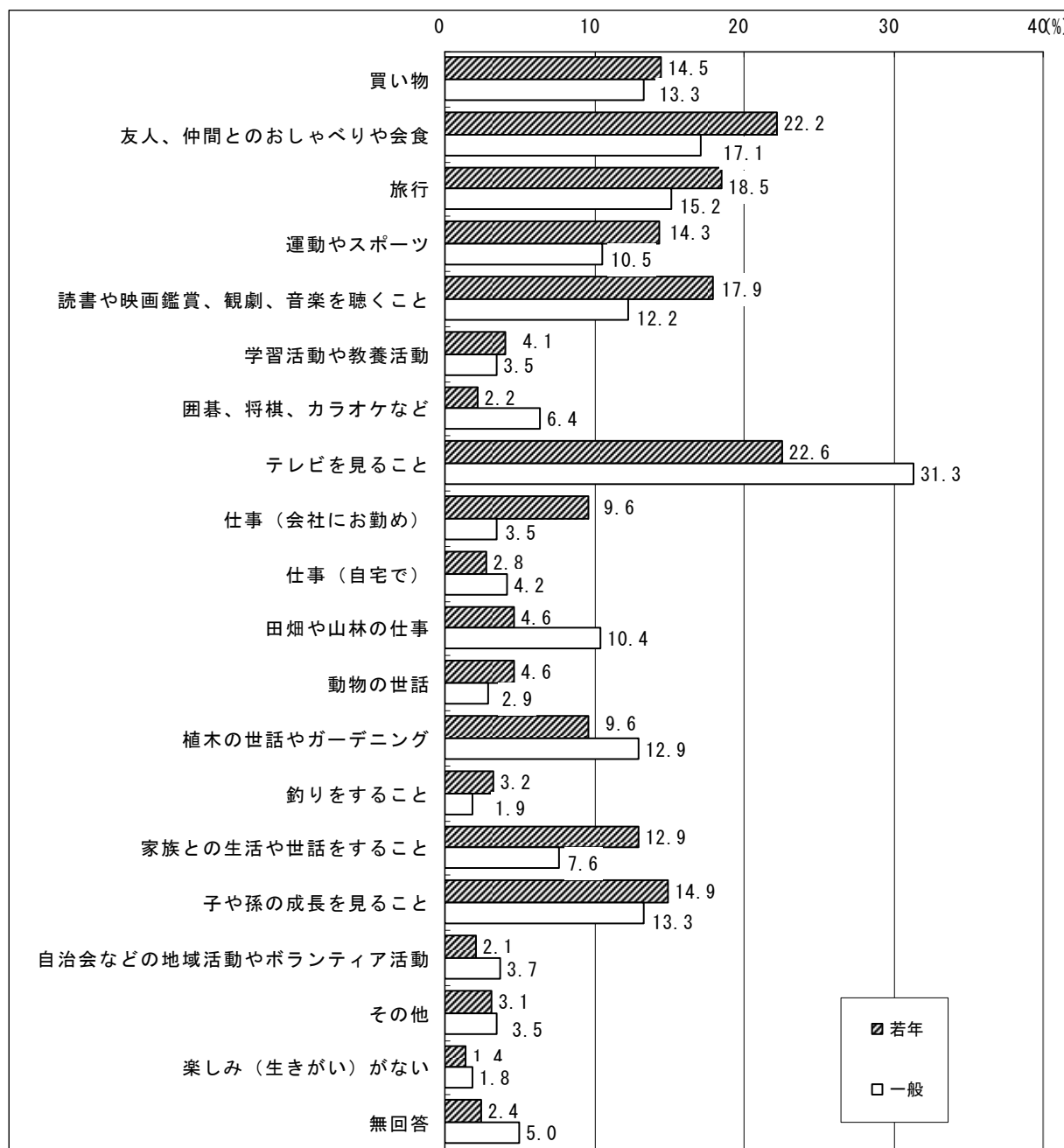


#### (4) 日常の楽しみや生きがい

##### ① 日常の楽しみ(生きがい)

日常の楽しみ(生きがい)については、一般高齢者、若年者ともに「テレビを見ること」、「友人、仲間とおしゃべりや会食」、「旅行」を上位にあげているのは同じとなっています。

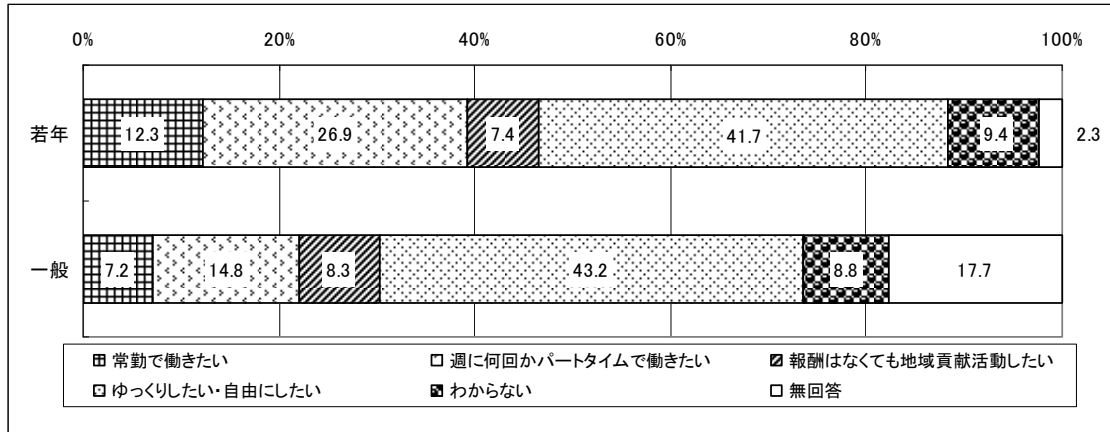
図表 31 日常の楽しみ(生きがい) [2つまで]



### ②65歳以降に働くことや活動することについて

65歳以降に働くことや活動することについては、常勤やパートタイムなど含めて、就労意向がある人は、一般高齢者が22%、若年者が約39%、「報酬はなくても地域貢献活動をしたい」人は一般高齢者が約8%、若年者が約7%、「ゆっくりしたい・自由にしたい」人は一般高齢者が約43%、若年者が約42%となっており、若年者の方が就労意向がある人の割合が約17ポイント高くなっています。それ以外については、ほぼ同割合となっています。

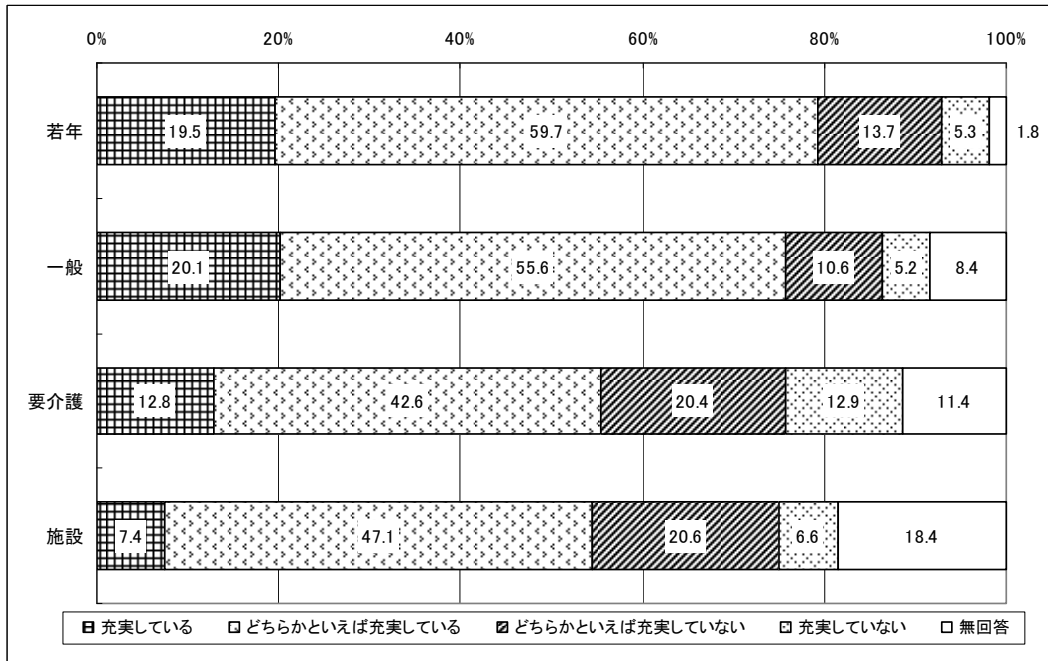
図表 32 65歳以降に働くことや活動することについて



### ③生活の充実度

生活の充実度については、一般高齢者、若年者ともに同様の傾向となっており、概ね充実していると感じている人が約76~79%いますが、要介護者、施設入所者では約55%にとどまっています。

図表 33 生活の充実度

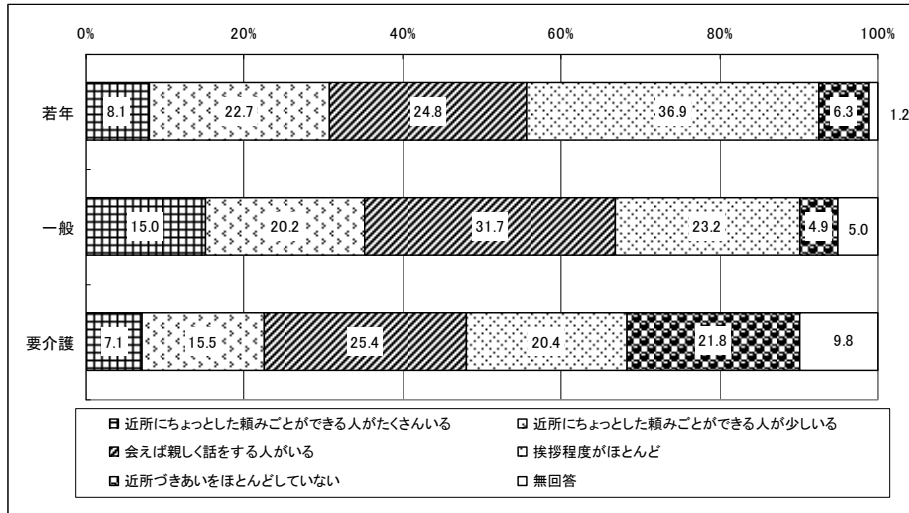


## (5) 地域との関わり方

### ① 近所づきあいの程度

近所づきあいの程度については、比較的親密な近所づきあいをしている人は、一般高齢者が約67%、要介護者が48%、若年者が約56%となっており、一般高齢者は親密な近所づきあいをしている人の割合が他に比べて高くなっています。

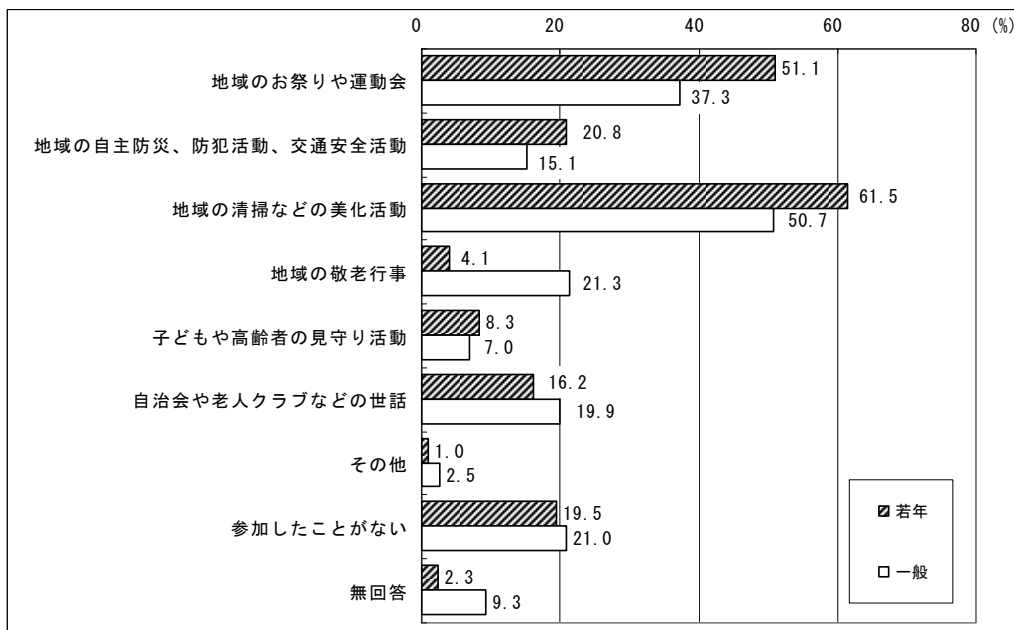
図表 34 近所づきあいの程度



### ② 参加したことがある地域行事や活動等

参加したことがある地域行事や活動等については、一般高齢者、若年者ともに概ね同様の傾向になっていますが、「地域の清掃などの美化活動」、「地域のお祭りや運動会」への参加率が高くなっています。一方、「参加したことがない」はともに20%前後となっています。

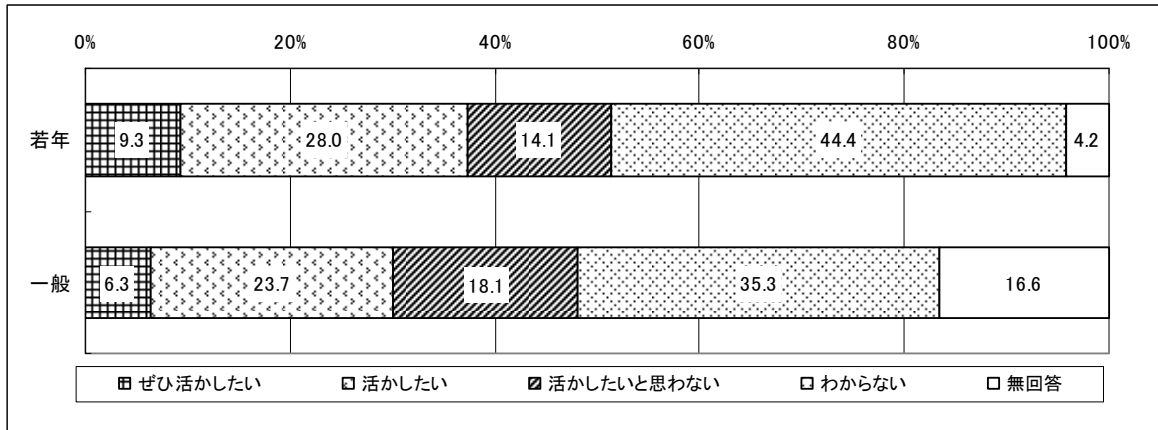
図表 35 参加したことがある地域行事や活動等（複数回答）



### ③高齢期に、経験や技術を活かしていきたいか

高齢期に、経験や技術を活かしていきたいかについては、活かしたいと考えている人が一般高齢者が30%、若年者が約37%います。

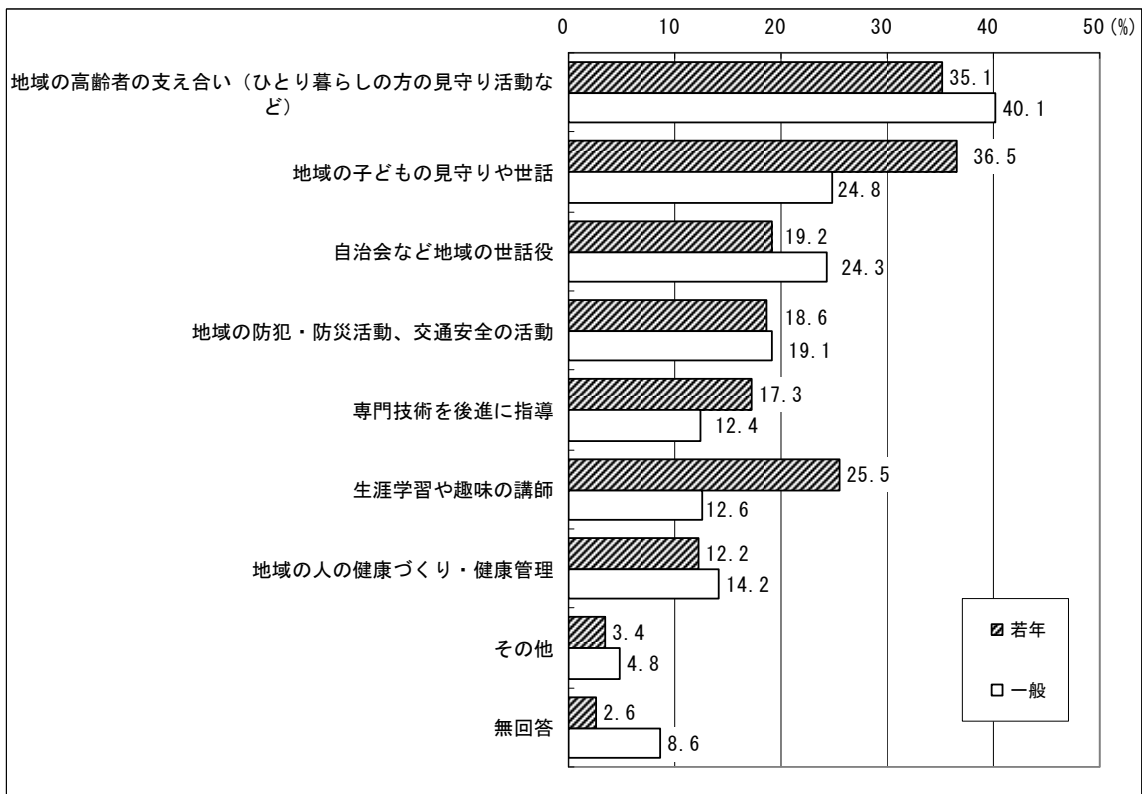
図表 36 高齢期に、経験や技術を活かしていきたいか



### ④経験や技術を活かしたい場面

経験や技術を活かしたい場面については、一般高齢者は「地域の高齢者の支え合い（ひとり暮らしの方の見守り活動など）」の割合が約40%と最も高くなっていますが、若年者は「地域の子どもの見守りや世話」の割合が約37%と最も高くなっています。

図表 37 経験や技術を活かしたい場面（複数回答）

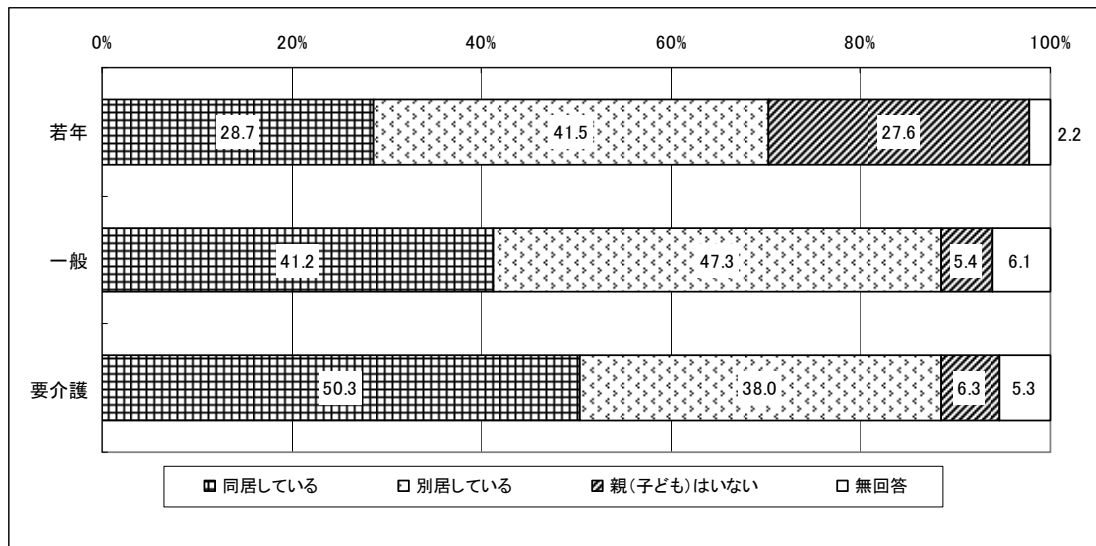


## (6) 世代間のかかわり方

### ① 世帯の同居状況

世帯の同居状況については、「同居している」のは、若年者が約 29%、一般高齢者が約 41%、要介護者が約 50%となっています。

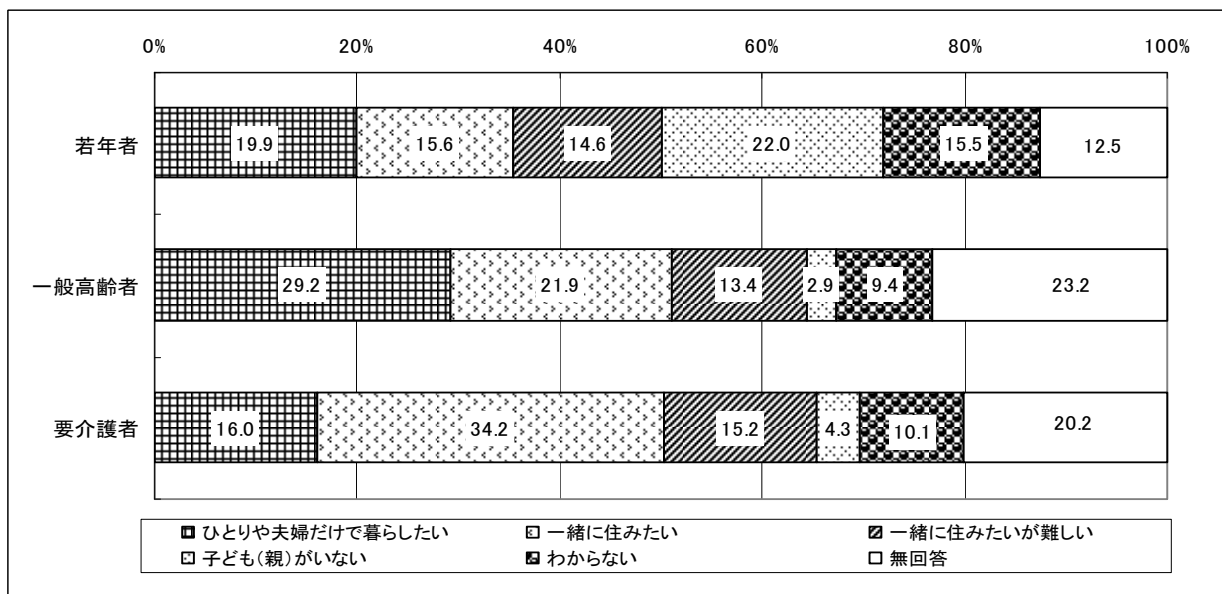
図表 38 世帯の同居状況



### ② 子ども(親)との今後の同居意向

子ども(親)との今後の同居意向については、「ひとりや夫婦だけで暮らしたい」が、若年者で約 20%、一般高齢者で約 29%となっていますが、要介護者は「一緒に住みたい」が約 34%を占めています。

図表 39 子ども(親)との今後の同居意向





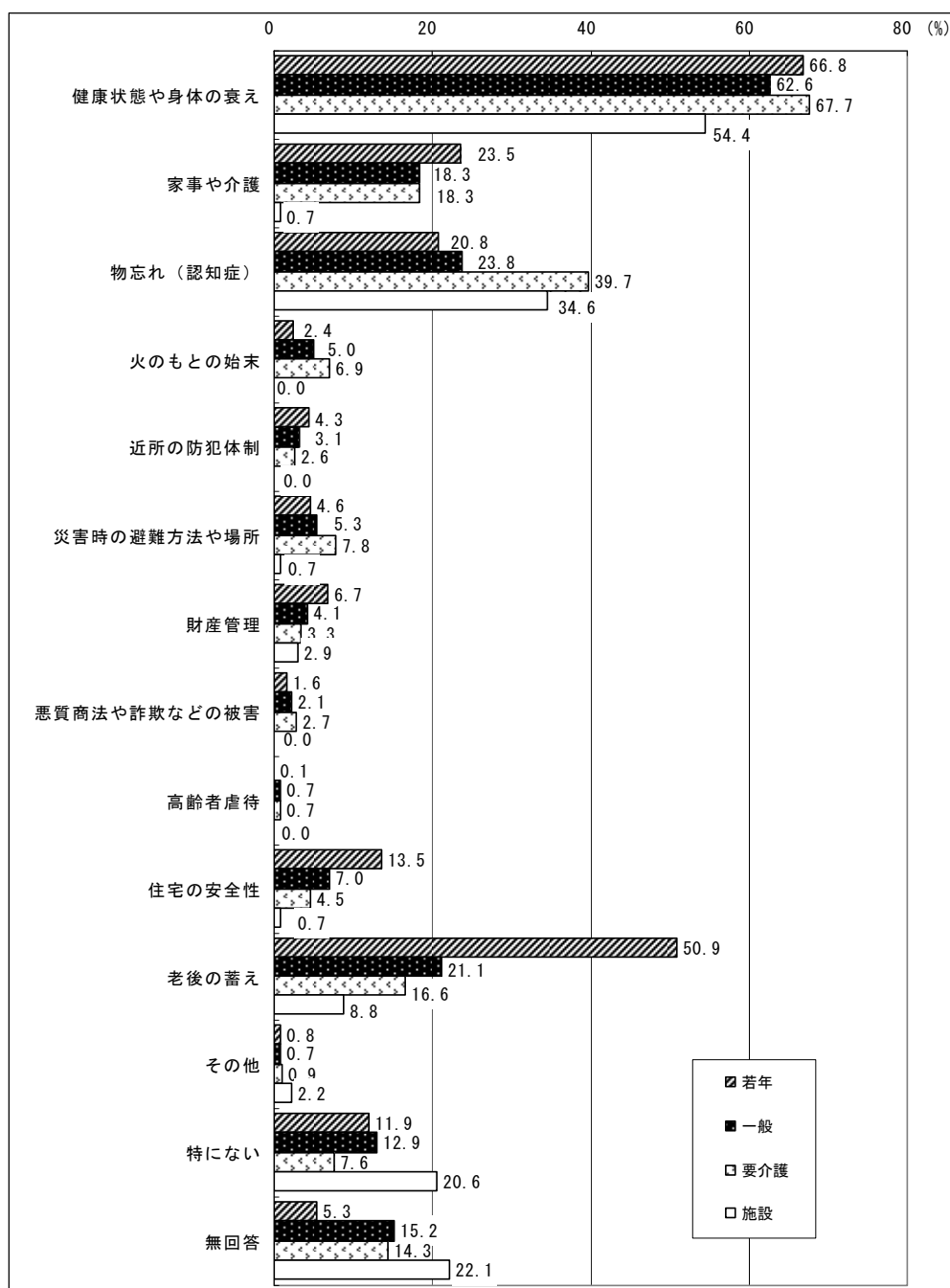
## (7)安全・安心について

### ①自身や身近な人に関する不安

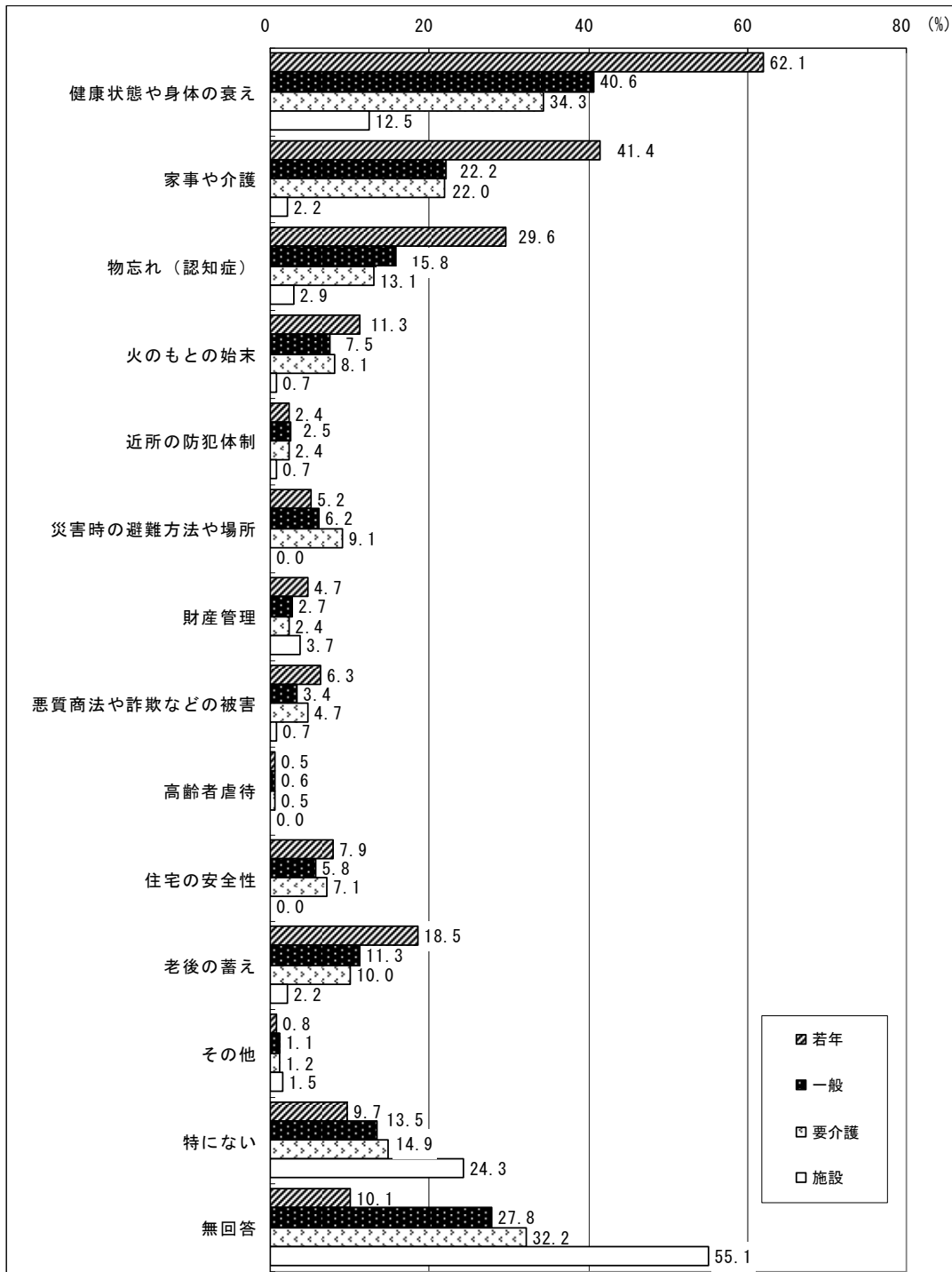
自身に関する不安については、若年者、一般高齢者、要介護者ともに「健康状態や身体の衰え」をあげる人の割合が最も高くなっているのは同じですが、その他では、若年者は「老後の蓄え」を、一般高齢者、要介護者では「物忘れ（認知症）」をあげる人の割合が高くなっています。

また、身近な人に関する不安については、若年者、一般高齢者、要介護者ともに「健康状態や身体の衰え」、「家事や介護」、「物忘れ（認知症）」をあげる人の割合が高くなっています。

図表 40 自身に関する不安（3つまで）



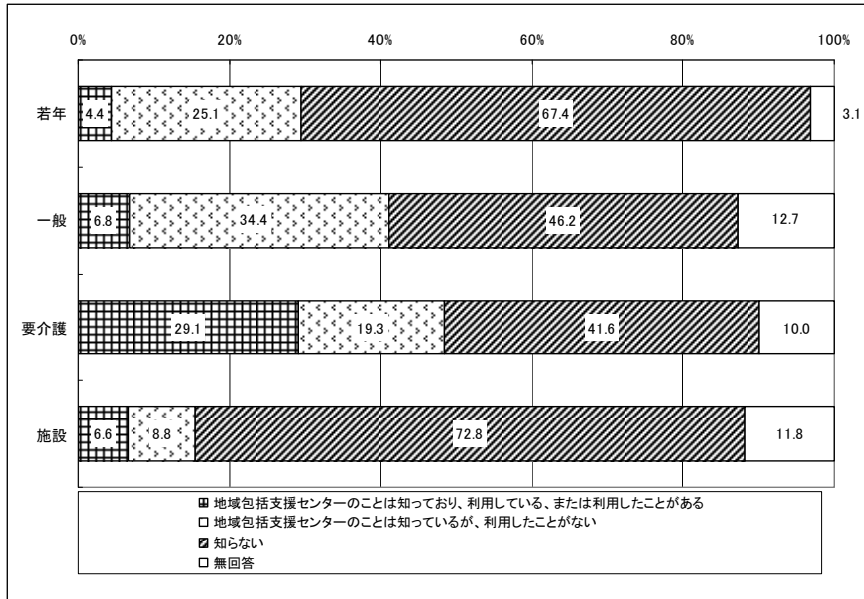
図表 41 身近な人に関する不安 (3つまで)



## ②地域包括支援センターの認知状況

地域包括支援センターの認知状況については、「地域包括支援センターのことは知っており、利用している、または利用したことがある」のは、要介護者で約29%であるのに対し、一般高齢者、若年者ともに約4～7%にとどまっています。また、地域包括支援センターを知っている人は要介護者が約48%、一般高齢者が約41%、若年者が約30%となっており、若年者の認知度の低さがめだちます。

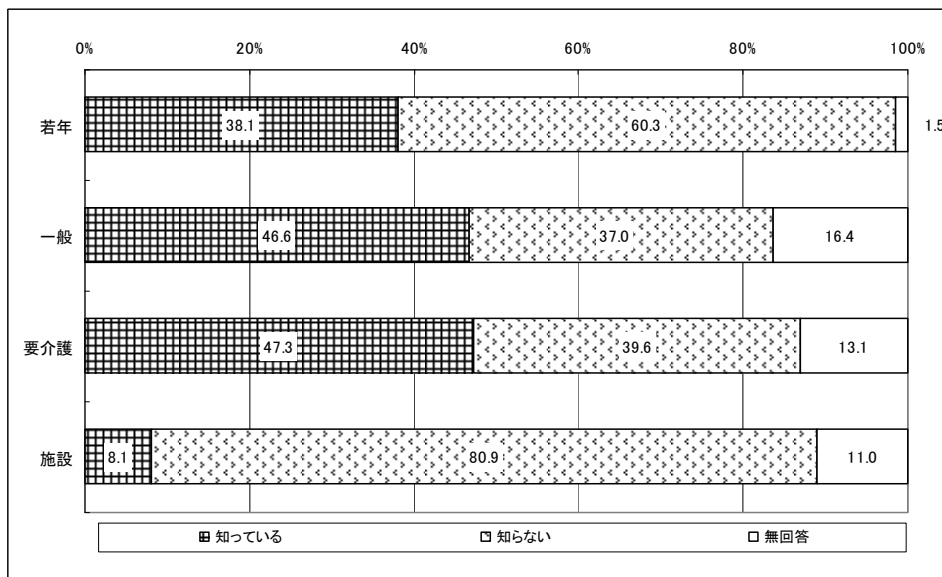
図表 42 地域包括支援センターの認知状況



## ③地区担当の民生委員の認知度

地区担当の民生委員を知っているかについては、一般高齢者、要介護者の半数弱が「知っている」としている一方で、若年者は約38%にとどまっています。

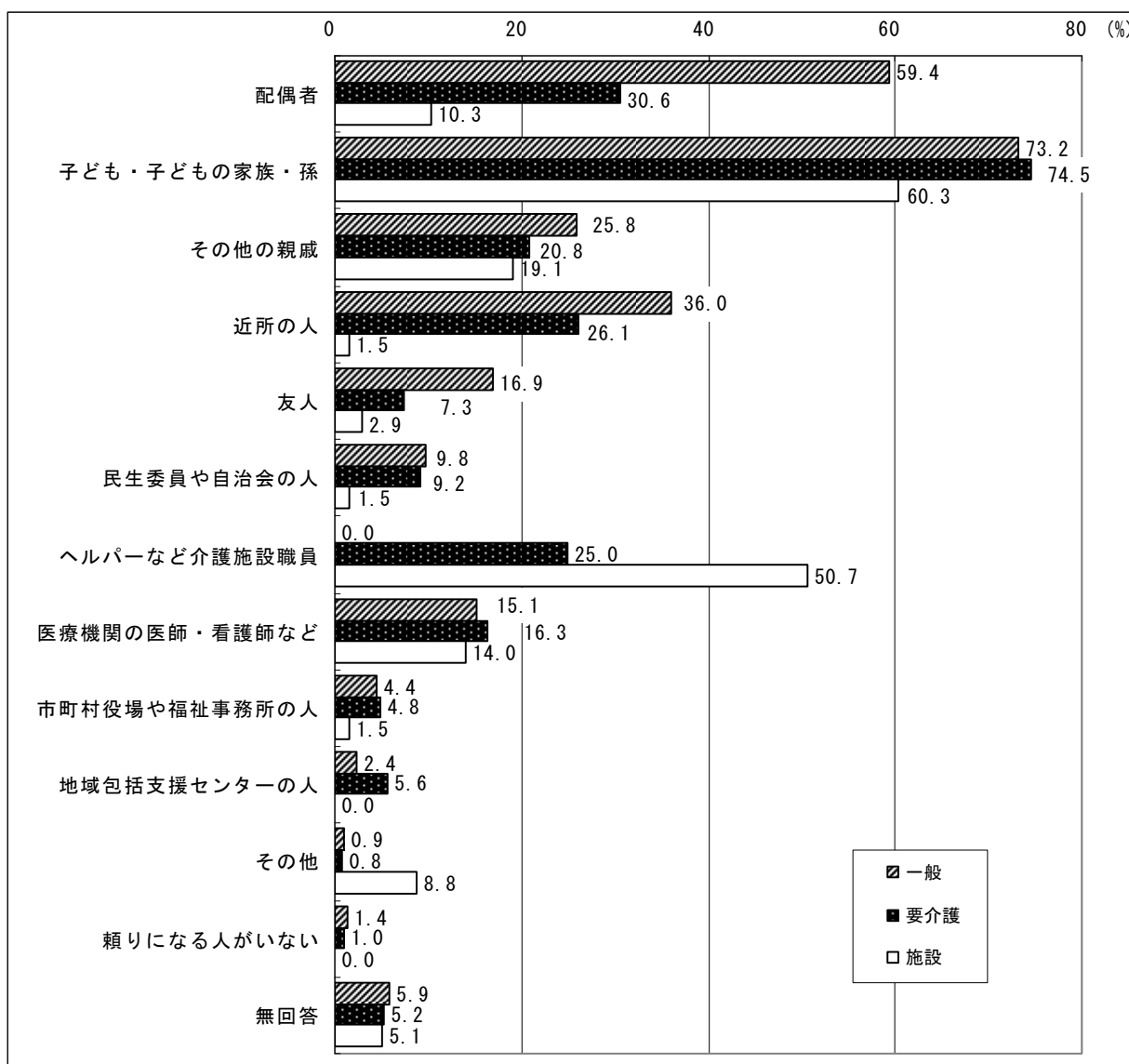
図表 43 地区担当の民生委員の認知度



#### ④緊急時に頼りになる人

緊急時に頼りになる人については、一般高齢者、要介護者、施設入所者ともに「子ども・子どもの家族・孫」をあげる人の割合が最も高くなっています。それ以外では、一般高齢者、要介護者は「配偶者」をあげる人の割合が高いのに対し、施設入所者では「ヘルパーなど介護施設職員」をあげる人の割合が高くなっています。

図表 44 緊急時に頼りになる人（複数回答）

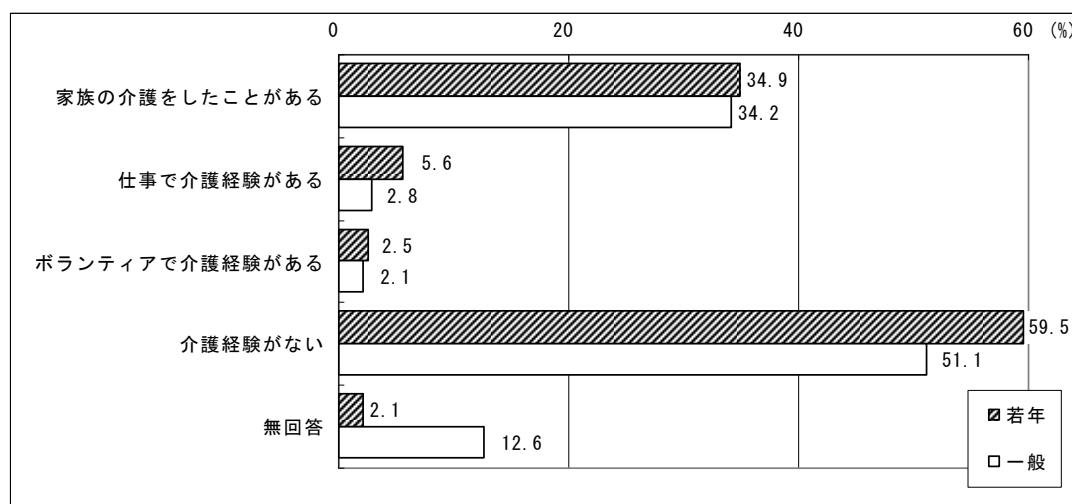


## (8) 介護保険や介護などについて

### ① 介護経験について

介護経験については、若年者、一般高齢者ともに、「介護経験がない」が約半数を占めています。一方、何らかの介護経験のある人は約 36～38%おり、なかでも「家族の介護をしたことがある」が大半を占めています。

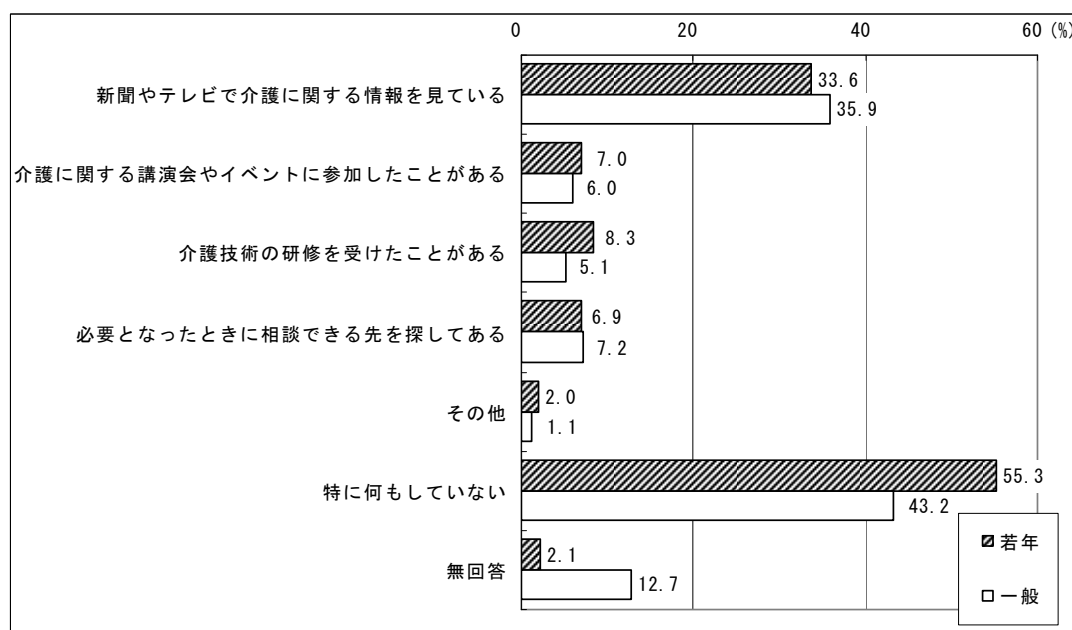
図表 45 介護経験について（複数回答）



### ② 介護予防について何かしていること

介護予防について何かしていることは、若年者、一般高齢者ともに「特に何もしていない」の割合が最も高く、それぞれ約 55%、約 43%となっています。一方、何かしている人はともに 45%前後おり、なかでも「新聞やテレビで介護に関する情報を見ている」が高くなっています。

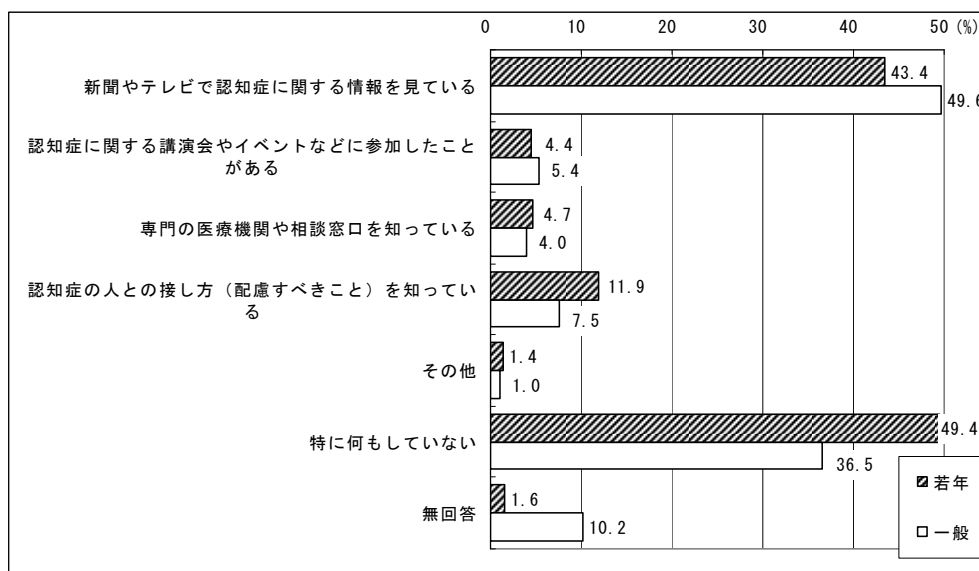
図表 46 介護予防について何かしていること（複数回答）



### ③認知症について何かしていること

認知症について何かしている人は、若年者、一般高齢者ともに50%前後おり、なかでも「新聞やテレビで認知症に関する情報を見ている」の割合が最も高くなっています。

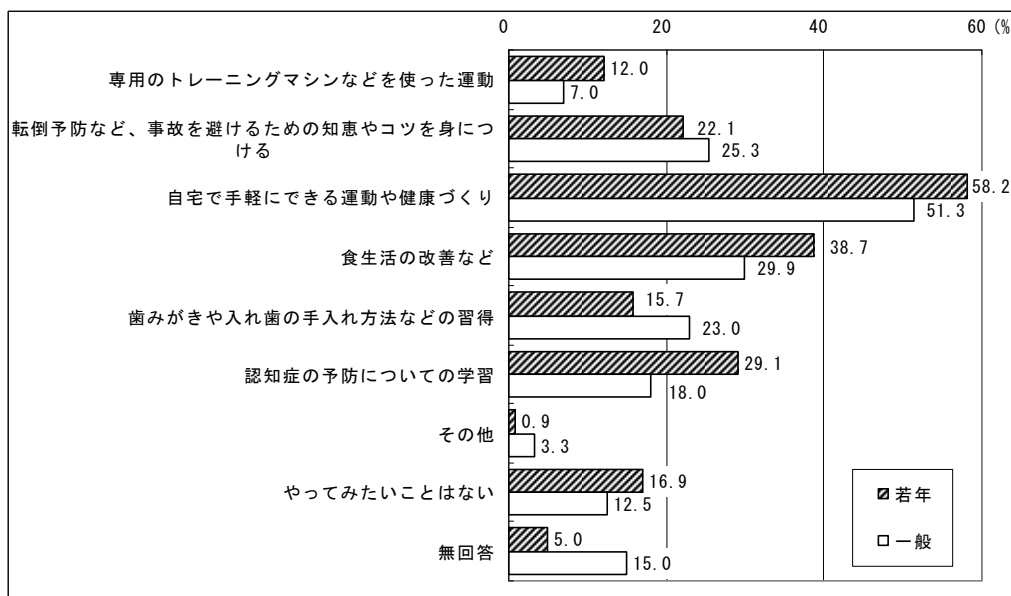
図表 47 認知症について何かしていること（複数回答）



### ④要介護にならないための取組みをやってみたいこと

要介護にならないための取組みについては、若年者、一般高齢者ともに上位にあげられているものに大きな違いはみられず、「自宅で手軽にできる運動や健康づくり」をあげる人が半数を超えています。その他では、「食生活の改善など」、「転倒予防など事故を避けるための知恵やコツを身につける」があげられています。

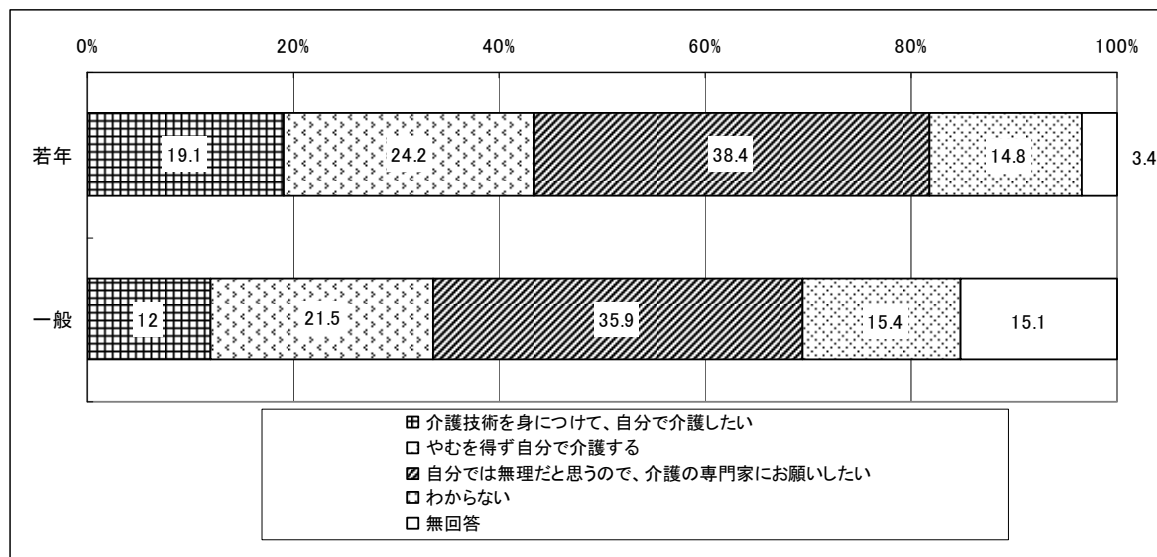
図表 48 要介護にならないための取組みをやってみたいこと（複数回答）



### ⑤ 配偶者や親など親族を介護することについて

配偶者や親など親族を介護することについては、若年者、一般高齢者ともに「自分では無理だと思うので、介護の専門家をお願いしたい」をあげる人の割合が最も高くなっています。

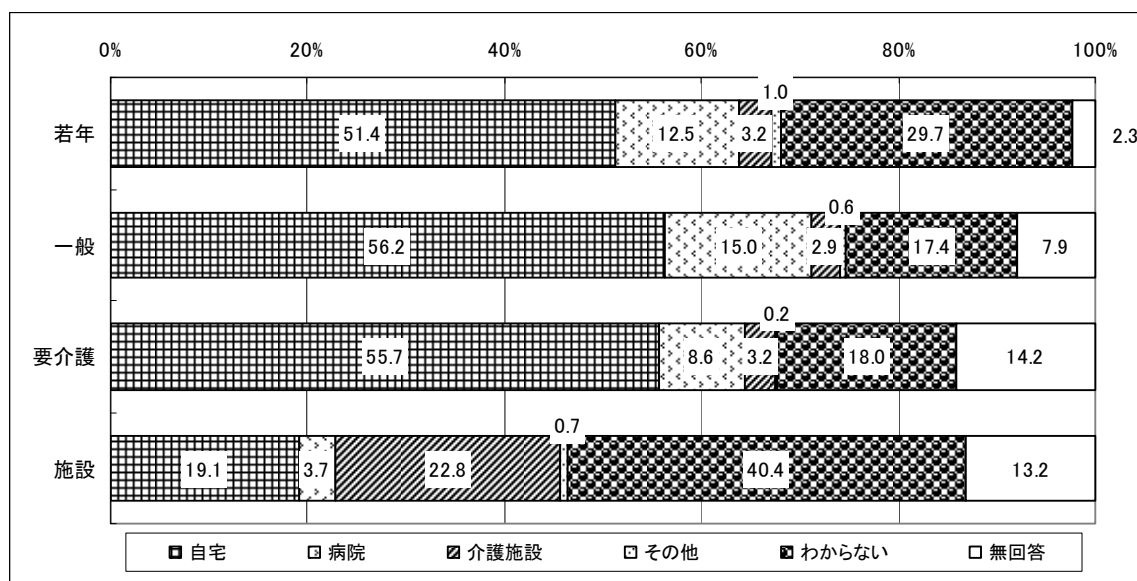
図表 49 配偶者や親など親族を介護することについて



### ⑥ 最期を迎えたい場所

どこで最期を迎えたいと思うかについては、若年者、一般高齢者、要介護者ともに半数強が「自宅」をあげています。

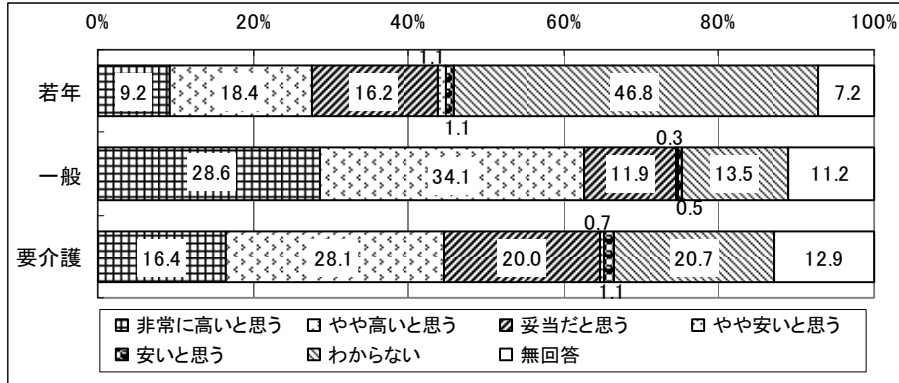
図表 50 最期を迎えたい場所



### ⑦支払っている介護保険料の金額についての考え

支払っている介護保険料の金額については、高いと感じている人は一般高齢者で約63%、要介護者で約45%と、一般高齢者の方が約18ポイント高くなっています。

図表 51 支払っている介護保険料の金額について

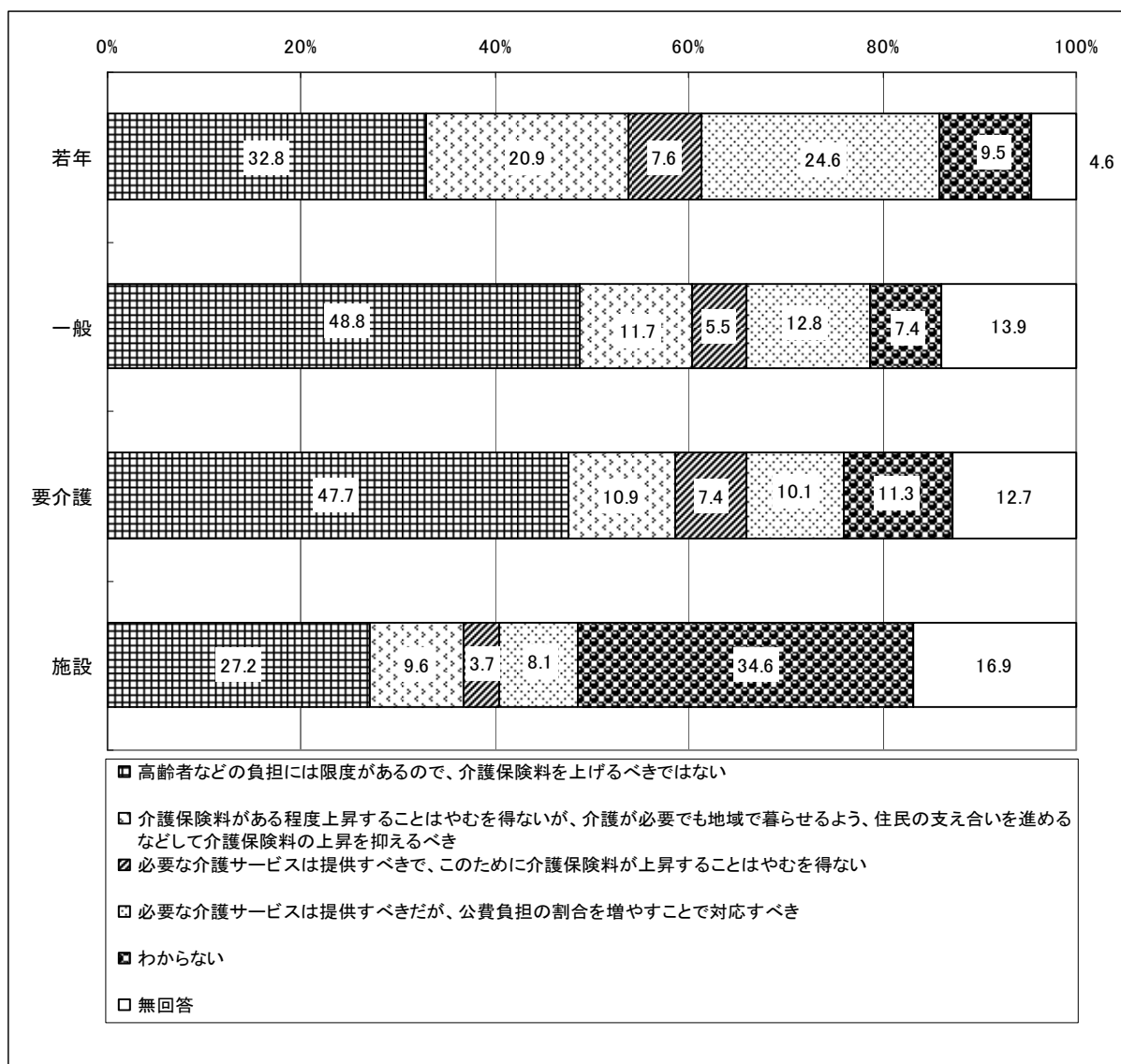




## ⑧介護保険の今後の費用負担のあり方について

介護保険の今後の費用負担のあり方については、一般高齢者、要介護者では半数弱が「高齢者などの負担には限度があるので、介護保険料を上げるべきではない」としています。一方、若年者では「高齢者などの負担には限度があるので、介護保険料を上げるべきではない」をあげる人の割合が約 33%であるの対し、「必要な介護サービスは提供すべきだが、公費負担の割合を増やすことで対応すべき」が約 25%、「介護保険料がある程度上昇することはやむを得ないが、介護が必要でも地域で暮らせるよう、住民の支え合いを進めるなどして介護保険料の上昇を抑えるべき」が約 21%と、費用負担のあり方に対する意見が分かれています。

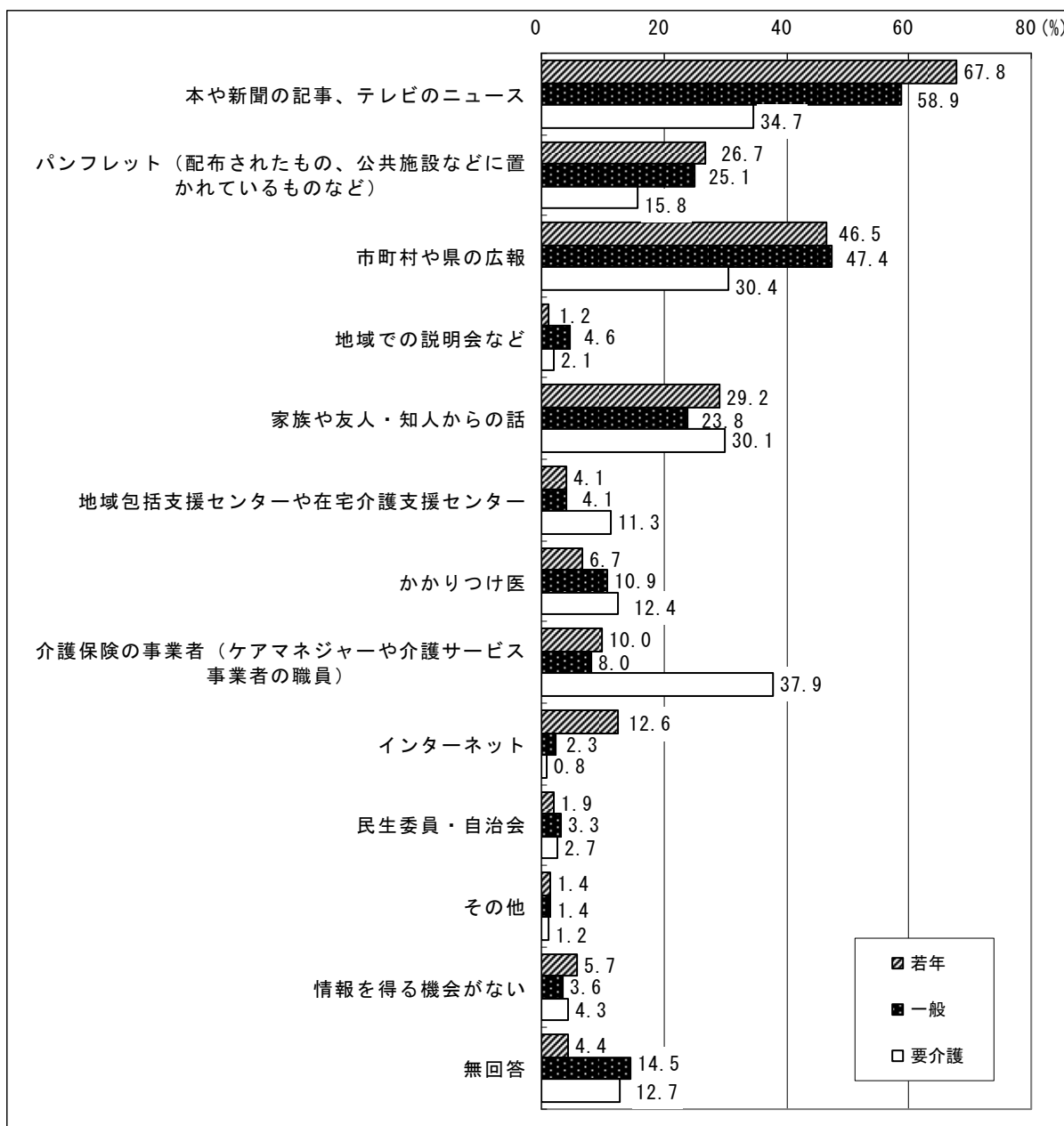
図表 52 介護保険の今後の費用負担のあり方について



### ⑨介護や保健、医療等に関する情報の入手方法

介護や保健、医療等に関する情報の入手方法については、若年者、一般高齢者ともに同様の傾向となっており、「本や新聞の記事、テレビのニュース」をあげる人の割合が最も高くなっています。一方、要介護者では「介護保険の事業者（ケアマネジャーや介護サービス事業者の職員）」をあげる人の割合が最も高くなっています。

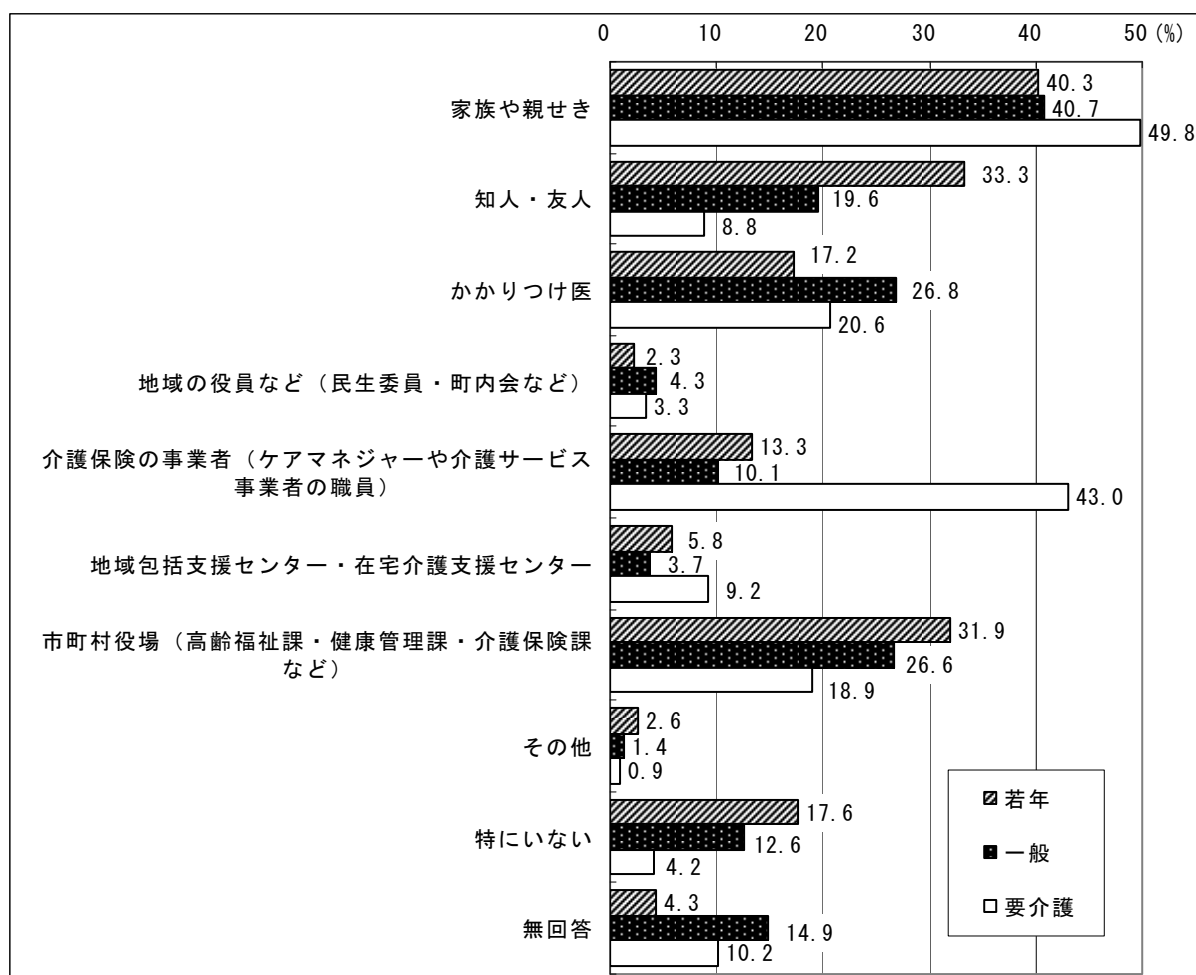
図表 53 介護や保健、医療等に関する情報の入手方法（複数回答）



## ⑩介護や保健、医療等に関することでの相談相手

介護や保健、医療等に関することでの相談相手については、若年者、一般高齢者、要介護者ともに「家族や親せき」をあげる人の割合が最も高いのは同じですが、その次に高いのは、若年者は「知人・友人」、一般高齢者は「かかりつけ医」、要介護者は「介護保険の事業者（ケアマネジャーや介護サービス事業者の職員）」となっています。

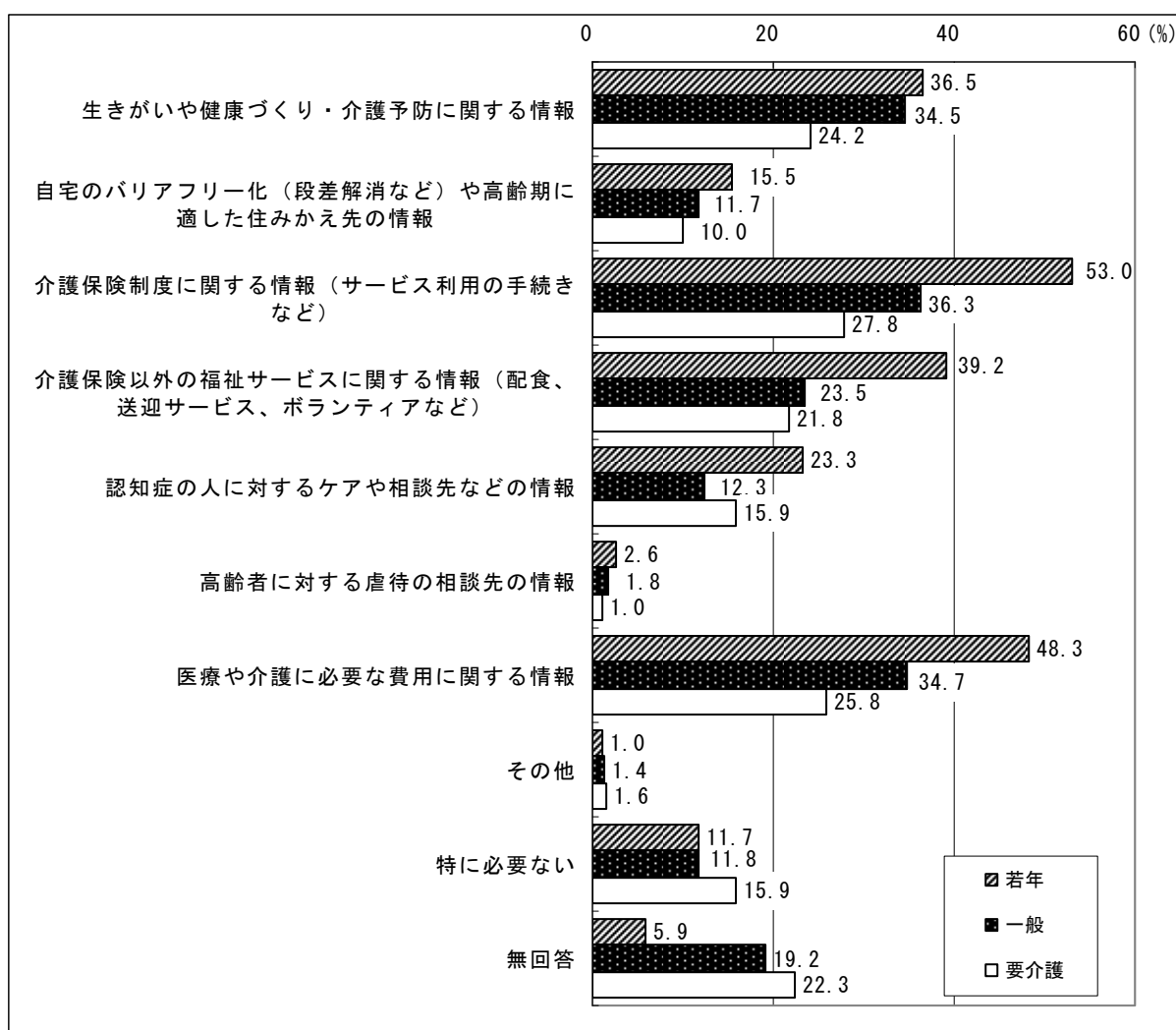
図表 54 介護や保健、医療等に関することでの相談相手（複数回答）



## ⑪介護や保健、医療等に関することでほしい情報

介護や保健、医療等に関することでほしい情報については、若年者、一般高齢者、要介護者ともに上位にあげているものに大きな違いはみられず、「介護保険制度に関する情報（サービス利用の手続きなど）」、「医療や介護に必要な費用に関する情報」、「生きがいや健康づくり・介護予防に関する情報」といったことがあげられています。

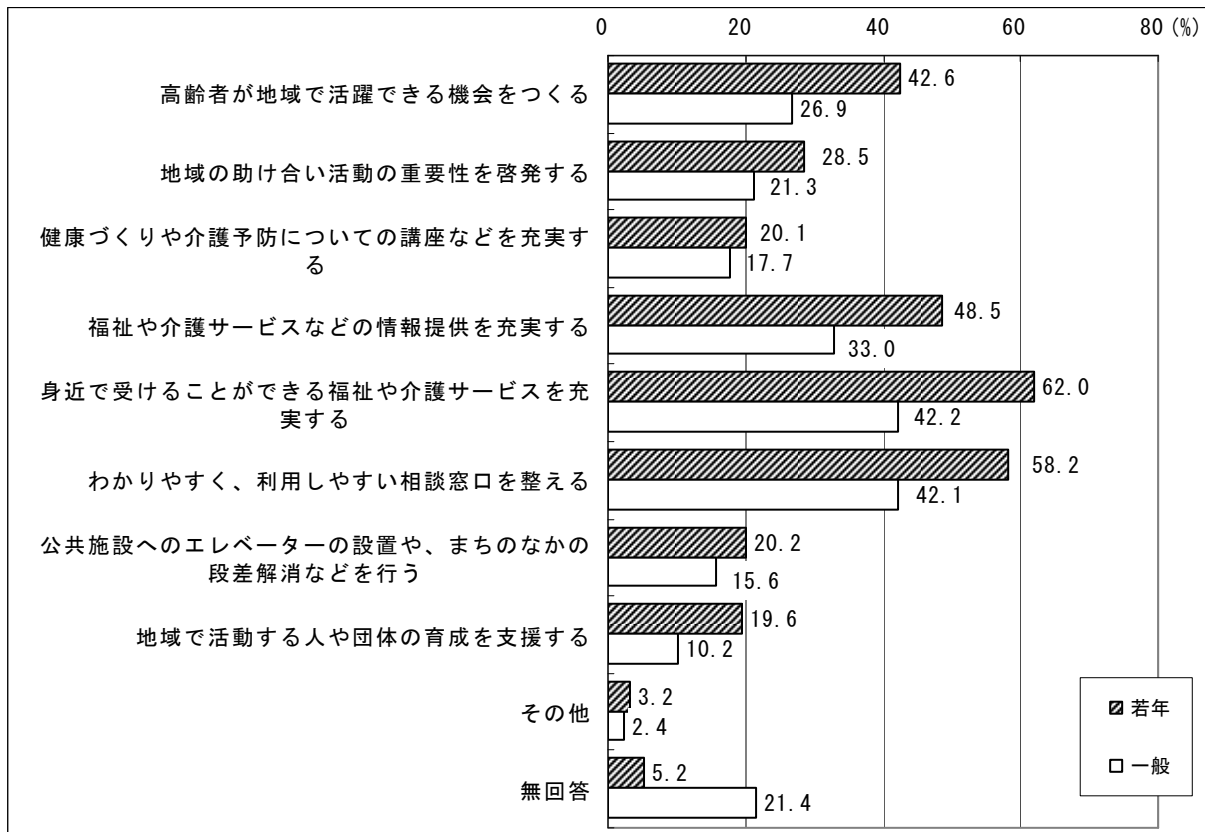
図表 55 介護や保健、医療等に関することでほしい情報（複数回答）



## ⑫行政が重点的に取り組むべきことについて

行政が重点的に取り組むべきことについては、若年者、一般高齢者ともに上位にあげられているものに大きな違いはみられず、「身近で受けることができる福祉や介護サービスを充実する」、「わかりやすく、利用しやすい相談窓口を整える」があがっています。

図表 56 行政が重点的に取り組むべきことについて（複数回答）



## 2. 若年者、一般高齢者の健康状態について

現在の健康状態のよい人の特徴としては、

若年者では、

- ・ 年齢が低い方が健康な人の割合が高くなっています。ただし、年齢が高くなっても、持病はあるものの、生活に支障がない人の割合が高くなっています。
- ・ 年収が高くなるにつれ、健康で病気はない人の割合が高くなっており、「500万円以上1000万円未満」の世帯では、約半数が健康で病気はないとしています。一方、「100万円未満」の世帯では、約10%が「重い病気がある」としており、他に比べて高くなっています。
- ・ 自分の性格では楽天的でマイペースな人の方が健康で病気はない人の割合が高くなっています。一方、ささいなことでも気になりくよくよする人の約9%は「重い病気がある」としており、他に比べて高くなっています。
- ・ 生活に充実している人の半数が、健康で病気はない人が半数を占めています。一方、生活に充実していない人の約19%は「重い病気がある」としています。

以上をまとめると、健康状態のよい人は、年齢が低い人の他、年収がある程度高い人や楽天的でマイペースである性格であり、生活に充実している人が多くみられます。

一般高齢者では、

- ・ 世帯の貯蓄額が「2000万円以上」の人は他に比べて健康で病気はない人の割合が高くなっています。一方、「貯蓄がない」人では、約14%が「重い病気がある」としており、他に比べて高くなっています。
- ・ 自分の性格では楽天的でマイペースな人の方が健康で病気はない人の割合が高くなっています。一方、ささいなことでも気になりくよくよする人の約20%は「重い病気がある」としており、他に比べて高くなっています。
- ・ 生活に充実している人の半数が、健康で病気はない人が半数を占めています。

以上をまとめると、健康状態のよい人は、世帯の貯蓄額が高い人や楽天的でマイペースである性格であり、生活に充実している人が多くみられます。

図表 57 【若年者】＜年代・性別、世帯の年収別、自分の性格別、生活の充実度別＞現在の健康状態 [N=2, 030]

		合計	病気が 健康でこれといった 病気はない	加齢に伴う衰えはあ るが、同じ年代の人 からすると元氣	あ るが、生活に支障 はない	ち よつとした持病は あるが、生活に支障 はない	重 い病気があ る	無 回 答
合計		2,030	770	477	689	60	34	
		100.0	37.9	23.5	33.9	3.0	1.7	
年代・性別	40～49 歳男	244	136	47	56	4	1	
		100.0	55.7	19.3	23.0	1.6	0.4	
	40～49 歳女	325	194	52	67	9	3	
		100.0	59.7	16.0	20.6	2.8	0.9	
	50～59 歳男	285	99	64	110	8	4	
		100.0	34.7	22.5	38.6	2.8	1.4	
	50～59 歳女	374	146	99	108	11	10	
		100.0	39.0	26.5	28.9	2.9	2.7	
60～64 歳男	364	84	96	163	16	5		
	100.0	23.1	26.4	44.8	4.4	1.4		
60～64 歳女	408	103	113	172	11	9		
	100.0	25.2	27.7	42.2	2.7	2.2		
無回答	30	8	6	13	1	2		
	100.0	26.7	20.0	43.3	3.3	6.7		
世帯の 年収別	100 万円未満	143	38	37	51	14	3	
		100.0	26.6	25.9	35.7	9.8	2.1	
	100 万円以上 300 万円未満	518	159	123	207	17	12	
		100.0	30.7	23.7	40.0	3.3	2.3	
	300 万円以上 500 万円未満	491	184	110	178	11	8	
		100.0	37.5	22.4	36.3	2.2	1.6	
	500 万円以上 1,000 万円未満	652	307	156	173	10	6	
	100.0	47.1	23.9	26.5	1.5	0.9		
1,000 万円以上	190	71	43	67	6	3		
	100.0	37.4	22.6	35.3	3.2	1.6		
不明	36	11	8	13	2	2		
	100.0	30.6	22.2	36.1	5.6	5.6		
自分の 性格別	楽天的でマイペース。人の目を余り気にしない	126	56	29	34	6	1	
		100.0	44.4	23.0	27.0	4.8	0.8	
	どちらかといえば、楽天的でマイペース。人の目を余り気にしない方である	688	304	167	201	13	3	
		100.0	44.2	24.3	29.2	1.9	0.4	
	どちらともいえない	705	274	173	229	18	11	
		100.0	38.9	24.5	32.5	2.6	1.6	
	どちらかといえば、ささいなことでも気になり、くよくよする	419	114	98	185	17	5	
	100.0	27.2	23.4	44.2	4.1	1.2		
ささいなことでも気になり、くよくよする	66	17	7	35	6	1		
	100.0	25.8	10.6	53.0	9.1	1.5		
不明	26	5	3	5	0	13		
	100.0	19.2	11.5	19.2	0.0	50.0		

		合計	健康でこれといった病気はない	加齢に伴う衰えはあるが、同じ年代の人からすると元気	加齢に伴う衰えはあるが、生活に支障はない	ちょっとした持病はあるが、生活に支障はない	重い病気がある	無回答
生活の充実度別	充実している	396	199	86	105	4	2	
		100.0	50.3	21.7	26.5	1.0	0.5	
	どちらかといえば充実している	1,211	466	299	407	21	18	
		100.0	38.5	24.7	33.6	1.7	1.5	
	どちらかといえば充実していない	278	75	64	120	12	7	
		100.0	27.0	23.0	43.2	4.3	2.5	
	充実していない	108	20	18	47	20	3	
		100.0	18.5	16.7	43.5	18.5	2.8	
	不明	37	10	10	10	3	4	
		100.0	27.0	27.0	27.0	8.1	10.8	

図表 58 【一般高齢者】＜自分の性格別、世帯の貯蓄額別＞ 健康状態 [N=3, 259]

		合計	健康でこれといった病気はない	加齢に伴う衰えはあるが、同じ年代の人からすると元気	加齢に伴う衰えはあるが、生活に支障はない	ちょっとした持病はあるが、生活に支障はない	重い病気がある	無回答
合計		3,259	408	804	1,494	280	273	
		100.0	12.5	24.7	45.8	8.6	8.4	
世帯の貯蓄額別	貯蓄がない	467	58	109	211	63	26	
		100.0	12.4	23.3	45.2	13.5	5.6	
	200万円未満	411	49	108	192	47	15	
		100.0	11.9	26.3	46.7	11.4	3.6	
	200万円以上 500万円未満	570	65	152	282	47	24	
		100.0	11.4	26.7	49.5	8.2	4.2	
	500万円以上 1,000万円未満	442	57	111	222	36	16	
		100.0	12.9	25.1	50.2	8.1	3.6	
	1,000万円以上 2,000万円未満	465	51	121	248	32	13	
		100.0	11.0	26.0	53.3	6.9	2.8	
2,000万円以上	462	89	121	199	35	18		
	100.0	19.3	26.2	43.1	7.6	3.9		
無回答	442	39	82	140	20	161		
	100.0	8.8	18.6	31.7	4.5	36.4		
自分の性格別	楽天的でマイペース。人の目を余り気にしない	225	63	59	83	16	4	
		100.0	28.0	26.2	36.9	7.1	1.8	
	どちらかといえば、楽天的でマイペース。人の目を余り気にしない方である	944	163	291	404	54	32	
		100.0	17.3	30.8	42.8	5.7	3.4	
	どちらともいえない	1,150	116	295	584	104	51	
		100.0	10.1	25.7	50.8	9.0	4.4	
	どちらかといえば、ささいなことでも気になり、くよくよする	611	49	118	341	71	32	
		100.0	8.0	19.3	55.8	11.6	5.2	
ささいなことでも気になり、くよくよする	133	3	26	63	27	14		
	100.0	2.3	19.5	47.4	20.3	10.5		
無回答	196	14	15	19	8	140		
	100.0	7.1	7.7	9.7	4.1	71.4		



### 3. 若年者、一般高齢者の生活への充実について

生活への充実度が高い人の特徴としては、

若年者では、

- ・ 世帯の1か月の生活費の額が高い人ほど、充実している人の割合が高くなっており、特に「40万円以上」では約91%が「充実している」または「どちらかといえば充実している」としています。一方、「10万円未満」では約28%が「どちらかといえば充実していない」または「充実していない」としています。
- ・ 自分の性格では楽天的でマイペースな人の方が充実している人の割合が高くなっていきます。一方、ささいなことでも気になりくよくよする人の約44%が「どちらかといえば充実していない」または「充実していない」としており、他に比べて高くなっていきます。

以上をまとめると、生活費にある程度ゆとりがある人や楽天的でマイペースな性格の人に生活の充実度が高い人が多くみられます。

一般高齢者では、

- ・ 若年者と同様に、自分の性格では楽天的でマイペースな人の方が充実している人の割合が高くなっていきます。一方、ささいなことでも気になりくよくよする人の約35%が「どちらかといえば充実していない」または「充実していない」としており、他に比べて高くなっていきます。

以上をまとめると、楽天的でマイペースな性格の人に生活の充実度が高い人が多くみられます。

図表 59 【若年者】＜世帯の1か月の生活費別、自分の性格別、現在の健康状態別＞生活の充実度 [N=2,030]

		合計	充実している	いる え ば 充 実 し て	ど ち ら か と い え ば 充 実 し て い な い	い え ば 充 実 し て い な い	い 充 実 し て い な い	無 回 答
合計		2,030	396	1,211	278	108	37	
		100.0	19.5	59.7	13.7	5.3	1.8	
世帯の1か月の生活費別	10万円未満	138	26	70	19	20	3	
		100.0	18.8	50.7	13.8	14.5	2.2	
	10万円以上 20万円未満	580	86	362	91	31	10	
		100.0	14.8	62.4	15.7	5.3	1.7	
	20万円以上 30万円未満	762	140	456	111	43	12	
		100.0	18.4	59.8	14.6	5.6	1.6	
	30万円以上 40万円未満	381	100	223	39	10	9	
	100.0	26.2	58.5	10.2	2.6	2.4		
40万円以上	127	35	80	9	3	0		
	100.0	27.6	63.0	7.1	2.4	0.0		
無回答	42	9	20	9	1	3		
	100.0	21.4	47.6	21.4	2.4	7.1		

		合計	充実している	どちらかといえば充実している	どちらかといえば充実していない	充実していない	無回答
自分の性格別	楽天的でマイペース。人の目を余りにしない	126	44	54	15	12	1
		100.0	34.9	42.9	11.9	9.5	0.8
	どちらかといえば、楽天的でマイペース。人の目を余りにしない方である	688	180	428	51	22	7
		100.0	26.2	62.2	7.4	3.2	1.0
	どちらともいえない	705	129	450	90	24	12
		100.0	18.3	63.8	12.8	3.4	1.7
	どちらかといえば、ささいなことでも気になり、くよくよする	419	35	236	105	34	9
		100.0	8.4	56.3	25.1	8.1	2.1
	ささいなことでも気になり、くよくよする	66	6	29	13	16	2
		100.0	9.1	43.9	19.7	24.2	3.0
	無回答	26	2	14	4	0	6
		100.0	7.7	53.8	15.4	0.0	23.1

図表 60 【一般高齢者】＜自分の性格別＞生活の充実度 [N=3, 259]

		合計	充実している	どちらかといえば充実している	どちらかといえば充実していない	充実していない	無回答
合計		3,259	656	1,813	347	170	273
		100.0	20.1	55.6	10.6	5.2	8.4
楽天的でマイペース。人の目を余りにしない		225	84	95	14	9	23
		100.0	37.3	42.2	6.2	4.0	10.2
どちらかといえば、楽天的でマイペース。人の目を余りにしない方である		944	236	580	67	18	43
		100.0	25.0	61.4	7.1	1.9	4.6
どちらともいえない		1,150	198	672	120	57	103
		100.0	17.2	58.4	10.4	5.0	9.0
どちらかといえば、ささいなことでも気になり、くよくよする		611	84	331	98	53	45
		100.0	13.7	54.2	16.0	8.7	7.4
ささいなことでも気になり、くよくよする		133	19	45	23	24	22
		100.0	14.3	33.8	17.3	18.0	16.5
無回答		196	35	90	25	9	37
		100.0	17.9	45.9	12.8	4.6	18.9

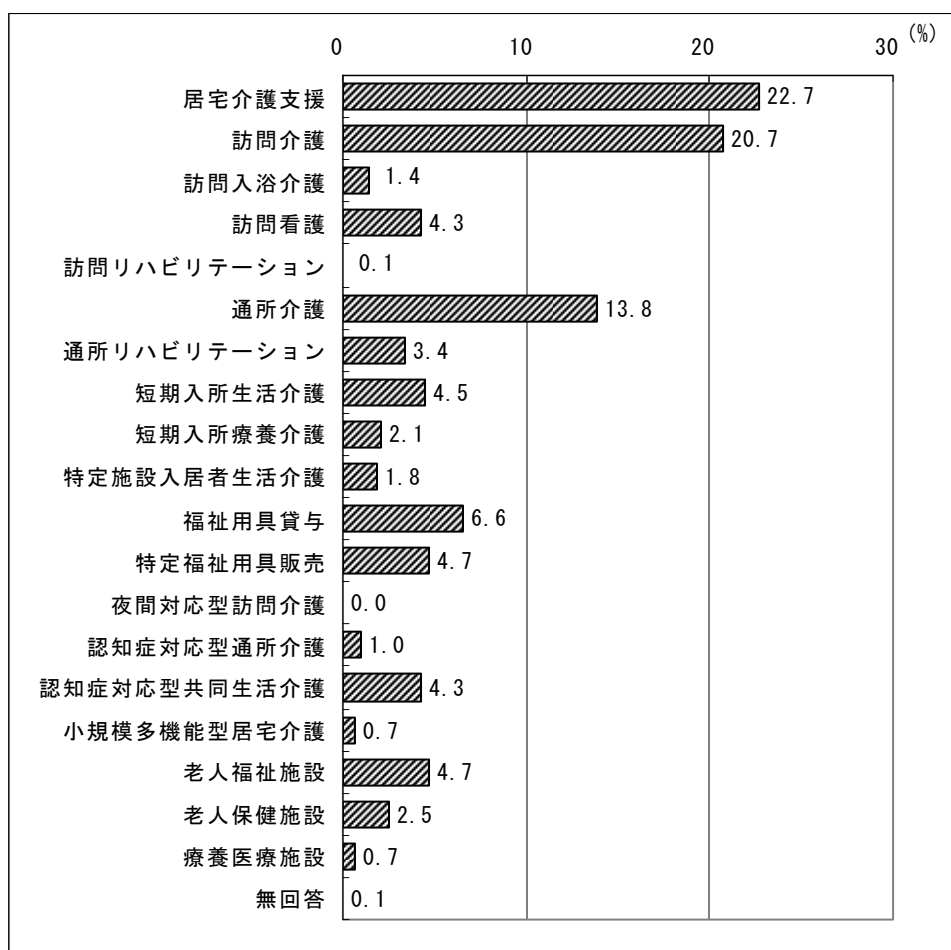
## 4. 事業所について

### (1) 回答者の属性

#### ① 事業所のサービス種別

事業所のサービス種別についてきいたところ、「居宅介護支援」の割合が22.7%と最も高く、次いで、「訪問介護」が20.7%となっています。

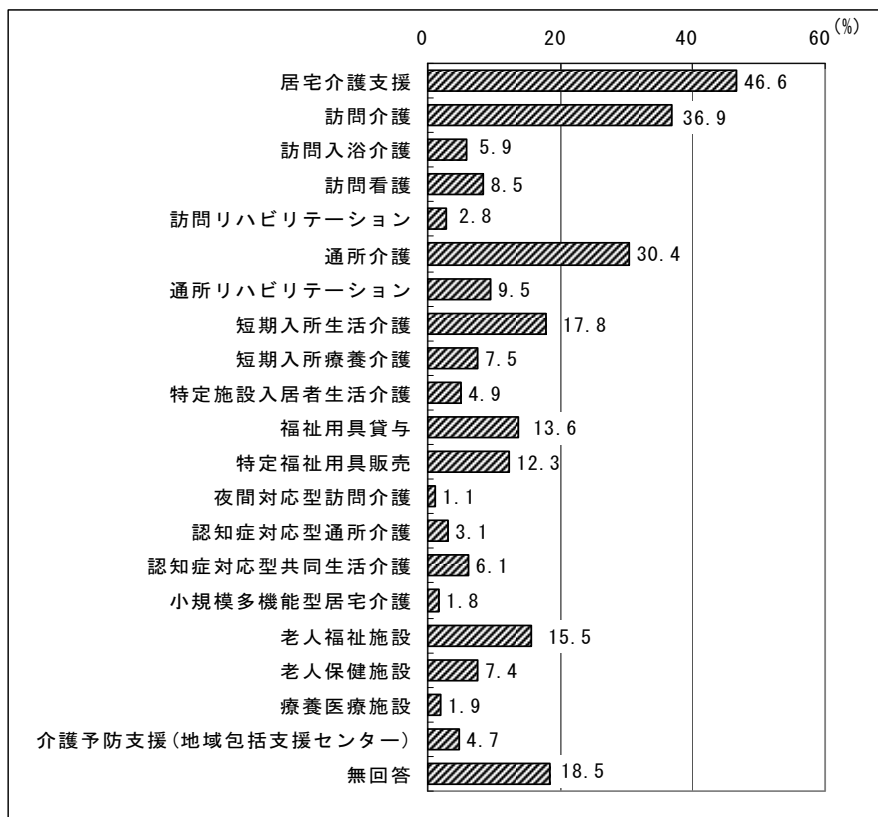
図表 61 事業所のサービス種別 [N=1,365]



## ②併設している事業所のサービス種別

併設している事業所のサービスの種別についてきいたところ、「居宅介護支援」の割合が46.6%と最も高く、次いで、「訪問介護」が36.9%となっています。

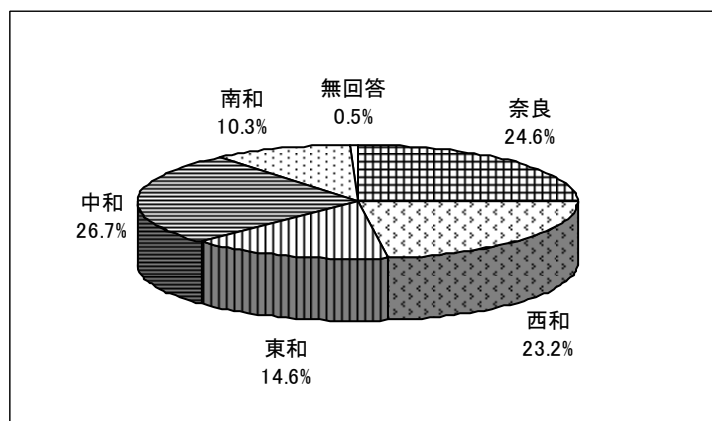
図表 62 併設している事業所のサービスの種別 [N=1,365 ; 複数回答]



## ③圏域

事業所の圏域についてきいたところ、「中和」(26.7%)、「奈良」(24.6%)の割合が高くなっています。

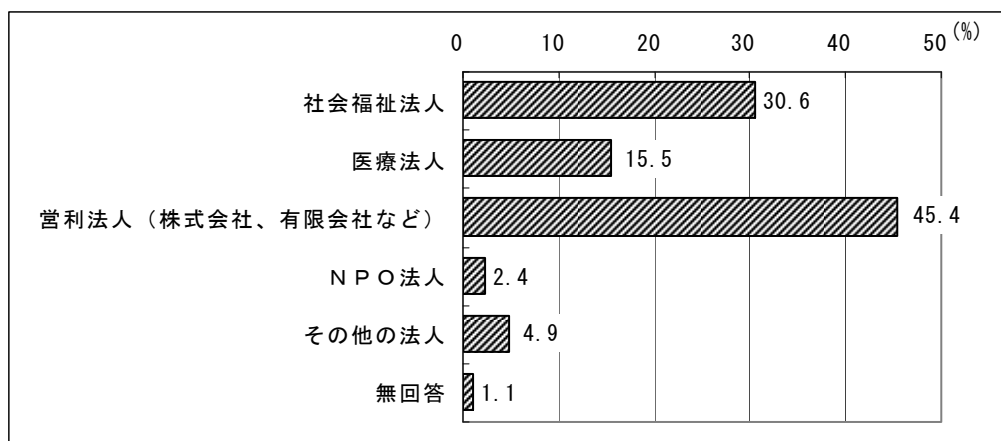
図表 63 圏域 [N=1,365]



#### ④事業所の運営主体

事業所の運営主体についてきいたところ、「営利法人(株式会社、有限会社など)」の割合が45.4%と最も高く、次いで、「社会福祉法人」が30.6%となっています。

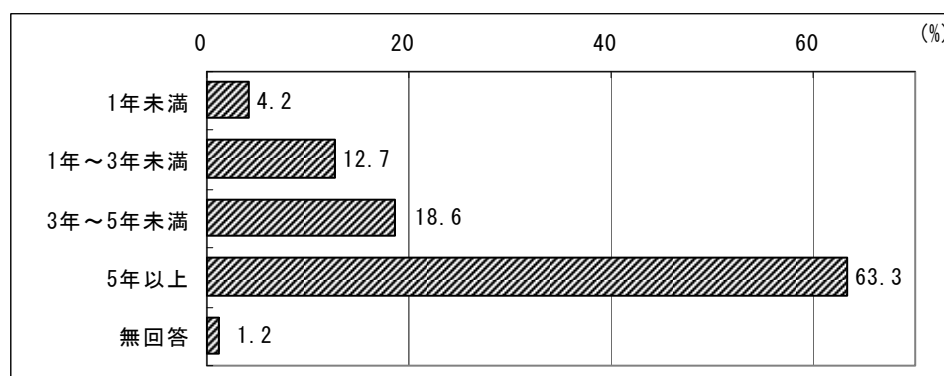
図表 64 事業所の運営主体 [N=1,365]



#### ⑤事業所の事業開始後の経過年数

事業所の事業開始後の経過年数についてきいたところ、「5年以上」の割合が63.3%と最も高く、次いで、「3年～5年未満」が18.6%となっています。

図表 65 事業所の事業開始後の経過年数 [N=1,365]



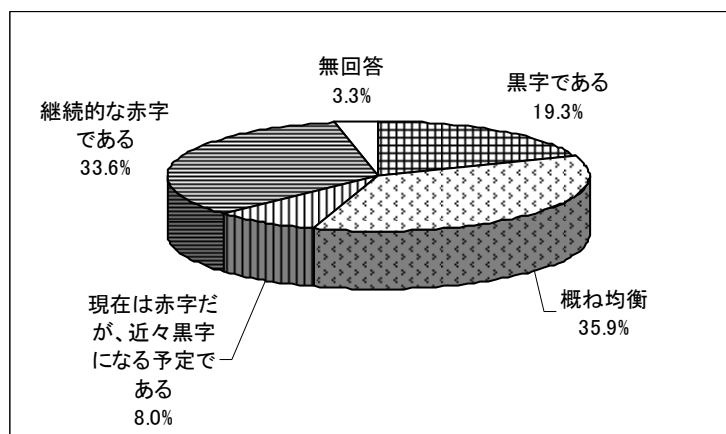
## (2) 経営について

### ①事業所の月間の収支状況

事業所の月間の収支状況についてきいたところ、「概ね均衡」の割合が35.9%と最も高く、次いで、「継続的な赤字である」が33.6%となっています。

サービス種別でみると、居宅介護支援の半数以上は「断続的な赤字である」としています。一方、通所系サービス、短期入所サービス、施設系・居住系サービスは、居宅介護支援や訪問系サービスに比べて「黒字である」割合が高くなっています。

図表 66 事業所の月間の収支状況 [N=1,365]



図表 67 <サービス種別>月間収支 [N=1,365]

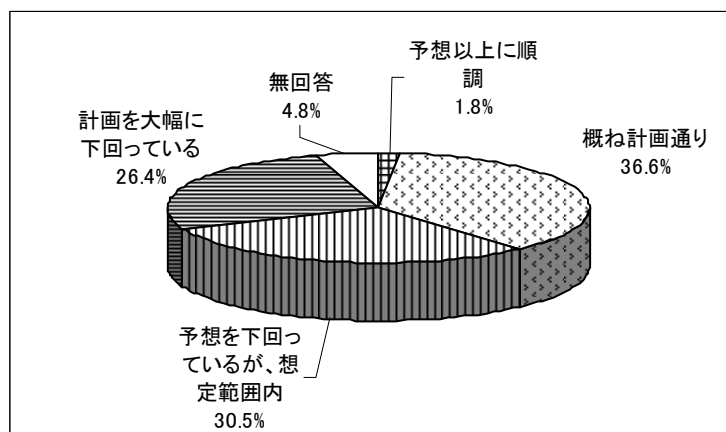
	合計	黒字である	概ね均衡	現在は赤字だが、近々黒字になる予定である	継続的な赤字である	無回答
合計	1,365	263	490	109	458	45
	100.0	19.3	35.9	8.0	33.6	3.3
居宅介護支援	310	23	91	20	168	8
	100.0	7.4	29.4	6.5	54.2	2.6
訪問系サービス	362	59	138	27	122	16
	100.0	16.3	38.1	7.5	33.7	4.4
通所系サービス	248	66	91	18	65	8
	100.0	26.6	36.7	7.3	26.2	3.2
短期入所サービス	90	34	33	9	12	2
	100.0	37.8	36.7	10.0	13.3	2.2
施設系・居住系サービス	191	72	79	12	25	3
	100.0	37.7	41.4	6.3	13.1	1.6

## ②事業所の収支状況について、開設前の計画との比較

事業所の収支状況について、開設前の計画と比較してどうかきいたところ、「概ね計画通り」が36.6%と最も高く、次いで、「予想を下回っているが、想定範囲内」が30.5%となっています。

月間収支別にみると、「黒字である」、「概ね均衡」の事業所は開設前の計画と比較して「概ね計画通り」のところの割合が高くなっています。一方、継続的な赤字である事業所は「計画を大幅に下回っている」ところが半数以上を占めています。

図表 68 事業所の収支状況について、開設前の計画との比較[N=1, 365]



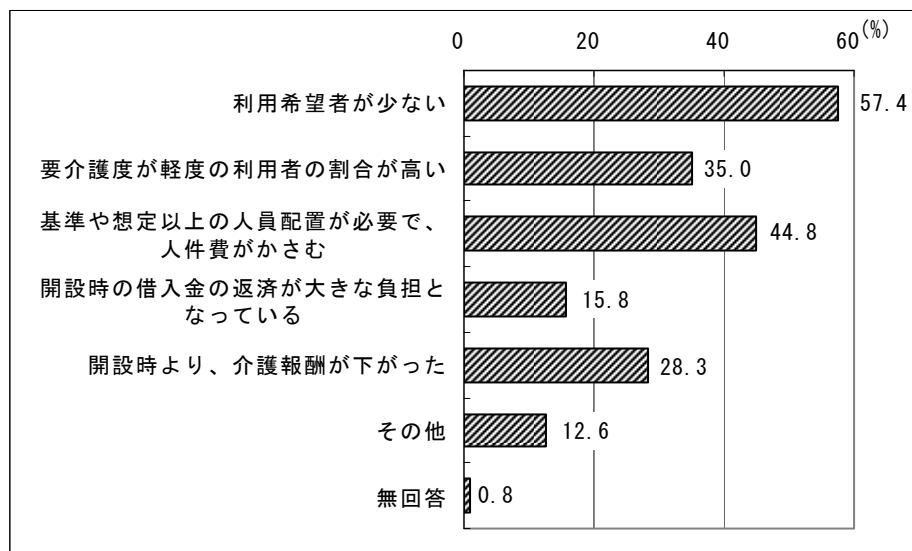
図表 69 <月間収支別>開設前の計画との比較[N=1, 365]

	合計	調 査	予 想 以 上 に 順 調	概 ね 計 画 通 り	予 想 を 下 回 っ て い る が、 想 定 範 囲 内	計 画 を 大 幅 に 下 回 っ て い る	無 回 答
合計	1,365	24	499	416	361	65	
	100.0	1.8	36.6	30.5	26.4	4.8	
黒字である	263	16	180	53	11	3	
	100.0	6.1	68.4	20.2	4.2	1.1	
概ね均衡	490	5	248	173	56	8	
	100.0	1.0	50.6	35.3	11.4	1.6	
現在は赤字だが、近々黒字になる予定である	109	1	35	46	23	4	
	100.0	0.9	32.1	42.2	21.1	3.7	
継続的な赤字である	458	2	35	135	268	18	
	100.0	0.4	7.6	29.5	58.5	3.9	
無回答	45	0	1	9	3	32	
	100.0	0.0	2.2	20.0	6.7	71.1	

### ③計画を下回っている主な理由

計画を下回っている主な理由についてきいたところ、「利用希望者が少ない」が57.4%と最も高く、次いで、「基準や想定以上の人員配置が必要で、人件費がかさむ」が44.8%となっています。

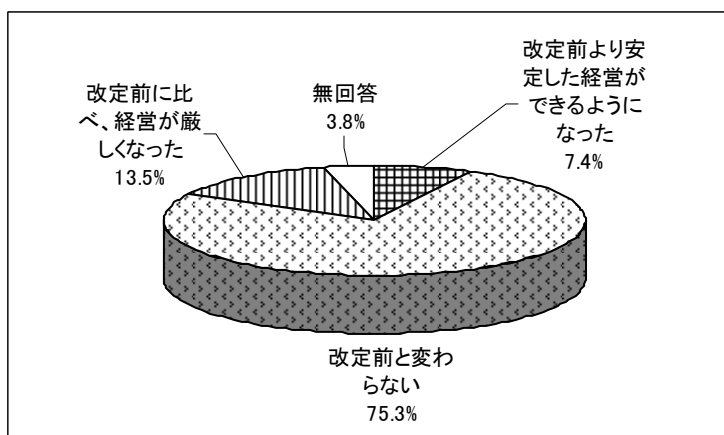
図表 70 計画を下回っている主な理由 [N=777 ; 複数回答]



### ④平成 21 年4月の介護報酬改定による経営状態への影響

平成 21 年 4 月の介護報酬改定による経営状態への影響についてきいたところ、「改定前と変わらない」が 75.3%と最も高く、次いで、「改定前に比べ、経営が厳しくなった」が 13.5%となっています。

図表 71 平成 21 年 4 月の介護報酬改定による経営状態への影響 [N=1, 365]

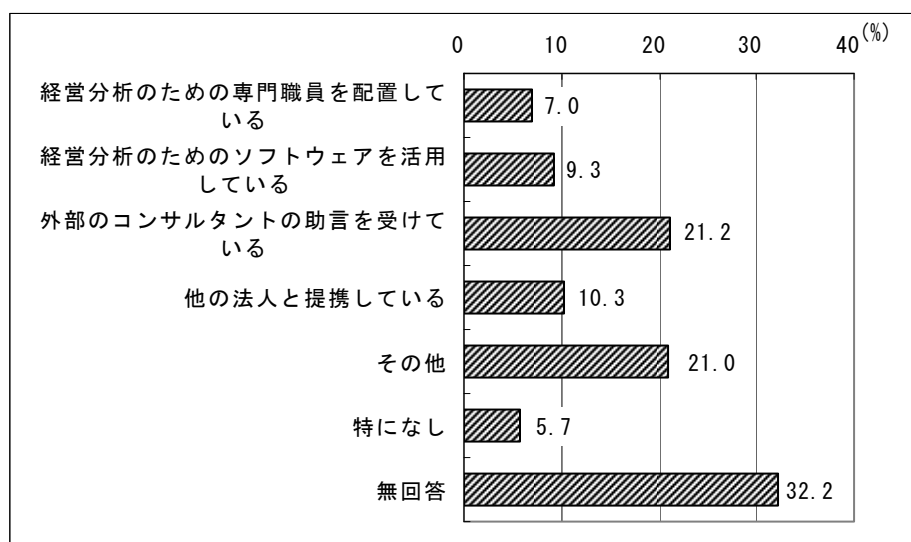




### ⑤経営上の工夫として行っている取組みについて

経営上の工夫として行っている取組みについてきいたところ、「外部のコンサルタントの助言を受けている」が21.2%と最も高く、次いで、「その他」が21.0%となっています。

図表 72 経営上の工夫として行っている取組みについて [N=1,365 ; 複数回答]

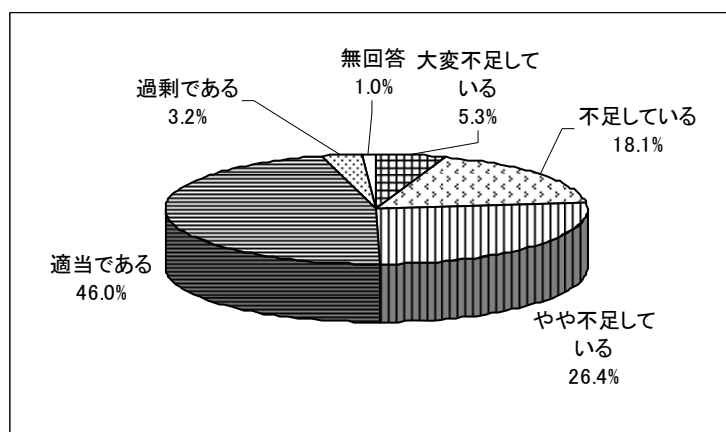


### (3) 職員について

#### ①現在の職員の過不足

現在の職員の過不足についてきいたところ、「適当である」の割合が46.0%と最も高く、次いで、「やや不足している」が26.4%となっています。

図表 73 現在の職員の過不足 [N=1,365]



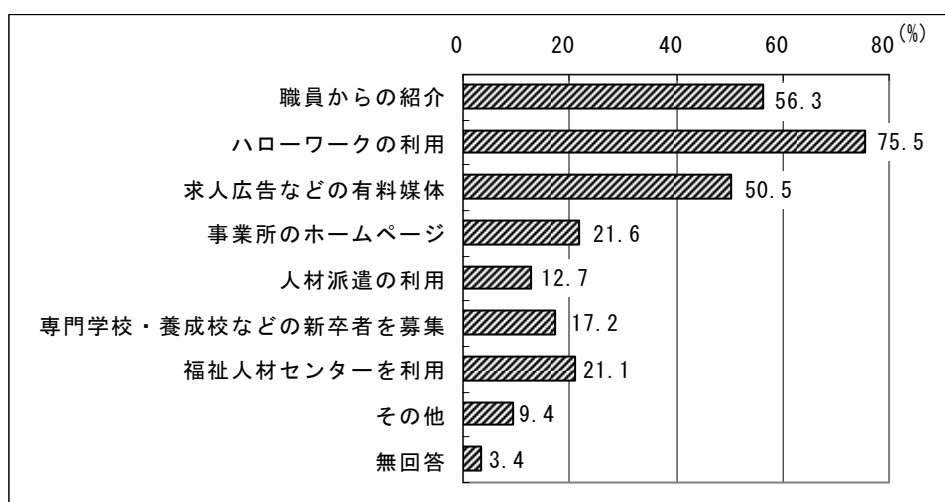
## ②事業所における職員募集の方法

事業所における職員募集の方法についてきいたところ、「ハローワークの利用」の割合が75.5%と最も高く、次いで、「職員からの紹介」が56.3%となっています。

月間収支別にみると、「黒字である」事業所では、他に比べてさまざまな方法で募集を実施しています。

また、職員の定着に向けての具体的な取組みとして、給与面の改善や、勤務条件の柔軟な対応をはじめ、資格取得支援などがあげられています。

図表 74 事業所における職員募集の方法 [N=1,365 ; 複数回答]



図表 75 <月間収支別>事業所における職員募集の方法 [N=1,365 ; 複数回答]

	合計	職員からの紹介	ハローワークの利用	求人広告などの有料媒体	事業所のホームページ	人材派遣の利用	専門学校・養成校などの新卒者を募集	福祉人材センターを利用	その他	無回答
合計	1,365	769	1,030	689	295	174	235	288	128	46
	100.0	56.3	75.5	50.5	21.6	12.7	17.2	21.1	9.4	3.4
黒字である	263	165	235	166	91	53	70	66	17	5
	100.0	62.7	89.4	63.1	34.6	20.2	26.6	25.1	6.5	1.9
概ね均衡	490	295	369	246	105	60	83	109	31	11
	100.0	60.2	75.3	50.2	21.4	12.2	16.9	22.2	6.3	2.2
現在は赤字だが、近々黒字になる予定である	109	55	82	57	13	11	17	10	10	2
	100.0	50.5	75.2	52.3	11.9	10.1	15.6	9.2	9.2	1.8
継続的な赤字である	458	233	313	206	82	47	60	96	59	24
	100.0	50.9	68.3	45.0	17.9	10.3	13.1	21.0	12.9	5.2
無回答	45	21	31	14	4	3	5	7	11	4
	100.0	46.7	68.9	31.1	8.9	6.7	11.1	15.6	24.4	8.9

介護職員を確保するために行っている具体的な取組み内容

分類	内容
給与面の改善	評価を賞与に反映する、給与を確実に支払う、退職金制度、希望給与の支給、経験者採用時の前歴加算、資格手当等専門職に対する賃金水準の充実
勤務条件の改善	正職員として採用する、自由な休日取得、勤務時間のフレックス化
養成・研修	ヘルパー2級講習の実施、OJTの実施、未経験者でも基礎から指導する、介護者に負担が少ない介護技術を教育
勤務日・時間の調整	できるだけ休みの希望を聞く、職員の勤務時間の希望にできるだけそっている
子育てしやすい職場	職員の子どもを勤務時間中他の職員が事業所で預かる、学校・保育園の行事参加を優先する
職員からの紹介	職員による紹介(紹介料の支給)、6カ月勤務した場合紹介料を支給する
その他からの紹介	知人からの紹介、紹介して頂けるよう常に気を配っている
学校への働きかけ	養成校と連携している、出身校にOB訪問している、地元高校からの定期採用をしている
ハローワーク	ハローワークを利用する
求人媒体利用	求人サイトを利用する、チラシなどの求人媒体を利用する
求人窓口を増やす	求人窓口を増やす
実習生の受け入れ	ヘルパー資格取得に地域の講師として協力し実習の場を提供している、実習生へ募集している事を伝えている
資格取得支援	ヘルパー2級養成講座受講料貸付制度、資格取得の為50%会社負担、資格取得のための休日の配慮など
ホームページ	ホームページの作成、ホームページの充実
地域への働きかけ	地域への広報、地域の人と交流を持つ
人間関係のよい職場づくり	定期的にミーティングや食事会、定期的な面接(不安・不満の把握とその解消)に努めている、日常から話を多くする
その他	多くの専門職との出会いの場をつくる、介護体験事業等の積極的な活用、人材派遣会社を利用している

看護職員を確保するために行っている具体的な取組み内容

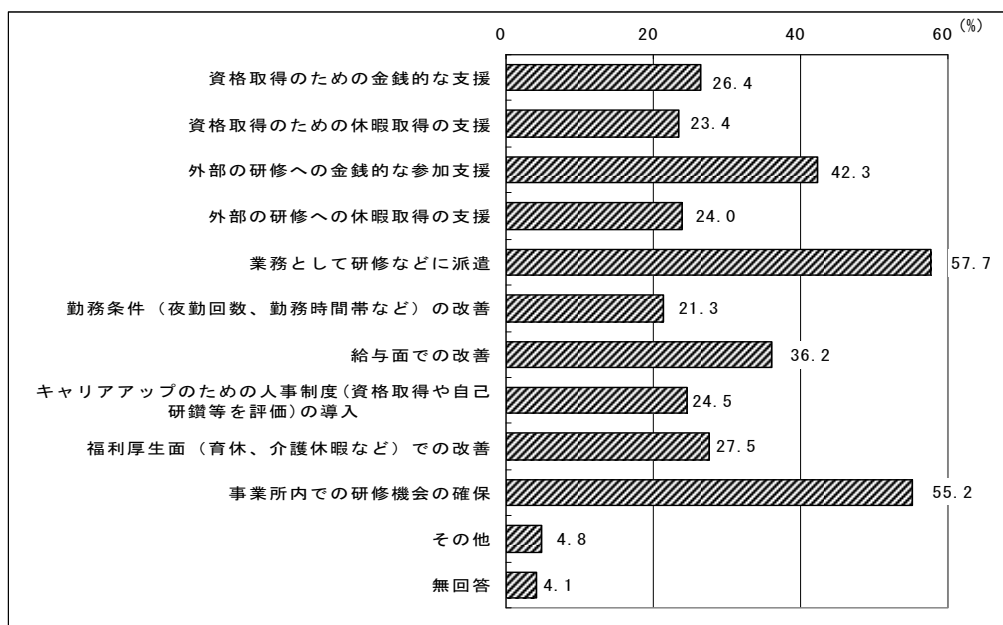
分類	内容
給与面の改善	給与のアップ、資格・経験により給与の加算
勤務条件の改善	正職員として採用する、職員の都合に合わせた変則勤務としている、休暇がとりやすい体制をとっている
研修	外部研修の充実、業務として外部研修に参加している
勤務日・時間の調整	できるだけ職員のライフスタイルに合った雇用方法を取る
子育てしやすい職場	育児休職にかかわる制度改正、産休等の制度充実
職員からの紹介	職員からの紹介制度(御礼金一封)を実施している
ハローワーク	ハローワークへの登録
求人媒体の利用	各種求人媒体の活用、求人サイトの利用
求人窓口を増やす	求人窓口を増やす
実習生の受け入れ	看護学生の実習を積極的に受け入れ、将来訪問看護師を希望されるよう指導している
ホームページ	ホームページの作成
地域への働きかけ	地域への広報
人間関係のよい職場づくり	定期的な面接(不安・不満等の把握とその解消)に努めている、上司とのコミュニケーション
その他	カムバックセミナーを開催、看護学生に対する奨学金の貸与、1日看護体験、人材派遣会社の活用、併設病院からの異動、同一法人内の事業所間での応援勤務、看護協会への依頼(ナースバンクへの登録)

### ③職員定着のためにやっている取組み

職員定着のためにやっている取組みについてきいたところ、「業務として研修などに派遣」の割合が57.7%と最も高く、次いで、「事業所内での研修機会の確保」が55.2%となっています。

月間収支別にみると、黒字の事業所は他に比べて、さまざまな取組みを実施しています。その他では、現在は赤字であるが黒字になる見込みの事業所においては、他に比べて特に「資格取得のための金銭的な支援」を行っている割合が高くなっています。

図表 76 職員定着のためにやっている取組み [N=1,365 ; 複数回答]



図表 77 <月間収支別>職員定着のためにやっている取組み [N=1,365 ; 複数回答]

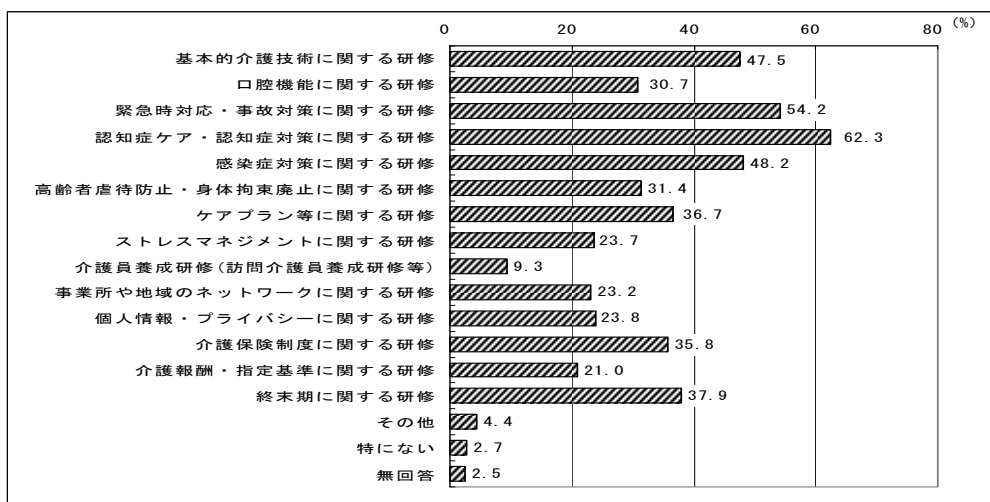
	合計	資格取得のための金銭的な支援	資格取得のための休暇取得の支援	外部の研修への金銭的な参加支援	外部の研修への休暇取得の支援	派遣	勤務条件（夜勤回数、勤務時間帯など）の改善	給与面での改善	人事制度（資格取得や自己研鑽等を評価）の導入	福利厚生面（育休、介護休暇など）での改善	事業所内での研修機会の確保	その他	無回答
合計	1,365	361	319	577	328	788	291	494	335	375	754	65	56
	100.0	26.4	23.4	42.3	24.0	57.7	21.3	36.2	24.5	27.5	55.2	4.8	4.1
黒字である	263	62	57	146	61	179	63	108	93	104	176	10	4
	100.0	23.6	21.7	55.5	23.2	68.1	24.0	41.1	35.4	39.5	66.9	3.8	1.5
概ね均衡	490	110	103	187	113	284	108	183	112	124	273	26	19
	100.0	22.4	21.0	38.2	23.1	58.0	22.0	37.3	22.9	25.3	55.7	5.3	3.9
現在は赤字だが、近々黒字になる予定である	109	45	31	53	33	52	25	49	24	33	60	3	0
	100.0	41.3	28.4	48.6	30.3	47.7	22.9	45.0	22.0	30.3	55.0	2.8	0.0
継続的な赤字である	458	134	119	177	111	250	90	146	95	111	225	25	28
	100.0	29.3	26.0	38.6	24.2	54.6	19.7	31.9	20.7	24.2	49.1	5.5	6.1
無回答	45	10	9	14	10	23	5	8	11	3	20	1	5
	100.0	22.2	20.0	31.1	22.2	51.1	11.1	17.8	24.4	6.7	44.4	2.2	11.1

#### ④事業所の職員に受けさせたい研修

事業所の職員に受けさせたいと思われる研修についてきいたところ、「認知症ケア・認知症対策に関する研修」の割合が 62.3%と最も高く、次いで、「緊急時対応・事故対策に関する研修」が 54.2%となっています。

月間収支別にみると、黒字の事業所は他の事業所に比べて、比較的さまざまな研修を受けさせたいと考えていることがうかがえます。

図表 78 事業所の職員に、受けさせたい研修[N=1,365；複数回答]



図表 79 <月間収支別>事業所の職員に、受けさせたいと思われる研修[N=1,365；複数回答]

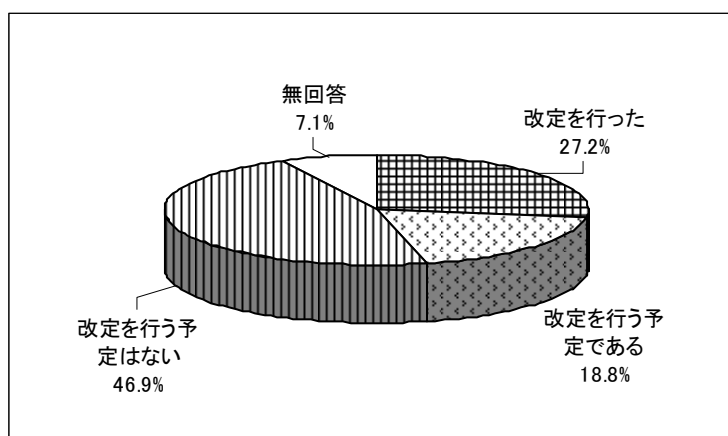
	合計	基本的介護技術に関する研修	口腔機能に関する研修	緊急時対応・事故対策に関する研修	認知症ケア・認知症対策に関する研修	感染症対策に関する研修	高齢者虐待防止・身体拘束廃止に関する研修	ケアプラン等に関する研修	ストレスマネジメントに関する研修	介護員養成研修(訪問介護員養成研修等)	事業所や地域のネットワークに関する研修	個人情報・プライバシーに関する研修	介護保険制度に関する研修	介護報酬・指定基準に関する研修	終末期に関する研修	その他	特にない	無回答
合計	1,365	649	419	740	851	658	429	501	324	127	317	325	488	286	518	60	37	34
	100.0	47.5	30.7	54.2	62.3	48.2	31.4	36.7	23.7	9.3	23.2	23.8	35.8	21.0	37.9	4.4	2.7	2.5
黒字である	263	154	105	172	201	164	119	82	64	22	54	77	92	47	131	11	2	5
	100.0	58.6	39.9	65.4	76.4	62.4	45.2	31.2	24.3	8.4	20.5	29.3	35.0	17.9	49.8	4.2	0.8	1.9
概ね均衡	490	238	152	270	305	244	140	178	113	55	111	98	161	91	179	18	18	7
	100.0	48.6	31.0	55.1	62.2	49.8	28.6	36.3	23.1	11.2	22.7	20.0	32.9	18.6	36.5	3.7	3.7	1.4
現在は赤字だが、 近々黒字になる予定 である	109	56	37	68	61	53	37	43	27	9	30	33	42	20	37	6	1	0
	100.0	51.4	33.9	62.4	56.0	48.6	33.9	39.4	24.8	8.3	27.5	30.3	38.5	18.3	33.9	5.5	0.9	0.0
継続的な赤字である	458	179	109	205	260	177	119	187	115	36	117	108	176	116	158	21	16	15
	100.0	39.1	23.8	44.8	56.8	38.6	26.0	40.8	25.1	7.9	25.5	23.6	38.4	25.3	34.5	4.6	3.5	3.3
無回答	45	22	16	25	24	20	14	11	5	5	5	9	17	12	13	4	0	7
	100.0	48.9	35.6	55.6	53.3	44.4	31.1	24.4	11.1	11.1	11.1	20.0	37.8	26.7	28.9	8.9	0.0	15.6

### ⑤平成 21 年4月の介護報酬改定を踏まえた、職員の待遇の改定の有無

平成 21 年 4 月の介護報酬改定を踏まえ、職員の待遇の改定を行ったかについてきいたところ、「改定を行う予定はない」が 46.9%と最も高く、次いで、「改定を行った」が 27.2%となっています。

月間収支別にみると、黒字の事業所は「改定を行った」割合が他に比べて高くなっています。一方、継続的な赤字の事業所は半数以上が「改定を行う予定はない」としており、事業所の収支によって、職員の待遇がかなり異なっています。

図表 80 平成 21 年 4 月の介護報酬改定を踏まえた、職員の待遇の改定の有無 [N=1, 365]



図表 81 <月間収支別>平成 21 年 4 月の介護報酬改定を踏まえた、職員の待遇の改定の有無 [N=1, 365]

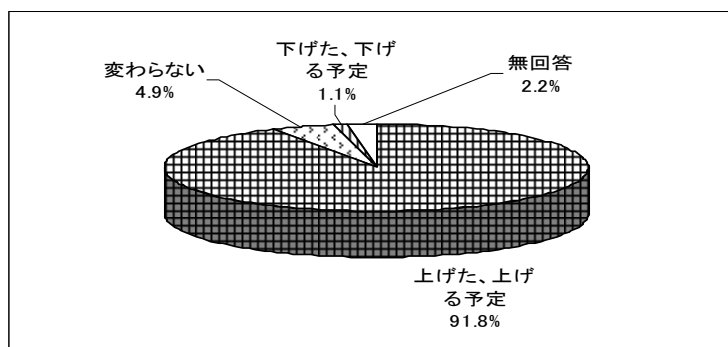
	合計	改定を行った	改定を行う予定である	改定を行う予定はない	無回答
合計	1,365	371	257	640	97
	100.0	27.2	18.8	46.9	7.1
黒字である	263	104	51	95	13
	100.0	39.5	19.4	36.1	4.9
概ね均衡	490	139	98	223	30
	100.0	28.4	20.0	45.5	6.1
現在は赤字だが、近々黒字になる予定である	109	23	36	43	7
	100.0	21.1	33.0	39.4	6.4
継続的な赤字である	458	96	68	261	33
	100.0	21.0	14.8	57.0	7.2
無回答	45	9	4	18	14
	100.0	20.0	8.9	40.0	31.1

## ⑥改定を行った結果の待遇について

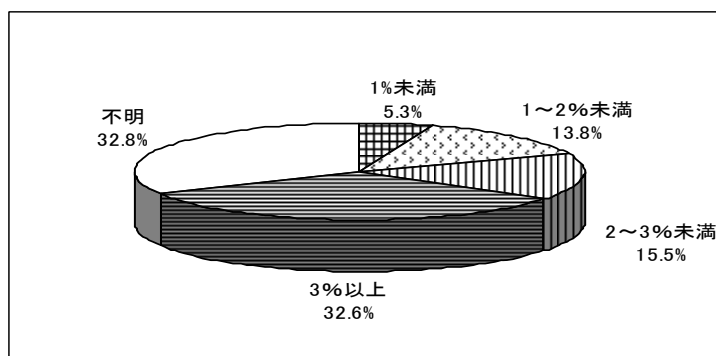
改定を行った結果についてきいたところ、待遇を「上げた、上げる予定」の割合が91.8%と最も高く、次いで、「変わらない」が4.9%となっています。

「上げた、上げる予定」の事業所のなかでは「3%以上」が32.6%と最も高くなっています。また平均では2.9%となっています。

図表 82 改定を行った結果の待遇について [N=371]



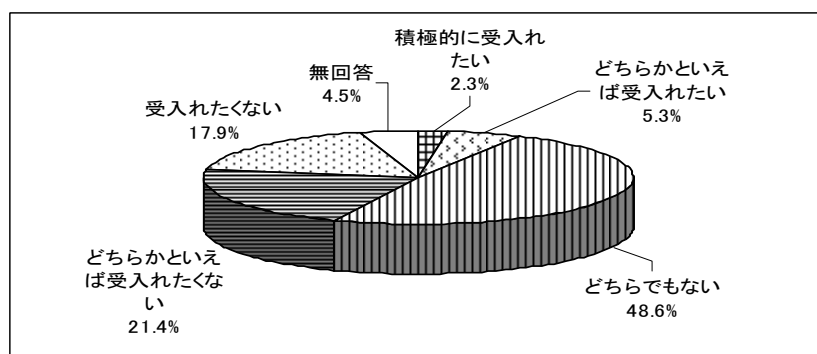
図表 83 上げた、上げる予定の割合 [N=341]



## ⑦外国人労働者の受入れ

外国人労働者の受入れについてきいたところ、「積極的に受け入れたい」が2.3%、「どちらかといえば受け入れたい」が5.3%と、受け入れに前向きなところが約8%、「どちらでもない」が48.6%、「どちらかといえば受け入れたくない」が21.4%、「受け入れたくない」が17.9%と、受け入れにやや否定的なところが約39%となっています。

図表 84 外国人労働者の受入れ [N=1,365]

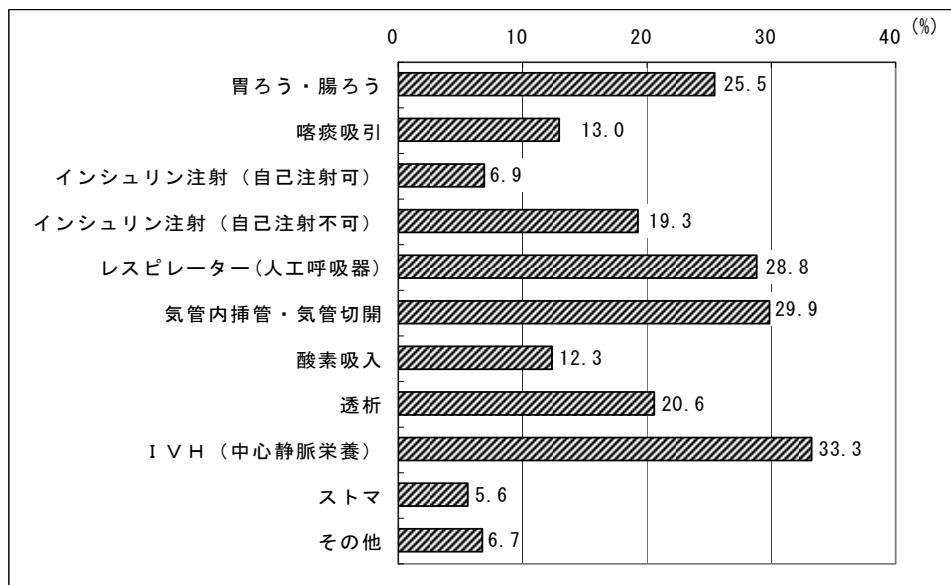


#### (4) 医療ニーズへの対応について

##### ① 対応が困難であることを理由に利用を断ったことのある医療行為

通所系・入所系サービス事業者に、対応が困難であることを理由に利用を断ったことのある医療行為についてきいたところ、「I V H（中心静脈栄養）」（33.3%）、「気管内挿管・気管切開」（29.9%）、「レスピレーター（人工呼吸器）」（28.8%）、「胃ろう・腸ろう」（25.5%）の割合が比較的高くなっています。

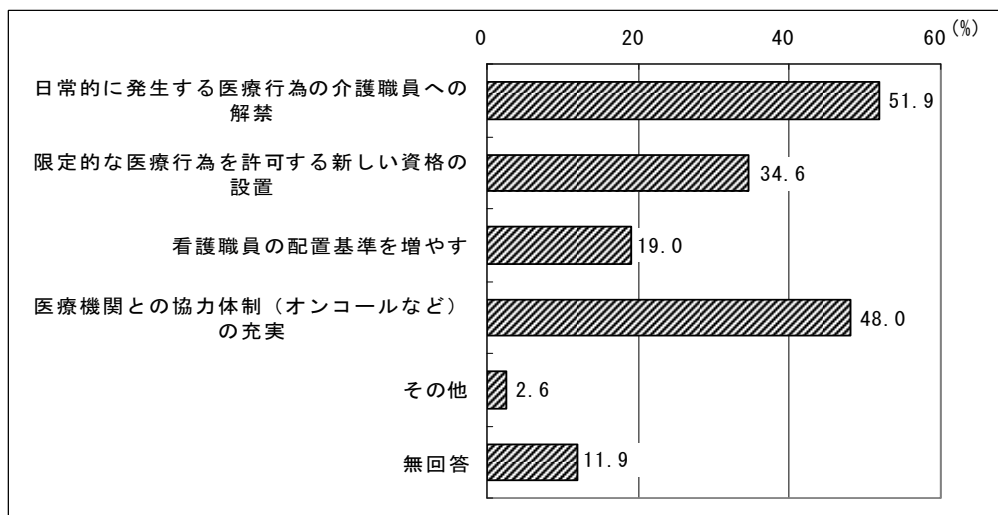
図表 85 対応が困難であることを理由に利用を断ったことのある医療行為 [N=538；複数回答]



##### ② 医療的ニーズに応えるために有効だと思う対策

通所系・入所系サービス事業者に、医療的ニーズに応えるために有効だと思う対策についてきいたところ、「日常的に発生する医療行為の介護職員への解禁」が51.9%と最も高く、次いで、「医療機関との協力体制（オンコールなど）の充実」が48.0%となっています。

図表 86 医療的ニーズに応えるために有効だと思う対策 [N=538；複数回答]





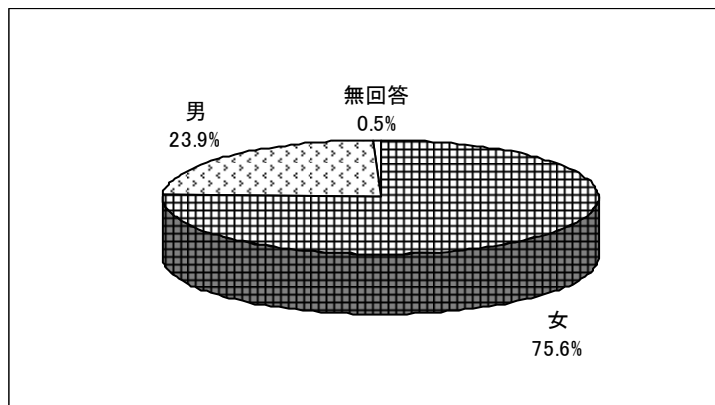
## 5. 従事者について

### (1) 回答者の属性

#### ① 性別

性別についてきいたところ、「女」が75.6%、「男」が23.9%となっています。

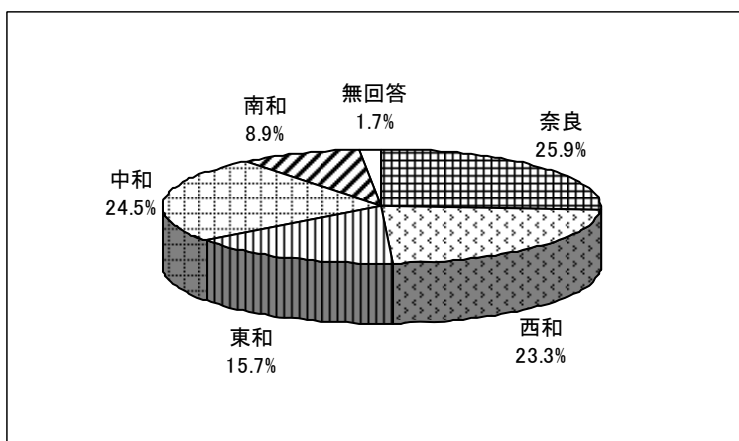
図表 87 性別 [N=3,379]



#### ② 圏域

所属事業所の圏域についてきいたところ、「奈良」(25.9%)、「中和」(24.5%)の割合が高くなっています。

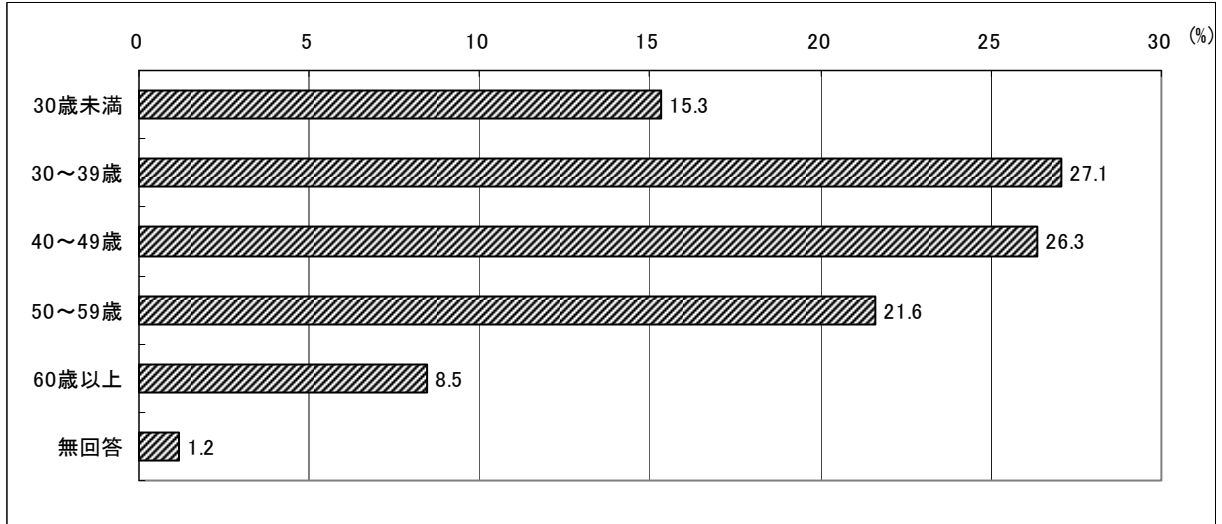
図表 88 圏域 [N=1,336]



### ③年齢

年齢についてきいたところ、「30～39歳」の割合が27.1%と最も高く、次いで、「40～49歳」が26.3%となっています。

図表 89 年齢[N=3,379]

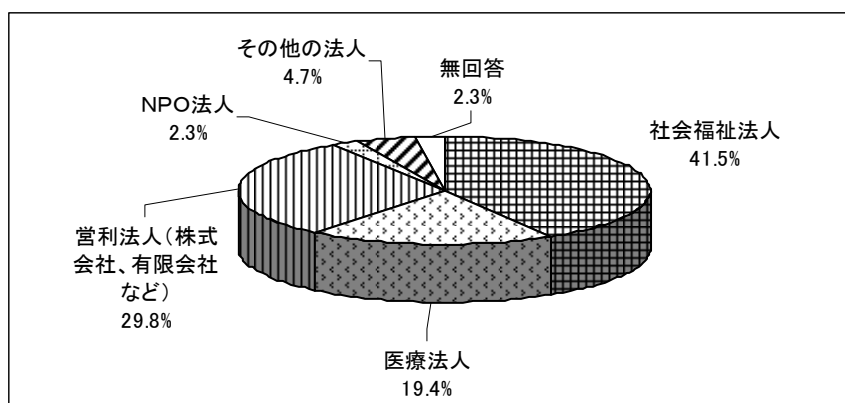


## (2) 仕事の状況について

### ① 所属事業所の運営主体

所属事業所の運営主体についてきいたところ、「社会福祉法人」の割合が41.5%と最も高く、次いで、「営利法人（株式会社、有限会社など）」が29.8%となっています。

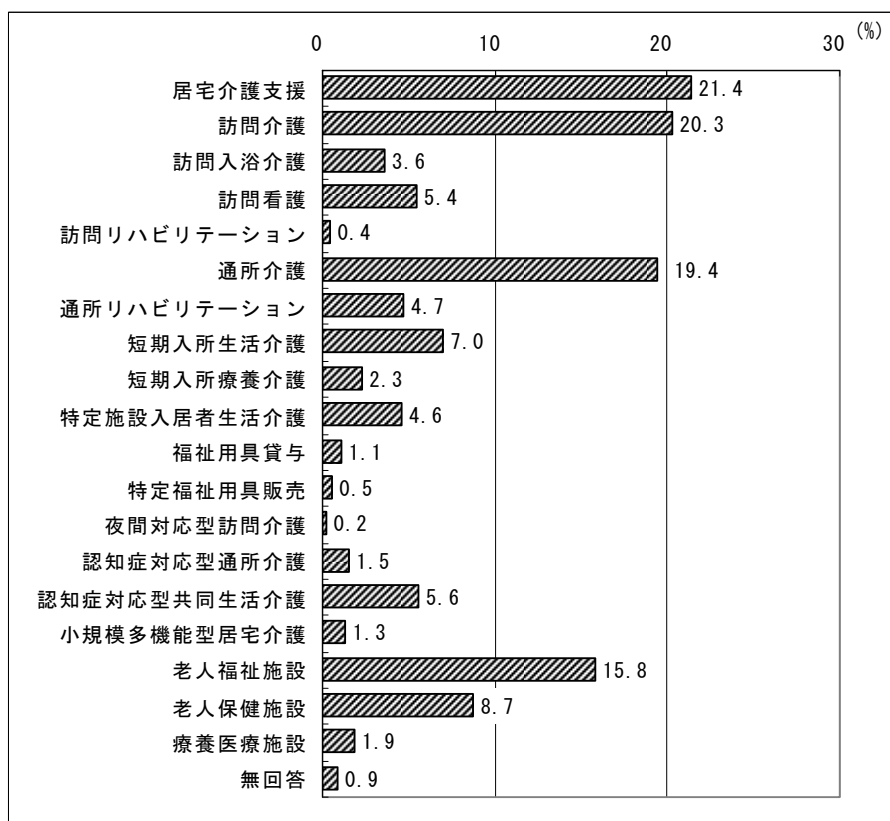
図表 90 所属事業所の運営主体 [N=3,379]



### ② 担当サービスの種類

担当サービスの種類についてきいたところ、「居宅介護支援」が21.4%と最も高く、次いで、「訪問介護」が20.3%となっています。

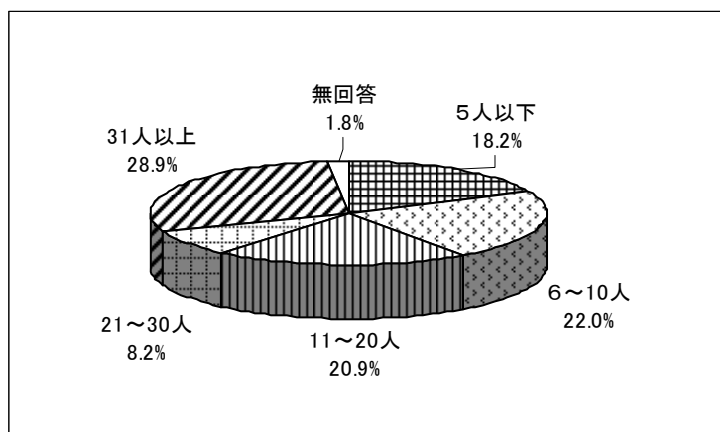
図表 91 担当サービスの種類 [N=3,379 ; 複数回答]



### ③事業所職員数

事業所職員数についてきいたところ、「31人以上」の割合が28.9%と最も高く、次いで、「6～10人」が22.0%となっています。

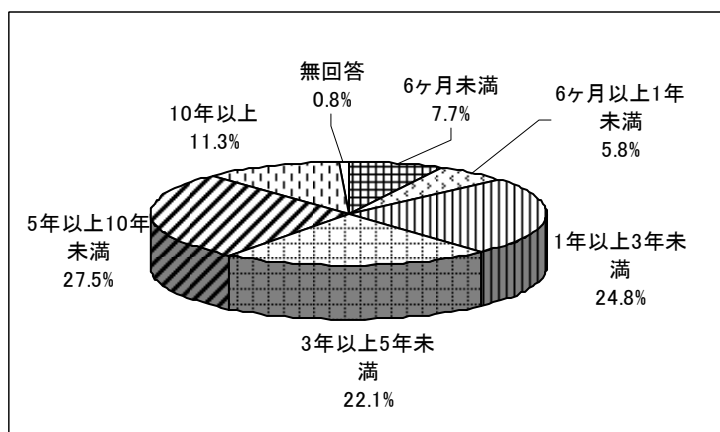
図表 92 事業所職員数 [N=3,379]



### ④勤務年数

勤務年数についてきいたところ、「5年以上10年未満」の割合が27.5%と最も高く、次いで、「1年以上3年未満」が24.8%となっています。

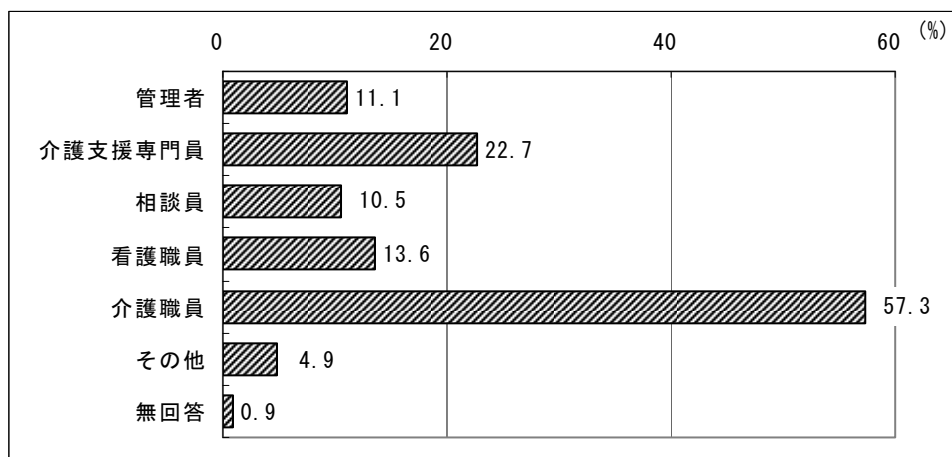
図表 93 勤務年数 [N=3,379]



### ⑤現在の職種

現在の職種についてきいたところ、「介護職員」の割合が57.3%と最も高く、次いで、「介護支援専門員」が22.7%となっています。

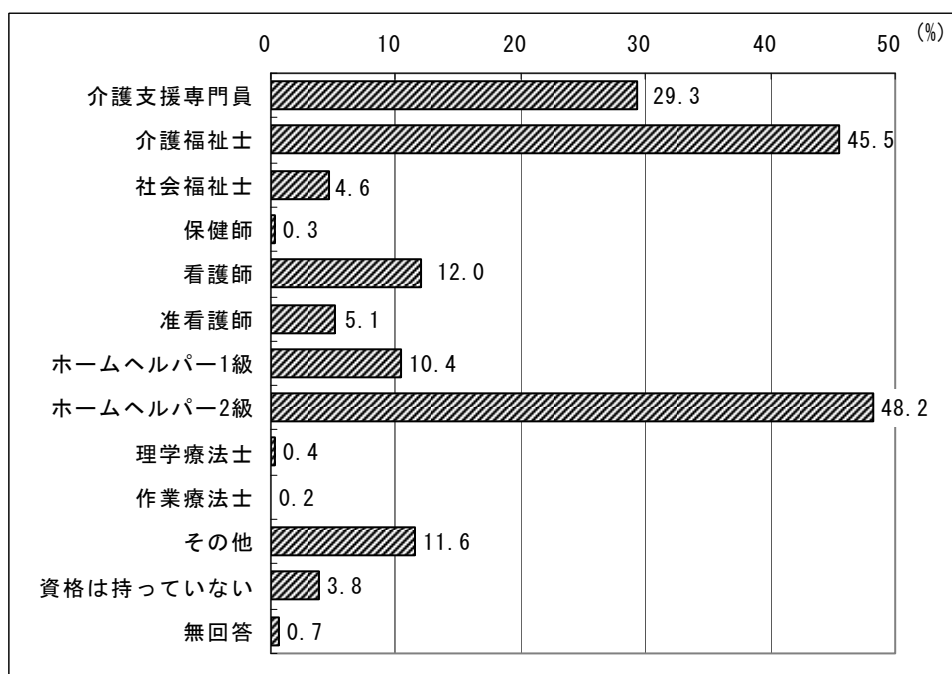
図表 94 現在の職種 [N=3,379 ; 複数回答]



### ⑥持っている介護資格

持っている介護資格についてきいたところ、「ホームヘルパー2級」の割合が48.2%と最も高く、次いで、「介護福祉士」が45.5%となっています。

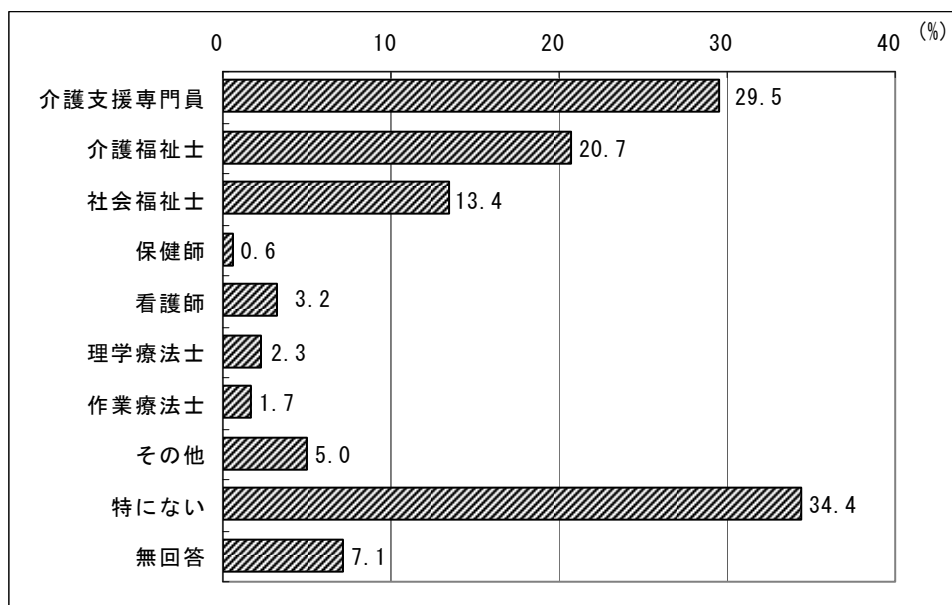
図表 95 持っている介護資格 [N=3,379 ; 複数回答]



### ⑦今から取得したい介護資格

今から取得したい介護資格についてきいたところ、「特にない」の割合が34.4%と最も高く、次いで、「介護支援専門員」が29.5%となっています。

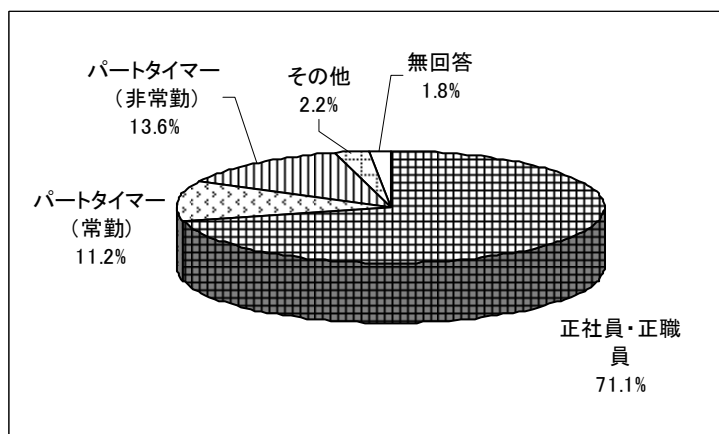
図表 96 今から取得したい介護資格 [N=3,379 ; 複数回答]



### ⑧現在の雇用形態

現在の雇用形態についてきいたところ、「正社員・正職員」の割合が71.1%と最も高く、次いで、「パートタイマー（非常勤）」が13.6%となっています。

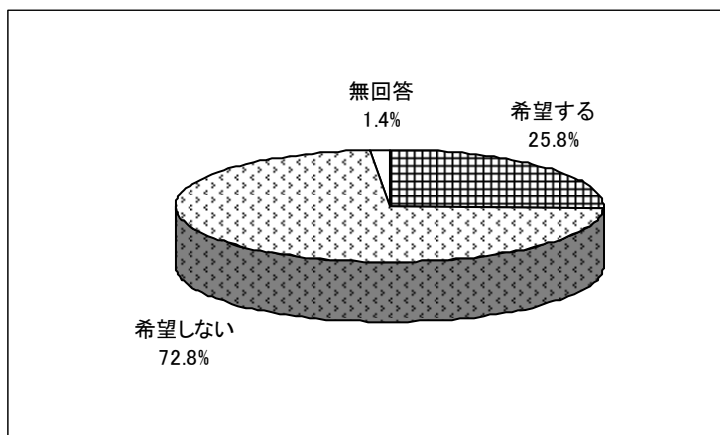
図表 97 現在の雇用形態 [N=3,379]



### ⑨非正規職員の正社員・正職員への移行希望

非正規職員に対して正社員・正職員への移行希望についてきいたところ、「希望しない」が72.8%、「希望する」が25.8%となっています。

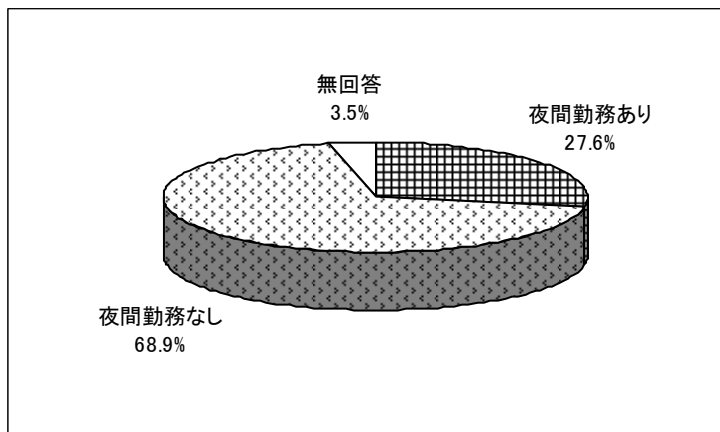
図表 98 非正規職員の正社員・正職員への移行希望 [N=838]



### ⑩夜間勤務(22時～翌5時)の有無の有無

夜間勤務(22時～翌5時)の有無についてきいたところ、「夜間勤務なし」が68.9%、「夜間勤務あり」が27.6%となっています。

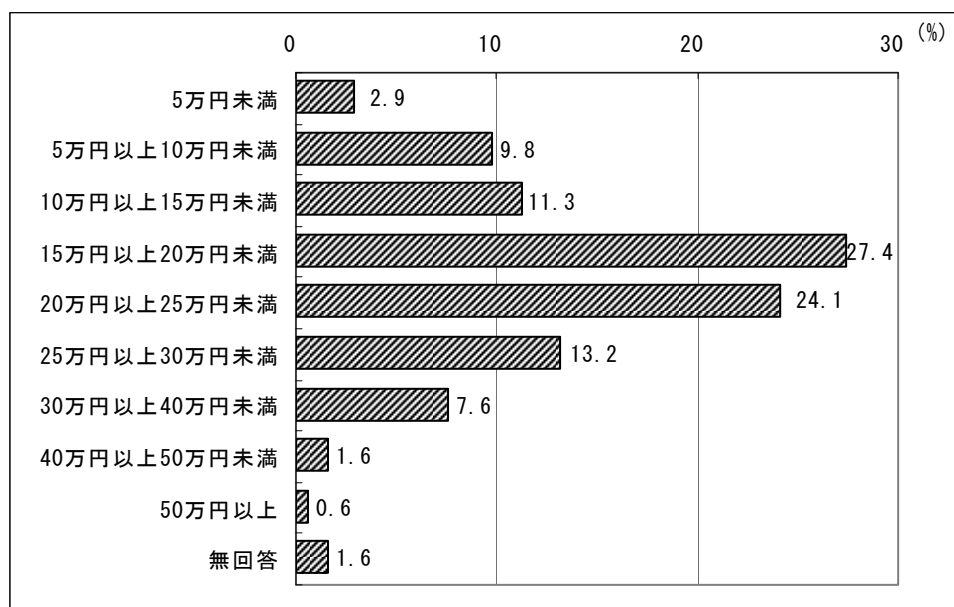
図表 99 夜間勤務(22時～翌5時)の有無 [N=3,379]



### ⑪平均的な月収額

平均的な月収額についてきいたところ、「15万円以上20万円未満」の割合が27.4%と最も高く、次いで、「20万円以上25万円未満」が24.1%となっています。

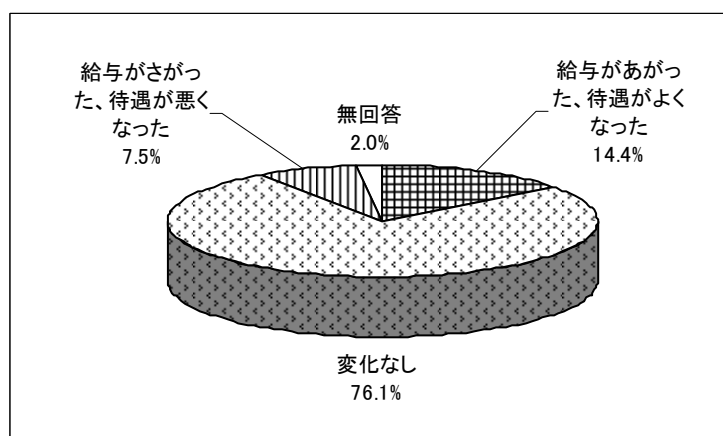
図表 100 平均的な月収額[N=3,379]



### ⑫平成 21 年4月の介護報酬改定による、待遇面での変化

平成 21 年 4 月の介護保険報酬改定による、待遇面での変化についてきいたところ、「変化なし」の割合が 76.1%と最も高く、次いで、「給与があがった、待遇がよかった」が 14.4%となっています。

図表 101 平成 21 年 4 月の介護保険報酬改定による、待遇面での変化[N=3,379]



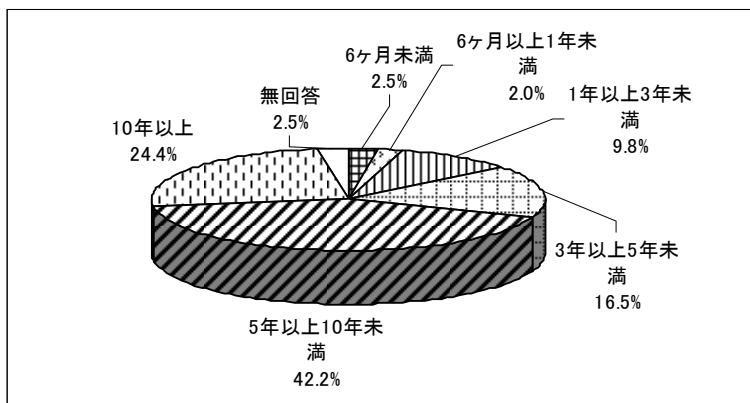


### (3) 介護の仕事への就労について

#### ① 介護の仕事をはじめてからの経験年数

介護の仕事をはじめてからの経験年数についてきいたところ、「5年以上10年未満」の割合が42.2%と最も高く、次いで、「10年以上」が24.4%となっています。

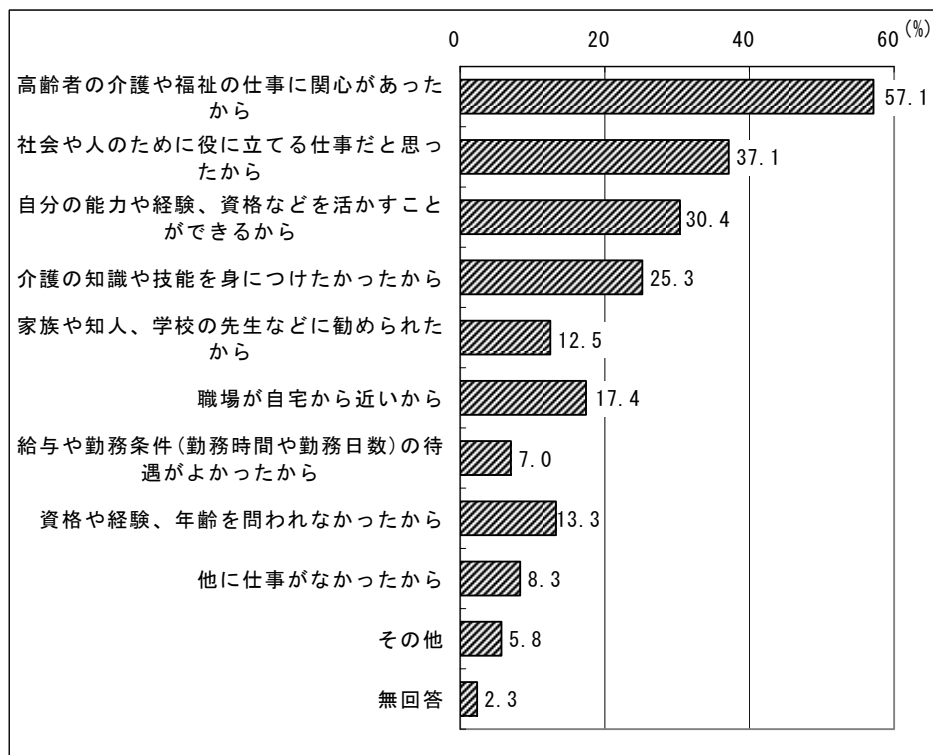
図表 102 介護の仕事をはじめてからの経験年数 [N=3, 379]



#### ② 介護の仕事を選んだ理由

介護の仕事を選んだ理由についてきいたところ、「高齢者の介護や福祉の仕事に関心があったから」の割合が57.1%と最も高く、次いで、「社会や人のために役に立てる仕事だと思ったから」が37.1%となっています。

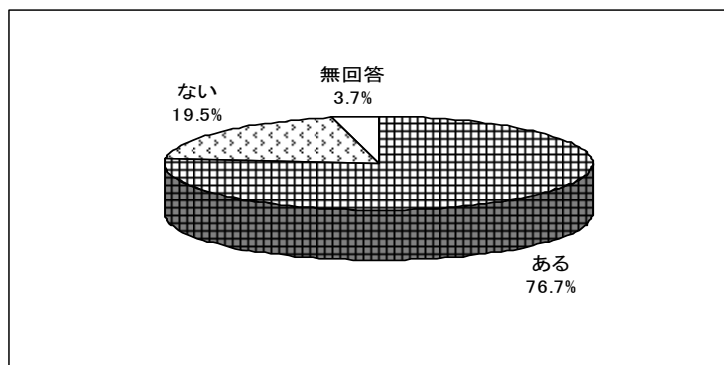
図表 103 介護の仕事を選んだ理由 [N=3, 379 ; 複数回答]



### ③介護以外の仕事の経験

介護以外の仕事の経験についてきいたところ、「ある」が76.7%、「ない」が19.5%となっています。

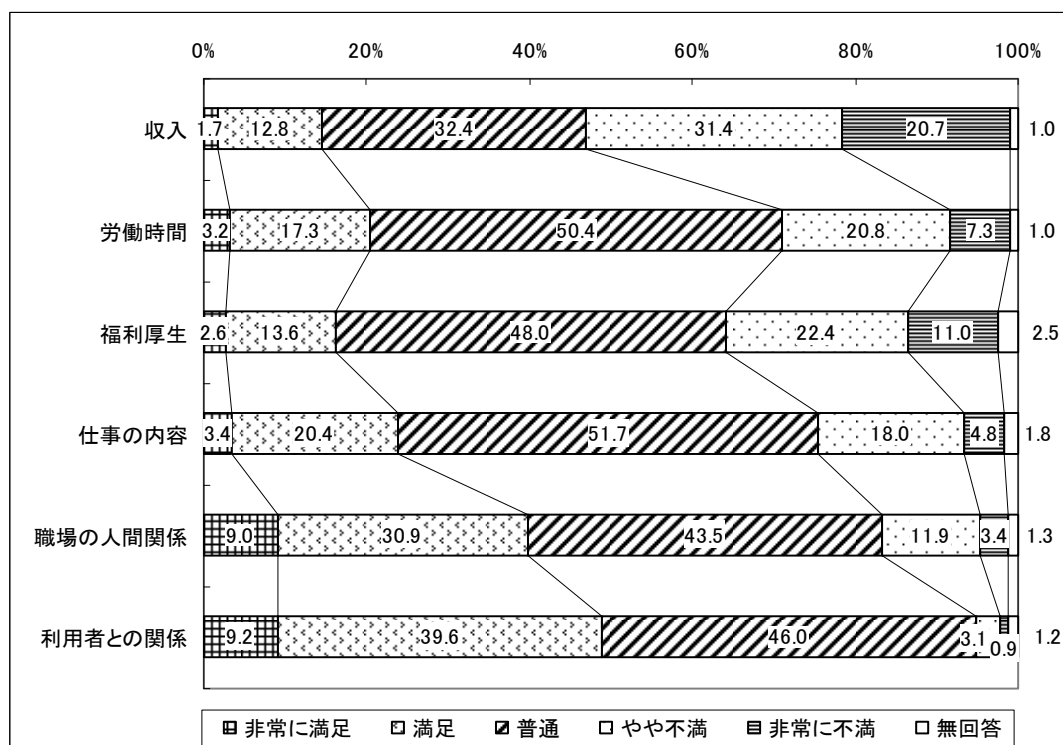
図表 104 介護以外の仕事の経験 [N=3, 379]



### (4) 仕事や職場に対する満足度

仕事や職場等の満足度についてきいたところ、収入では約半数が「やや不満」または「非常に不満」としており、他に比べて不満を感じている人の割合が高くなっています。一方、労働時間、福利厚生、仕事の内容では半数前後が「普通」としています。また、職場の人間関係、利用者との関係では「普通」の割合が高いものの、他に比べて「非常に満足」または「満足」とする人の割合が高くなっています。特に利用者との関係では約半数が「満足」としています。

図表 105 満足度 [N=3, 379]

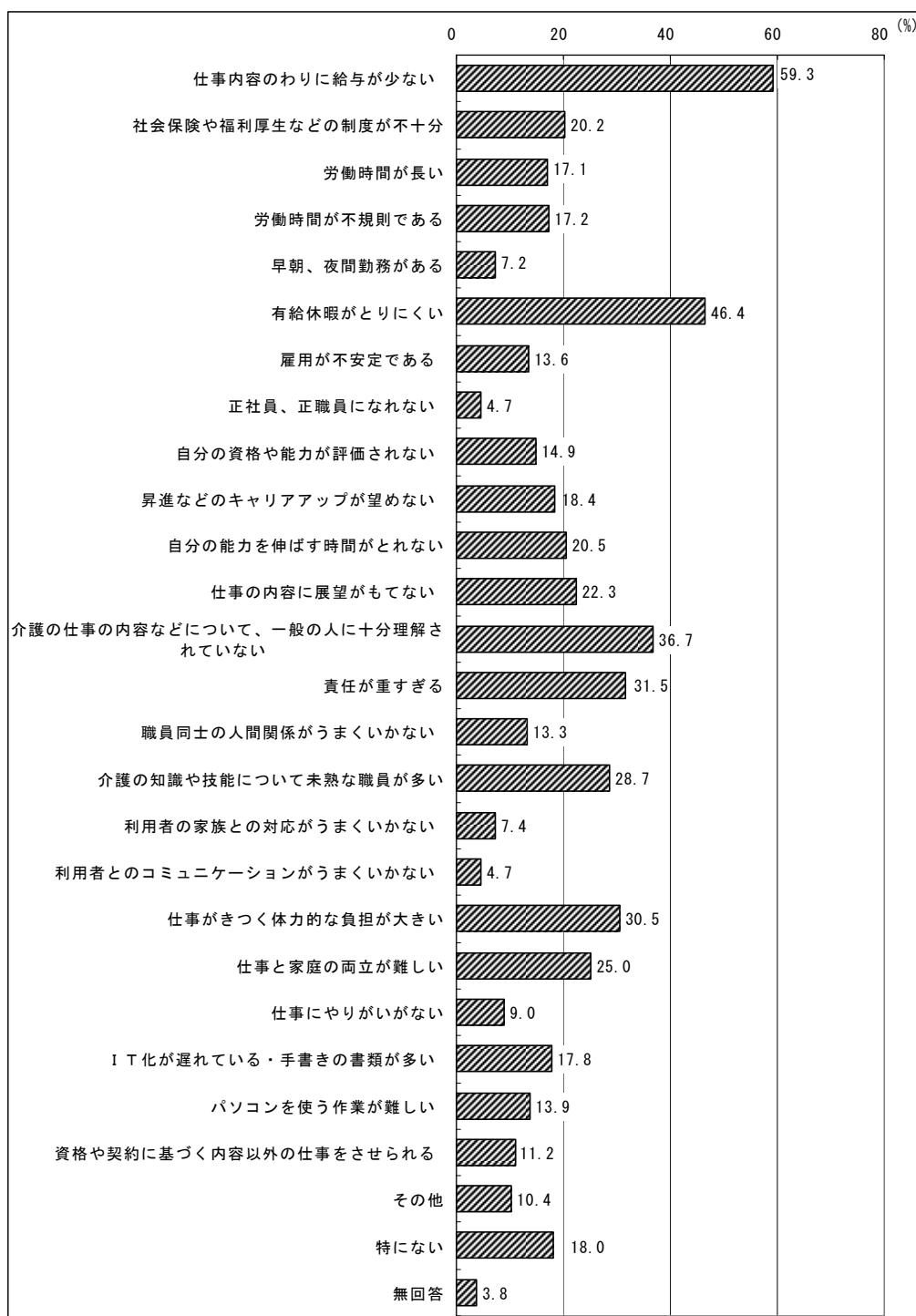


## (5) 仕事に対する不安や負担感

### ①介護の仕事をするうえでの悩みや不安、負担感の有無

介護の仕事をするうえでの悩みや不安、負担感の有無についてきいたところ、「仕事内容のわりに給与が少ない」が59.3%と最も高く、次いで、「有給休暇がとりにくい」が46.4%となっています。

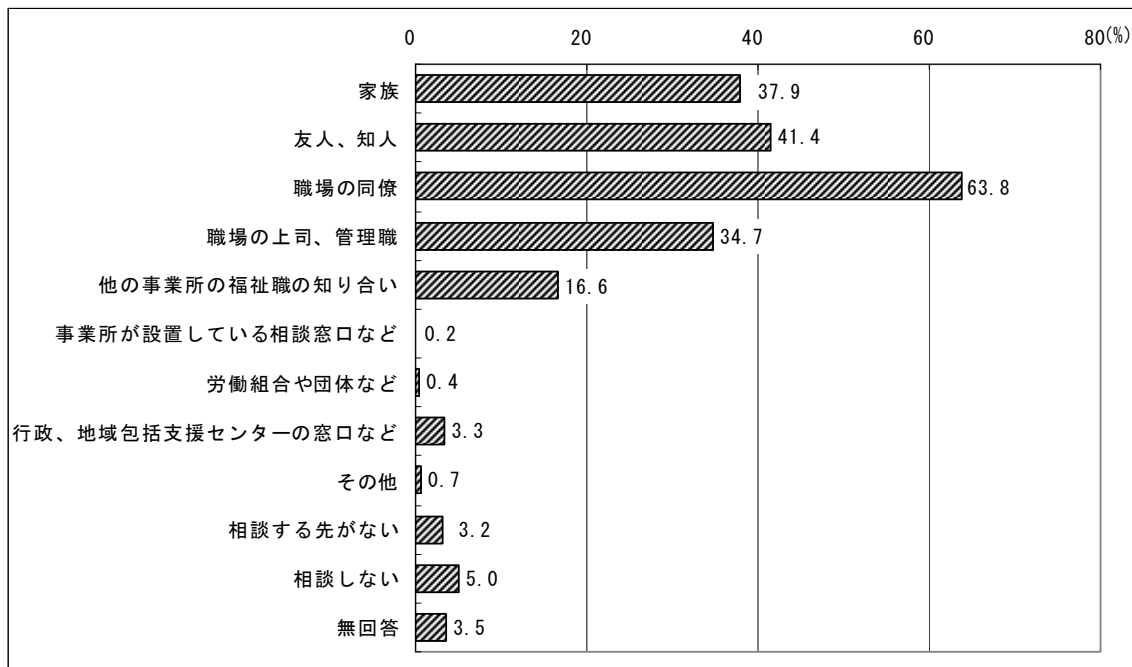
図表 106 介護の仕事をするうえでの悩みや不安、負担感の有無 [N=3,379；複数回答]



## ②悩みや不安の相談相手

悩みや不安の相談相手についてきいたところ、「職場の同僚」の割合が63.8%と最も高く、次いで、「友人、知人」が41.4%となっています。

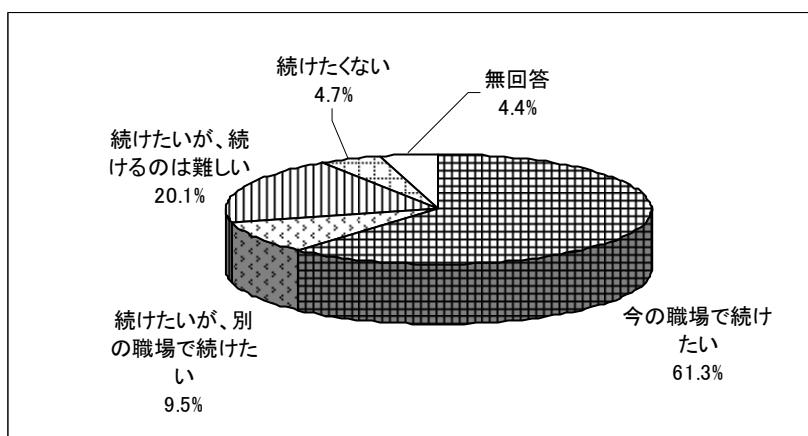
図表 107 悩みや不安の相談相手 [N=3, 379 ; 複数回答]



## ③介護の仕事を今後も続けていきたいか

介護の仕事を今後も続けていきたいかきいたところ、「今の職場で続けたい」が61.3%と最も高く、次いで、「続けたいが、続けるのは難しい」が20.1%となっています。

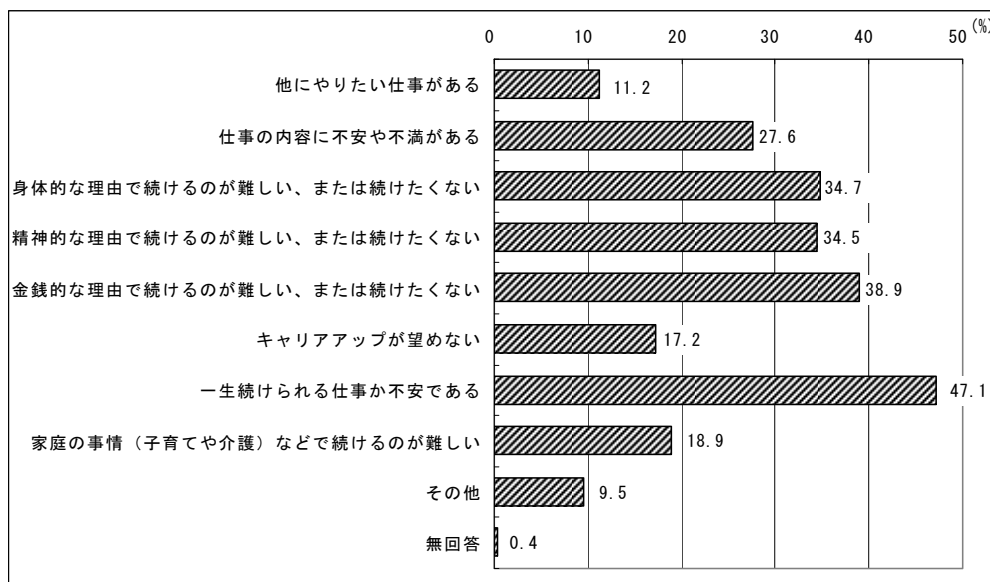
図表 108 介護の仕事を今後も続けていきたいか [N=3, 379]



#### ④続けるのが難しい、または続けたくない理由

続けるのが難しい、または続けたくない理由についてきいたところ、「一生続けられる仕事か不安である」の割合が47.1%と最も高く、次いで、「金銭的な理由で続けるのが難しい、または続けたくない」が38.9%となっています。

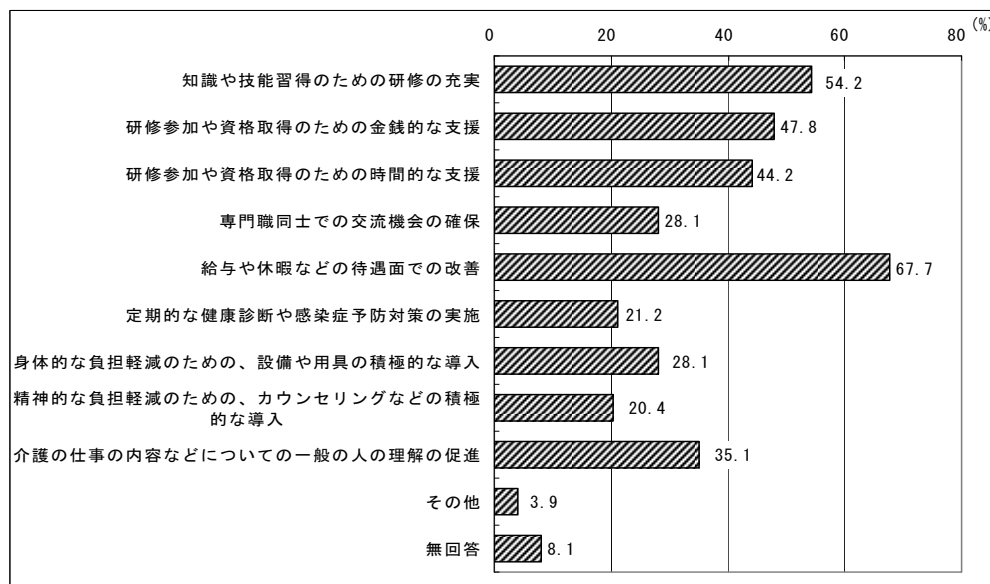
図表 109 続けるのが難しい、または続けたくない理由 [N=838 ; 複数回答]



#### ⑤介護サービス従事者をとりまく環境をよりよくするために必要だと思うこと

介護サービス従事者をとりまく環境をよりよくするために必要だと思うことについてきいたところ、「給与や休暇などの待遇面での改善」の割合が67.7%と最も高く、次いで、「知識や技能習得のための研修の充実」が54.2%となっています。

図表 110 介護サービス従事者をとりまく環境をよりよくするために必要だと思うこと [N=3,379 ; 複数回答]

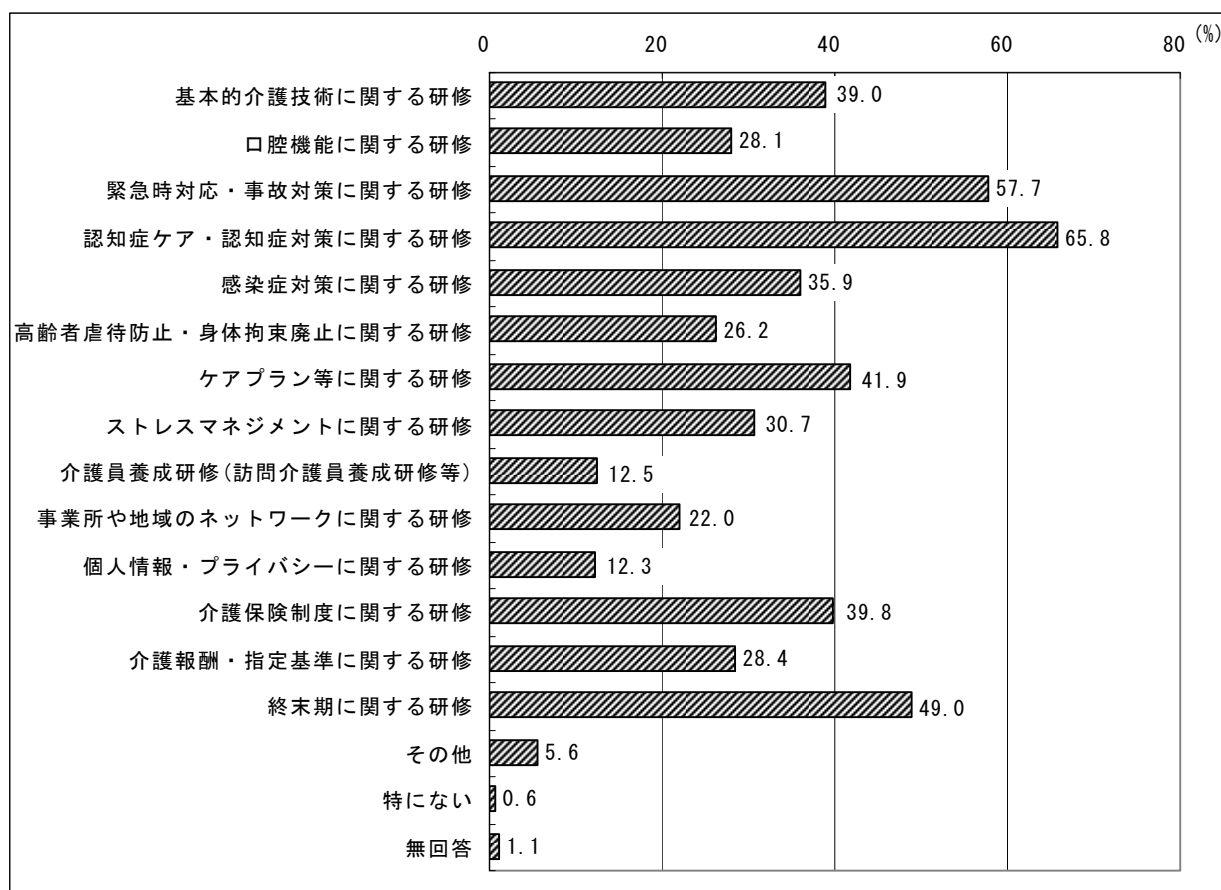


## ⑥今後、受けてみたい研修

知識や技能習得のための研修の充実を希望する人に、今後、受けてみたい研修についてきいたところ、「認知症ケア・認知症対策に関する研修」の割合が65.8%と最も高く、次いで、「緊急時対応・事故対策に関する研修」が57.7%となっています。

職種別にみると、上位にあがっているものに大きな違いはみられませんが、それ以外では、「管理者」では「事業所や地域のネットワークに関する研修」を、「介護支援専門員」では「ケアプラン等に関する研修」や「事業所や地域のネットワークに関する研修」を、「相談員」では「事業所や地域のネットワークに関する研修」や「介護報酬・指定基準に関する研修」を、「看護職員」では「終末期に関する研修」を、「介護職員」では「基本的介護技術に関する研修」をあげる人の割合が他に比べて高くなっています。

図表 111 今後、受けてみたい研修 [N=1,830 ; 複数回答]



図表 112 職種別 今後、受けてみたい研修[N=1830；複数回答]

	合計	基本的介護技術に関する研修	口腔機能に関する研修	緊急時対応・事故対策に関する研修	認知症ケア・認知症対策に関する研修	感染症対策に関する研修	高齢者虐待防止・身体拘束廃止に関する研修	ケアプラン等に関する研修	ストレスマネジメントに関する研修	介護員養成研修(訪問介護員養成研修等)	事業所や地域のネットワークに関する研修	個人情報・プライバシーに関する研修	介護保険制度に関する研修	介護報酬・指定基準に関する研修	終末期に関する研修	その他	特にない	無回答
合計	1,830	713	514	1,056	1,204	657	479	766	561	228	402	225	728	519	896	102	11	20
	100.0	39.0	28.1	57.7	65.8	35.9	26.2	41.9	30.7	12.5	22.0	12.3	39.8	28.4	49.0	5.6	0.6	1.1
管理者	210	71	54	110	132	86	68	99	83	20	65	31	78	61	120	15	1	3
	100.0	33.8	25.7	52.4	62.9	41.0	32.4	47.1	39.5	9.5	31.0	14.8	37.1	29.0	57.1	7.1	0.5	1.4
介護支援 専門員	451	113	102	194	256	129	140	263	176	37	163	62	164	121	238	33	2	4
	100.0	25.1	22.6	43.0	56.8	28.6	31.0	58.3	39.0	8.2	36.1	13.7	36.4	26.8	52.8	7.3	0.4	0.9
相談員	191	74	38	106	113	54	49	88	70	13	63	32	83	71	79	21	1	1
	100.0	38.7	19.9	55.5	59.2	28.3	25.7	46.1	36.6	6.8	33.0	16.8	43.5	37.2	41.4	11.0	0.5	0.5
看護職員	255	73	84	155	167	115	49	58	76	16	42	24	75	48	151	15	1	4
	100.0	28.6	32.9	60.8	65.5	45.1	19.2	22.7	29.8	6.3	16.5	9.4	29.4	18.8	59.2	5.9	0.4	1.6
介護職員	1,034	479	323	661	719	401	285	425	302	168	187	129	449	317	497	49	7	13
	100.0	46.3	31.2	63.9	69.5	38.8	27.6	41.1	29.2	16.2	18.1	12.5	43.4	30.7	48.1	4.7	0.7	1.3
その他	94	43	34	58	57	35	20	39	27	12	18	19	39	26	46	9	-	-
	100.0	45.7	36.2	61.7	60.6	37.2	21.3	41.5	28.7	12.8	19.1	20.2	41.5	27.7	48.9	9.6	-	-
無回答	16	8	5	11	12	6	7	7	5	1	1	-	8	4	9	-	-	-
	100.0	50.0	31.3	68.8	75.0	37.5	43.8	43.8	31.3	6.3	6.3	-	50.0	25.0	56.3	-	-	-

# ◆ インタビュー調査の概要

## 1. 高齢者への対面調査

### (1) 圏域別の実施状況

アンケート調査の補足調査として、グループインタビュー調査を中心としたヒアリング調査を実施しました。

若年

		奈良	西和	東和	中和	南和	合計
グループ数		3	3	3	4	3	16
参加者数	グループインタビュー	15	16	14	9	7	61
	自宅訪問	1	0	0	2	0	3
参加者合計		16	16	14	11	7	64

一般高齢者

		奈良	西和	東和	中和	南和	合計
グループ数		4	2	2	5	3	16
参加者数	グループインタビュー	20	10	12	18	14	74
	自宅訪問	18	13	2	4	6	43
合計		38	23	14	22	20	117

### (2) インタビューで出された主なご意見

#### ① 日常生活について

<p>日常の楽しみや健康づくりについて</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康管理については、程度や方法は様々であるが、若年、一般高齢者ともに大半の人は気を使っている。気を使っていることについては、食事、定期的な運動、規則正しい生活習慣などが多い。</li> <li>食事については、栄養のバランスや野菜を多くとるといったことを心がけている人が多い。</li> <li>運動については、日頃から定期的に運動など体を動かしている人と、ほとんど行っていない人に分かれる。特に若年では、仕事をしている人が多いこともあり、定期的な運動を行っている人が少ない。</li> <li>日常的に体を動かしている人は、個々の嗜好に合わせて活動している。多くあげられたものとしては、若年では、ウォーキング、フィットネスクラブでのトレーニング、体操などがある。また、一般高齢者では、ウォーキング、スイミング、ヨガ、体操、ゴルフなど、若年者に比べて様々な種類の活動を実践している。</li> <li>若年、一般高齢者ともに、おおむねどの人も日常の楽しみや生きがいをもって生活をしている。若いころから続けている趣味もあれば、高齢期に始めた趣味などもある。趣味の活動の場も様々で、自分の好みにあったところをうまく見つけて活動している人が多い。</li> <li>具体的な趣味として多くあげられたものは、若年者では地域でのボラン</li> </ul>
-------------------------	--



	<p>ティア、旅行、友人・仲間とのつきあい、園芸、囲碁・将棋、読書などがある。また、一般高齢者では、老人会への参加、山登り・ハイキング、地域でのボランティア、旅行、友人・仲間とのつきあい、園芸・ガーデニング、カラオケ、写真、パソコンなど多様な趣味があげられ、特に一般高齢者はたくさんの趣味や楽しみを持っている人が多い。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 比較的若い高齢者は、老人会への参加に抵抗を感じている人もみられた。多くの人の意識として、老人会は70歳くらいを過ぎてから入るといったことや、名前に抵抗を持っている人も多い。また、参加者の固定化や老人会の加入者の高齢化が顕著となっているところも出てきている。</li> <li>・ 趣味などを通じて交友関係を密にしている人も多く、趣味だけでなく、日常生活の情報交換や相談などを行っている人も多くみられた。</li> </ul>
地域とのかかわり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域とのかかわりについては、地域行事への参加や、地域の自治会の役員などを経験している人は多い。しかし、高齢（おおむね80歳以上）になるにつれ、地域とのかかわりが少なくなる傾向にある。</li> <li>・ 地域の老人会活動が活発なところは、老人会を通して、さまざまな地域活動を行っており、地域とのかかわりも比較的密となっている。</li> <li>・ 一方で、地域の高齢者の見守りや通院介助などを積極的に行っている人もいる。活動例としては、一人暮らしの高齢者の声かけや会食会、通院介助、施設でのボランティア、子どもの登下校の見守り、防犯活動、子育て支援のボランティアなどがあげられていた。</li> </ul>
日常生活で不便なこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 実際に不便を感じているといった声はあまり聞かれなかったが、最も多く聞かれたのは公共交通の不便さである。公共交通機関がほとんどなく、自家用車での生活が主となっている地域では、コミュニティバスなどの充実を望む声が多く聞かれた。</li> <li>・ 将来的な不便などについては、車の運転ができる人が多いこともあり具体的なイメージがあまりないため、不便を感じる人が少ないものの、中山間部では、日常の買い物などへの不安を持っている人もいた。</li> </ul>
不安なこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 災害時に対する備えについては、若年、一般高齢者ともに意識している人がほとんどおらず、具体的な対応について検討している人は少ない。</li> <li>・ また、日常の声かけや見守り体制を整えているところも一部の地域のみであった。</li> <li>・ 子どもと同居している人や近居にいる人は、いざという時に頼りになるのは子どもと考えている人が多い。</li> <li>・ 近所づきあいが親密な地域においては、近所の人を頼りにしている人も多い。</li> </ul>

## ②相談や介護について

<p>相談窓口の認知度や相談者の有無</p>	<p>【相談窓口の認知度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域包括支援センターの認知度はかなり低い。</li> <li>・ 他の相談窓口についても具体的にイメージできる人が少ない。</li> </ul> <p>【相談者の有無】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 相談者は配偶者や子どもと考えている人が多い。</li> <li>・ 市町村役場などに相談に行ったことがある人は少ないものの、何かあったときにはとりあえず市町村役場に相談に行くことを考えている人が多い。</li> </ul> <p>【情報の伝達について】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市町村の広報誌は読んでいる人が多い。しかし、関心がないと目にとまらず読み飛ばしてしまうことが多いため、相談窓口や民生委員などの連絡先などは冊子などで保存しておけるような形態で配布してほしいといった声が聞かれた。</li> <li>・ また、介護や認知症などについては、必要に応じて定期的に広報誌で特集などの形で情報提供されると、一番伝わりやすいという意見が多く聞かれた。</li> <li>・ その他、介護関連の情報入手は主にはテレビや新聞などのマスメディアが多いが、あまり関心がない人は、マスメディアで取り上げられていても、関心が高まるということはない人が多い。体験者の話などを交えながら具体的に話を聞くことで、考えるきっかけになるといった意見も聞かれた。</li> </ul>
<p>介護について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 介護予防や認知症予防への関心は高いが、具体的にどのようなことをしたらよいのかわからない人が多い。</li> <li>・ 介護経験の有無や身近な人の要介護者の有無などによって、介護に対する意識などが大きく異なっている。</li> <li>・ 特に介護経験のない人は、健康であり自分にはまだまだ関係がないと考えている人が多い。そのため、要介護状態になった場合、どのように対応するかが分からない人が多い。また、介護保険についても、制度の詳細について知っている人は少ない。</li> <li>・ 介護経験のある人は、おおむね介護保険の制度などについての知識をもっている。また、相談場所なども知っており、介護が必要な状態になった場合への不安もあまり感じていない人が多い。</li> <li>・ 若年、一般高齢者ともに、認知症に対する不安は大きいものの、正しい知識を得る機会が少なく、対応方法などについてもわからないため、認知症が発症したら在宅生活がおくれないと考えている人が多くみられた。</li> <li>・ マスコミなどで報じられていることもあり、希望しても施設に入所できないことに対して不安を感じている人も多くいた。一般の人への介護保険制度の普及・理解がまだまだ浸透していない。</li> </ul>

## 2. 要介護高齢者への対面調査

### (1) 実施数

要介護者ご本人や介護者へ訪問し、対面調査を中心としたヒアリング調査は以下のとおり実施しました。

	奈良	西和	東和	中和	南和	合計
訪問数	34	24	23	26	21	128

### (2) インタビューで出された主なご意見

#### ① 日常生活や相談について

日常生活について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 本人、家族ともに、現在の健康状態の維持や向上に向けて、気をつけている人が多い。</li> <li>・ 要介護度が低い人、特に要支援の人などは趣味活動を行っている人が多くみられた。</li> <li>・ 配偶者や家族と同居している人が多く、要介護者自身が日常生活に不便などを感じることは少ない。</li> <li>・ 要介護度が低い人で、家族と同居、または近居の人は、洗濯物をたたんだり、草取りなど自分でできる範囲の家事をして、家族の役にたつことを喜びとしている人が多い。</li> <li>・ 高齢者のみの世帯が多く、老老介護の世帯が多くみられた。</li> <li>・ 要介護認定を受けたときに、トイレやお風呂の手すりを付けたという人が多い。また、マンションなどの居住者は、トイレやお風呂に手すりが既に付いているところも多いため、あまり住宅改修などをしていない人が多い。山間部では、土間や水回りと居室に大きな段差があり費用が大きくなる、また、手すりをつける場所がない（和室が続き、襖や障子ばかりで壁がない）などの理由で改修していない世帯もいくつかみられた。</li> </ul>
相談窓口の認知度や相談者の有無	<p><b>【相談窓口の認知度】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 要支援の人以外は、地域包括支援センターは知っているが利用したことがない人が多い。利用している人でも、対応するケアマネジャーによって評価が異なり、かなり頼りにしている人もあれば、月1回程度の定期的な対応を事務的に行っている人もいる。</li> <li>・ 要介護度の高い人の介護者は、地域包括支援センターの認知度が高く、ケアマネジャーや主治医とも頻繁に相談してきている人が多い。「主治医がいなかったら、とても在宅では介護できなかった」「ケアマネジャーに励まされてなんとか介護できている」という意見がよく聞かれた。</li> <li>・ 民生委員についても、日常的にかかわりのある人から、全く知らないといった人まで、かかわりの程度がかなり異なっている。民生委員の活動が活発なところは、定期的な訪問などを受けているところもある。</li> <li>・ 市町村から配布された介護保険に関するパンフレットが手元にあり、事業者やサービスについての説明が詳細でわかりやすく、助かったという意見もあった。</li> </ul> <p><b>【相談者の有無】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 配偶者や家族が一番の相談者であることは一般高齢者と変わりがないが、介護に関しては、主治医やケアマネジャーを最も頼りにしている人が多い。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>他の家族を頼りにできない要介護者や介護者には、相談者が誰もいず、相談者が必要と考えていない人もいた。</li> </ul>
--	--

## ②介護について

申請のきっかけ、ケアマネジャーとの関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>要介護の申請を行ったきっかけとはさまざまだが、病気などがきっかけとなっている人は担当の医師などからのすすめで申請している人が多い。</li> <li>家族や介護者が申請した場合は、デイサービスなどサービスを利用したくて申請した人が多い。</li> <li>ケアマネジャーとの関係もさまざまで、かなり頼りにして相談している人もいれば、ほとんど顔を合わせることもなく、物足りなく感じている人もいる。</li> </ul>
サービスの利用状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>訪問介護や通所系サービスを利用している人が多い。一方で、中・重度者には医療的ケアの必要な人が多いが、医療的ケアの必要な人を受け入れてくれる事業所が少なく、サービスを利用しづらいため、より介護者への負担を高めているといったことが多く聞かれた。</li> <li>介護者がいる場合は特に、要介護者本人もできる限り在宅で生活を送りたいと考え、介護者も在宅で介護をしたいと考えている人が多いが、認知症が発症したときは施設に入りたいと考えている人が多い。要介護者本人、介護者ともに、認知症に対する知識や対処方法などを知らないこともあり、認知症への不安が大きいことがうかがわれる。</li> <li>ショートステイについては、利用希望や満足度は分かれ、比較的要介護度が低い人は利用希望が低い。一方で、要介護度の高い人や介護者があまり健康ではない場合、比較的ショートステイの利用希望が高い。また、ショートステイは早くから予約が必要で、緊急時の利用を希望する声も聞かれた。</li> <li>要介護度が高く寝たきり状態の人の介護者は、このまま在宅で介護したいと望んでいることが多い。要介護度が低くても、認知症などにより家族内でトラブルが起きている場合などは、ショートステイや施設への入所を希望する切実な意見も聞かれた。</li> </ul>
満足度	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在利用しているサービスについては、おおむね満足している人が多い。</li> <li>実際に利用することで、身体状況の改善がみられたり、維持につながっていると実感している人は特に満足度が高い。</li> <li>一方で、訪問系サービスについては、不満を感じている人もいるが、サービスの内容などについてケアマネジャーと要介護者との間で共通理解ができていないために、トラブルになるケースもみられた。また、家事援助については、水準がヘルパー自身の資質に左右されることが多く、トラブルになるケースが多い。要介護度が低く、ひとり暮らしの要介護者からは、ヘルパーの訪問時間が短すぎるという意見がいくつか聞かれた。</li> <li>予防サービス利用者の中には要介護度が低くなったことで、サービスを受けられる回数が減り、現在の状態を維持することが難しくなっている人もみられた。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護者が配偶者の場合、老老介護となっており、現在は介護者の健康状態が悪くないため成り立っているが、後期高齢者の場合、介護される側、する側ともに、状況の変化の可能性が大きく、そのための対応などについては、考えたり、相談するといったことをしていない人が多い。特に介護者が要介護者より高齢の場合、不安も強いが、自分の健康管理に特</li> </ul>

	<p>に気をつけている人が多い。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 介護者への支援を求める声もかなり聞かれた。具体的には、同じ介護者同士の交流などで、日々の苦労をねぎらったり、情報交換ができる場を求める声も聞かれた。</li><li>・ 特に住宅密集地の場合、認知症を有する要介護者の介護者から、近所の理解を求める声が聞かれた。山間部では、認知症であろうとなかろうと助け合う気風があるためか、ほとんど聞かれなかった。</li><li>・ 服用する薬によっては、妄想・幻覚などの副作用で深刻な状態に陥る場合があり、薬を変えたりやめたりすることで妄想・幻覚が治まったという体験談がいくつかあり、適宜相談できる窓口設置への希望が聞かれた。</li><li>・ 介護タクシーについては利用者が少なく、利用制約があり使いにくいなどの意見が聞かれた。</li><li>・ 配食サービスについても利用者は少なかったが、申し込み先や休止の手続きが大変、味付けはよいが堅くて食べにくいなどの意見が聞かれた。</li></ul>
--	---

### 3. 事業所への訪問対面調査

#### (1) 訪問先及び目的

介護保険サービス提供事業所への訪問対面調査として、下記の事業所を訪問し、事業の取り組み状況や介護報酬改定の影響、事業展開についての考え方などについて意見聴取を行いました。

また、事業所に従事する方にも、介護職についたきっかけや現在の状況、今後の考えなどについても意見聴取を行いました。

	奈良	西和	東和	中和	南和	合計
事業所数	16	14	5	16	11	62
サービス数	66	55	19	56	43	239

#### (2) インタビューで出された主なご意見

##### ① 事業所の経営面での取り組みや課題について

経営面での取り組みや課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 収支がトントンの事業所が多い。</li> <li>・ 複数の事業を行っているところは、他の事業でカバーしている事業所もあるが、おおむね、それぞれの事業で黒字になるように努力している。</li> <li>・ 収益を向上させるために具体的に実施していることとしては、通所系サービス、ショートステイ、施設系サービスともに、稼働率を高めるといったことをあげる事業所が多くみられた。</li> <li>・ 施設系およびショートステイを実施している事業所は、稼働率を高めるため、関連機関（地域包括、病院、ケアマネジャー）との連絡を密にして、空きが出た場合にすぐに埋められるような体制をとっている。しかし、年々、重度の入所者が増えてきており、重度者は状態の変化も激しく、対応が大変であるといった声が多く聞かれた。</li> <li>・ 通所系サービスについては、実績払いであるため、急な入院やショートステイの利用などで、サービスを提供できないことが日々発生しており、稼働率を高めて収支を良くすることがかなり難しいといった声も聞かれた。</li> <li>・ 経費削減については、日常の備品をはじめ、光熱費などの削減などを行っているところが多い。</li> <li>・ 複数の事業所をもっているところなどは、備品などの共同購入を行うことで経費削減を行っているところもみられた。</li> <li>・ その他、作業の効率化を図り、時間外労働を減らして人件費を削減するといった工夫もみられた。</li> </ul>
職員確保・定着のための取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人材の確保について、あまり苦勞していないという意見と、介護関連サービスは全体的に給与が低いため、確保にかなり苦勞しているといった意見に分かれた。</li> <li>・ 苦勞していないという事業所については、職員の勤続年数が長いところが多く、また、新規の職員も知っている人から勧められた、誘われたという人が多い。また、日々の研修体制が整っているところが多くみられた。</li> <li>・ 一方、確保が難しいところについては、若い人を採用したいと考えていても、介護を学ぶ若者が少なく、人材が不足していると感じていたり、報酬が下がる、あるいは変わらない場合、職員の給与を定期的に</li> </ul>

	<p>上げることが難しく、ある程度の年齢の人しか採用しにくいという意見が聞かれた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定着の取組みとしては、できるだけ働きやすい環境を作るため、休暇をとりやすくする、時間外労働を出来るだけさせないといったことをしている。</li> <li>・ また、ある程度の規模以上の事業所では、従事者のライフスタイルに合わせて配置転換や就労時間の配慮などを行うなどの工夫を行っている。</li> <li>・ 新規採用から2～3年目が退職しやすいため、プリセプターシップ（今年入社した社員に対して昨年かその前に入社した職員が教育、相談する制度）を取り入れたり、アドバイザーを設けるなど教育体制に力を入れているところもみられた。</li> <li>・ その他、事業所内で保育所などを設置するといった工夫を行っているところもある。</li> <li>・ 夜勤に対する負担を感じている職員が多いこともあり、夜勤手当の充実を図っているところが多くみられた。</li> </ul>
業務の効率化のための取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事務作業のOA化を進め、作業効率を高めるようにしているところが多い。</li> <li>・ また、情報化を進めることで、情報共有が図りやすいといった意見も聞かれた</li> </ul>
サービスの質の確保、充実などのための取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職員の研修を手厚くすることで、個々の資質向上を図り、サービス全体の質を高めているところが多い。一方で、単独事業などは、事業所内だけで研修を行うには負担を感じているところもあり、県などに多様な研修の実施を希望している。また、研修受講に対しても業務の一環としてとらえ、就業時間として認めているところも多い。</li> <li>・ 研修だけでなく、資格取得を支援する事業所も多い。具体的な取組みとしては、有資格者が資格取得のために講義を行ったり、勉強会の開催、受験料や資格取得者の登録料の負担軽減を行っている。また、有資格者に対して、資格級などを設けているところもあり、さまざまな方法で、資格取得の支援を行っている。</li> <li>・ 資格取得だけがサービスの質の向上につながるわけではないものの、一定水準以上の質を保つために必要と考えている事業所が多い。また、有資格者が多くなることで、サービス提供体制加算なども取りやすくなることから、積極的に支援している事業所が多い。</li> <li>・ 利用者本人や家族からの要望やクレームに対しては、個々の職員が受けるのではなく、サービス提供責任者や相談員が受けるようにし、個々の職員の負担軽減を図っているところが多い。</li> </ul>
医療面での対応に関する課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 在宅サービス、入所系サービスともに、医療ニーズの高い利用者が増えている一方で、対応できる看護職員が限られており、積極的に受け入れているところは少ない。</li> <li>・ 特に胃ろうの人や透析などが必要な人を受け入れられる事業所が少ない。</li> <li>・ 現在の配置基準で医療ニーズの高い利用者を増やすことは難しく、今後受け入れを増やす場合は、医療機関との連携・協力体制の強化などが必要と考えている事業所もある。</li> </ul>

## ②介護報酬の改定の影響や介護報酬算定加算等について

介護報酬の改定の影響	<ul style="list-style-type: none"> <li>介護報酬の改定により、上がったところについては、やや楽になったという声もきかれるが、ほとんどがあまり影響を感じていない</li> </ul>
介護報酬算定加算について	<ul style="list-style-type: none"> <li>加算については、できるだけ加算の申請を行うという考えの事業所と積極的には加算申請を行わないという考えの事業所に分かれる。</li> <li>加算の申請を行っているのは施設系サービスのところが比較的多い。</li> <li>人的体制の加算については、基準をみたせば申請をしているところが多いが、有資格者の割合の維持が難しく、規定に達してもすぐには申請しないといったところもある。割合を維持するため、介護福祉士やケアマネジャーなどの資格取得を奨励しているところが多くみられた。</li> <li>それ以外の加算については、加算をすることで利用者への負担が増えることになるが、利用者は利用料に対してはシビアであることから、基準を満たしているから加算を申請するということはしづらいのが実情である。</li> <li>また、加算にかかる事務的負担がかなり大きく、加算額に見合わないため、行わないという事業所が多い。</li> </ul>

## ③介護職員処遇改善交付金について

介護職員処遇改善交付金の申請状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>説明会を実施しているところもあるが、対象の職種が限られていることから、掲示と個別説明を行っているところが多い。</li> <li>介護職に対して、一時金として支払うところもあれば、職種を問わず全員に支払うところもある。</li> <li>職種を限定することに対して、不満をもっている事業所がかなり多い。</li> </ul>
【申請している事業所】 処遇改善の内容などを具体的に	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本給を上げたところも一部でみられたが、期間限定ということもあり、一時金として支給するところがほとんどである。</li> <li>対象は、介護職に限定しているところと、全職員（正規社員、パートとも）を対象とするところに分かれる。看護職や相談員でも介護の仕事を手助けすることもあり、介護職だけに限定せず、全員を対象としてほしいといった声が多く聞かれた。</li> </ul>
職員への周知の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>説明会や朝礼などの場で周知しているところが多い。</li> <li>少ないものの、掲示板に張り出すだけといったところもあった。</li> </ul>
【未申請の事業所】 申請をしていない理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象者が少ない、手続きが煩雑ということでまだ申請していないところもあった。</li> </ul>



#### ④介護従事者

<p>介護に従事したきっかけ</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 40代、50代の女性は、知り合いに誘われたり、勧められて始めた人が多い。就業先についても、知り合いの紹介という人が比較的多い。</li> <li>・ 若い人は、介護に関心があり始めた人が多く、資格を取得して就職した人が多い。</li> <li>・ 反面、若い人のなかには、介護や福祉に関心があったわけではないが、安定した職業として応募し、就職した人も幾人かいた。</li> </ul>
<p>介護のやりがい</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 利用者からの「ありがとう」といったねぎらいの言葉や、実際に状態がよくなる姿をみると、日々やりがいを感じるという声が多数きかれた。</li> <li>・ 利用者になぐさめられたり、癒されていると感じている人もいた。</li> <li>・ 職場の同僚とチームを組み、どのようにケアするか話し合い、方針を決め、チームで対応し、結果がよいときにはチームで喜ぶというところに大きなやりがいを感じている人もいた。</li> <li>・ ほとんどの人が介護の仕事が好きで、楽しいと感じている。</li> </ul>
<p>現在の不安、将来について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 利用者や家族との関係で不安や不満を持っている人はほとんどいない。</li> <li>・ また、職場の雰囲気の良いところが多く、職場の人間関係で不安を持っている人は少ない。</li> <li>・ 入所施設の夜勤については、万一のことが起きたらと不安をいっている人が多い。</li> <li>・ 資格取得やスキルアップへの意欲が高く、研修への参加など自己研鑽を行っている人が多い。</li> <li>・ 人的配置に余裕があるところは少なく、特に正職員は休暇を取りづらいと感じている人が多い。休暇取得は職場の雰囲気やマネジメントする人によるところが大きい。ただし、パート職では、子どもの学校の都合に合わせて勤務できるので、他のパートより条件がよく助かるという人もいた。</li> <li>・ 大半の人は、仕事の内容に比べて賃金が低いと考えている。特に若い年代の人は、介護の仕事は好きなものの賃金が低いことから、このまま介護の仕事が続けられるか不安を感じている人が多い。 また、せっかくよい人間関係が築けている職場でも、賃金の低さから同僚がやめてしまうのではないかと不安をもつ人もいた。</li> <li>・ 将来も続けたいという人が多いが、体力的に高齢になるとつらいといった声もきかれた。一方で、景気がよくなり、給与が高いところがあれば、職種に関係なく転職したいという声も聞かれた。</li> <li>・ 一般の人の介護に対する理解がまだまだ浅いこともあり、介護への理解を深めてほしいという声が多く聞かれた。</li> <li>・ 介護職については、テレビの報道番組などで賃金が低いことばかりが取り上げられ、仕事の素晴らしさを伝えるものがないという意見が聞かれた。仕事のやりがい、すばらしさを伝えることさえできれば、就職を希望する若い人が飛躍的に増えるのではないかという意見も聞かれた。</li> </ul>

